

お茶の水女子大学
SDGs 推進研究所

2022 年度 事業報告書



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

はじめに

このところ学内外のアントレプレナーシップ関連のプログラムに出掛けていくことが多く、それらの講義の中で、**Big Picture** という言葉を聞くことがあります。文字通り、大局観、全体像、といった意味なのですが、アントレ講義ではもう少し積極的な企図で使われます。

つまり、起業やスタートアップにはタネとしての新しい技術やビジネスのアイデアが求められる訳ですが、それ以上に、そのアイデアがどのように社会の中で生かされて、また同時に、社会全体を変えていく力があるか、ということを見極めていく必要があるということです。アイデアそのものもとても重要なのですが、それが実装される「枠」としての社会がどのようなもので、どのように変わっていくかということも同時に考える必要があるということです。

似たような考えに、アイデアよりも先に社会の在り方のほうをまず考えるバックキャストという手法があります。あるべき未来の社会の姿を先に設定して、それに向かって、具体行動やアイデアを設定していくというやり方です。いずれにしても私たちを包んでいるところの箱としての社会を考えることが重要であること、そして、それを大きく描くほどイノベーションも大きく考え得るという訳です。

Big Picture はこのような未来の社会の見取り図を考える際に、より大きく大局的に全体像をとらえてみましょうという時のキーワードです。未来を考えると、ややもすると現在の延長線上に未来があると考えがちですが、それではあまり大きな **Big Picture** を描くことができません。社会の発展は必ずしも連続的で **incremental** (漸進的) ではなく、不連続な変化もしばしば経験するからです。ですので、少々、破天荒で、ちょっとあり得ないような、SF 的な未来のようであっても **Big Picture** として描いておくことが未来へ向けた大きなイノベーションの議論には有効なのです。

SDGs の示すゴールは、一見、現在の延長線上にあり、前進し続ければ達成できると考えがちです。しかし、社会の変化はランダムで素速く、イノベーションを興しながら進んで行かなければなりません。是非、発想の転換を意識して、より自由に **Big picture** を描いてみてはいかがでしょうか。想像力を膨らませ、意外な発想を楽しみながら、私たちの社会の未来図を描き変化を起こしていきましょう。

2023年3月31日

サステイナブル社会実装機構長 太田裕治

お茶の水女子大学では第4期中期目標画に、持続可能な社会実現のためのSDGs研究の推進を掲げ、サステイナブル社会実装機構のもとに、SDGs推進研究所が2022年4月に設立されました。

「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションとするお茶の水女子大学は、大学の設立以来150年にわたり、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきた伝統と実績があり、大学はその存在そのものがSDGsのゴール5「ジェンダー平等を実現しよう」とゴール4「質の高い教育をみんなに」です。これは本学にとっては、あえて目標と掲げるまでもないごく当たり前のことであり、学内にはすでに特色あるジェンダー研究所やグローバルリーダーシップ研究所、さらには新設のジェンダー・イノベーション研究所が、この分野の研究推進を牽引しています。そのため、新たに設置するSDGs推進研究所は、他大学には無い本学のもう一つの特色である「生活者起点」からの研究推進と、学内はもとより附属学校園とも連携しながら、研究教育の成果を社会へ繋げていく場と位置づけ、SDGsで最も重要なゴール17の「パートナーシップで目的を達成する」ために、生活者（消費者）に対する企業、地域、自治体などととも、皆で知恵を持ち合って、喫緊の課題を解決するプラットフォームとして機能することを目指しています。

初年度を終了し、ここにその取組状況と成果をご報告いたします。キックオフシンポジウムでは、学長先生のご配慮のもと、多くの来賓をお招きすることができ、本学のSDGs推進研究所の特色と趣旨を、官公庁や自治体、企業などに広くご理解・共感いただきました。またSDGsを自分ごととして捉えている若い世代、自分たちが学んだことを社会に発信したいという意欲を持つ多くの学生たちの参加は、学内のSDGs推進だけでなく、大学間連携や学外への発信においても力強い戦力となってくれました。

初年度はまず研究所の基盤作りと、これからの本学のSDGs生活者起点研究開拓、および学内外のSDGs実践に向けて様々な種まきが終わったところです。次年度以降もこれらの芽が大きく育って行くよう努めて参ります。

引き続き皆様のご指導とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2023年3月31日
SDGs推進研究所長 藤原葉子

【 目 次 】

はじめに

I. SDGs 推進研究所 2022 年度事業概要	1
1. 研究所の概要	
2. 2022 年度事業概要	
II. 研究所の設置	6
1. 2022 年度構成メンバー	
2. 研究所の取り組み発信のための基盤形成	
(1) 公式 HP、ロゴ、パンフレット	
(2) 公式 SNS	
3. 外部取材対応	
(1) 学内広報	
(2) 学外広報	
III. 研究部門	11
1. 2022 年度プロジェクト研究成果報告	
2. SDGs 関連研究成果	
(1) 論文一覧	
(2) 学会等活動	
(3) 獲得した外部資金	
(4) 企業との共同研究	
(5) 特許	
IV. 教育部門	29
1. 三菱 UFJ 環境財団寄付講座	
2. 2022 年度 SDG-UP 共同教育サーティフィケート・プログラム (パイロット事業) 「国連 SDGs 入門」	
3. 国連大学本部大学間連携活動 Big IDEAS:SDGs に関する対話シリーズ	
4. 附属学校園との連携教育	
V. 企画調整部門	
1. シンポジウム・セミナーの開催	31
(1) 研究所開設記念キックオフシンポジウム	
(2) 台北医科大学との国際共同セミナー	

2. 産学連携	40
(1) 日本工営(株)と連携協定による活動	
(2) (株)セブン&アイ・ホールディングスと SDGs に関する包括的連携協力に係る協定締結	
(3) 日本工営(株)、(株)セブン&アイ・ホールディングスを中心とした産学連携プラットフォーム構築	
3. 地域連携	43
(1) 文京区内大学サステナビリティ関連取り組み紹介のための交流・意見交換会への参加	
(2) 東京大学との GX に向けた地域連携モデルの模索	
4. 国際連携	45
(1) 台北医科大学との Memorandum of Understanding (MOU) 締結	
5. 附属学校園との連携	46
(1) フードドライブ	
(2) 附属学校授業参観・公開研究会参加	
6. アウトリーチ活動	47
7. 学内 SDGs 推進活動	53
(1) THE インパクトランキングエントリー	
(2) SDGs 学内認知度初期値設定のための調査	
(3) OCHA-SDGs 学生委員会設立	

【資料】

- ①国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則
- ②お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所パンフレット
- ③キックオフシンポジウムポスター
- ④2022 年度 SDGs 認知度調査 中間報告書

I. SDGs 推進研究所 2022 年度事業概要

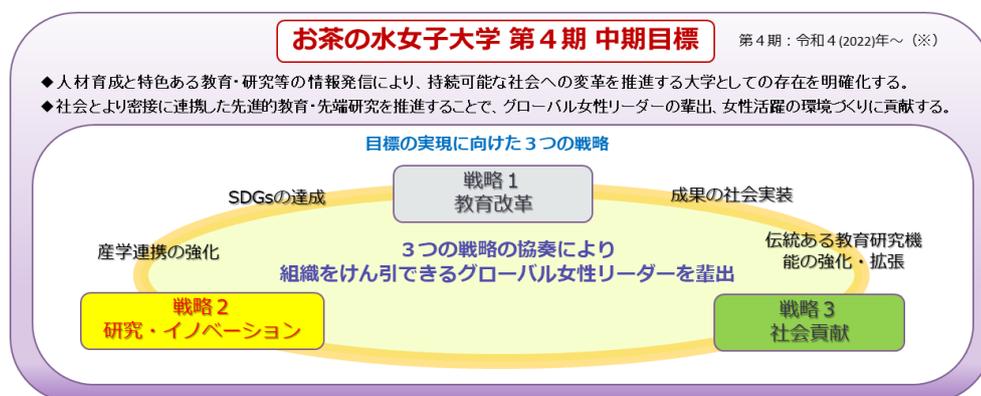
1. 研究所の概要

SDGs とは

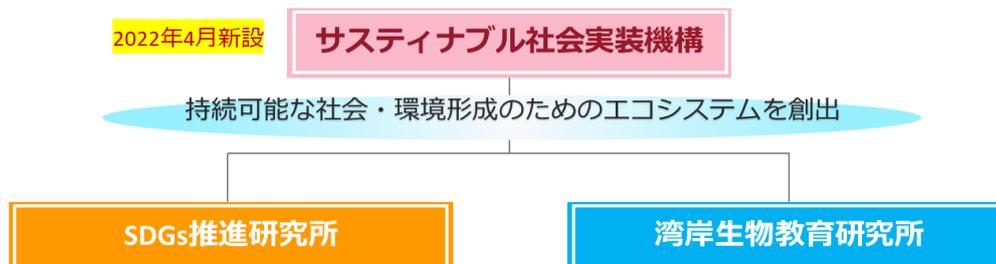
SDGs とは Sustainable Development Goals (サステイナブル・ディベロップメント・ゴール；持続可能な開発目標) を表す。2015 年 9 月の国連サミットにおいて全会一致で採択された 2030 年までによりよい世界を目指す 17 個の目標と 169 の具体的行動からなる。地球上の「誰一人取り残さない」という理念のもと、開発途上国と一緒にあって先進国も積極的に取り組んでいる。

研究所設立の経緯

設立以来「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションとして掲げ、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきたお茶の水女子大学の理念は SDGs の目指す理念と合致するものである。持続可能な社会の創成には、社会全体で SDGs の達成を推し進めることが必要であり、そのために行動できる人材の養成が急務であることから、SDGs 教育・研究プログラムを企画・実行していくための組織「サステイナブル社会実装機構」が 2022 年 4 月に新設された。サステイナブル社会実装機構は、SDGs 推進研究所と湾岸生物教育研究所の 2 施設から構成される。



戦略2：大学の伝統・特色を活かし持続可能で質の高い生活を目指した研究・イノベーション



(※) 中期目標：文部科学大臣が6年間にわたって国立大学法人が達成すべき業務運営に関する目標を中期目標として定め、これを国立大学法人に示すとともに公表するもの。第1期 平成16(2002)年度～、第2期 平成22(2010)年度～、第3期 平成28(2016)年度～

サステイナブル社会実装機構及び SDGs 推進研究所設立の経緯

研究所の組織構成

研究所は学内の教員や客員研究員から構成され、研究所の役割は、下図のように、研究部門、教育部門、企画・調整部門として3つに分けられている。研究部門で行われる研究を、教育部門において大学や附属学校園の教育に展開していく。さらに、企画・調整部門においては、SDGs 活動の支援、広報、学内外の連携調整のほか、THE インパクトランキング (P.53) エントリーへの対応を行う。これらの3つの役割全体を統括することで、研究成果や教育実績を社会実装し、本学における SDGs 推進を機動的に進める。

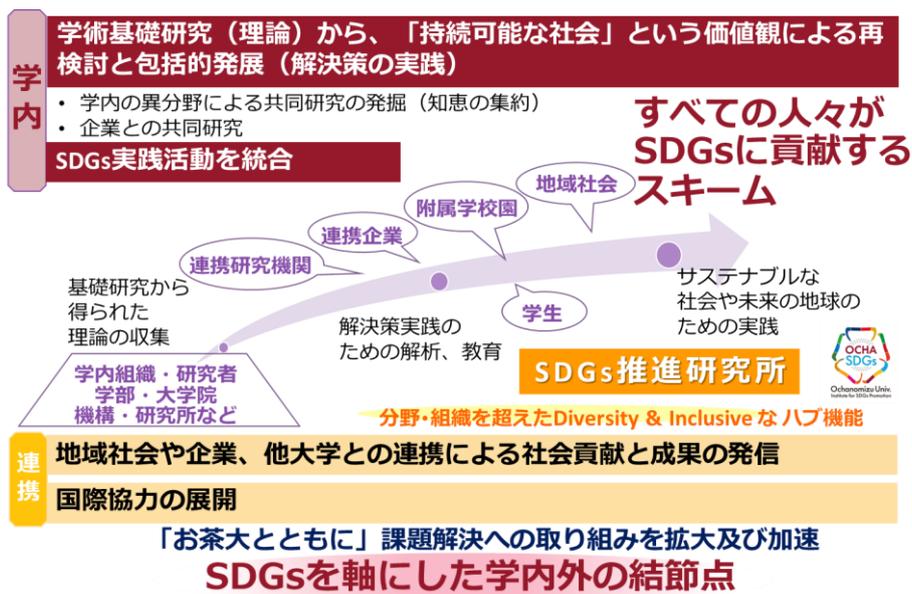


* () 内の数字は所属する教員の人数

研究所の組織構成

研究所のミッション

持続可能な未来の構築に向けて世界的な動きが加速する今、SDGs 推進研究所は、本学の特色である生活科学を中心とした研究実績を社会に実装するための統合拠点となると同時に、高い問題意識・率先した行動力を持つ未来のサステナビリティリーダーとなる人材の育成を担う。本研究所を起点として、SDGs 教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体で SDGs の達成を推進していくための人材養成を行う。

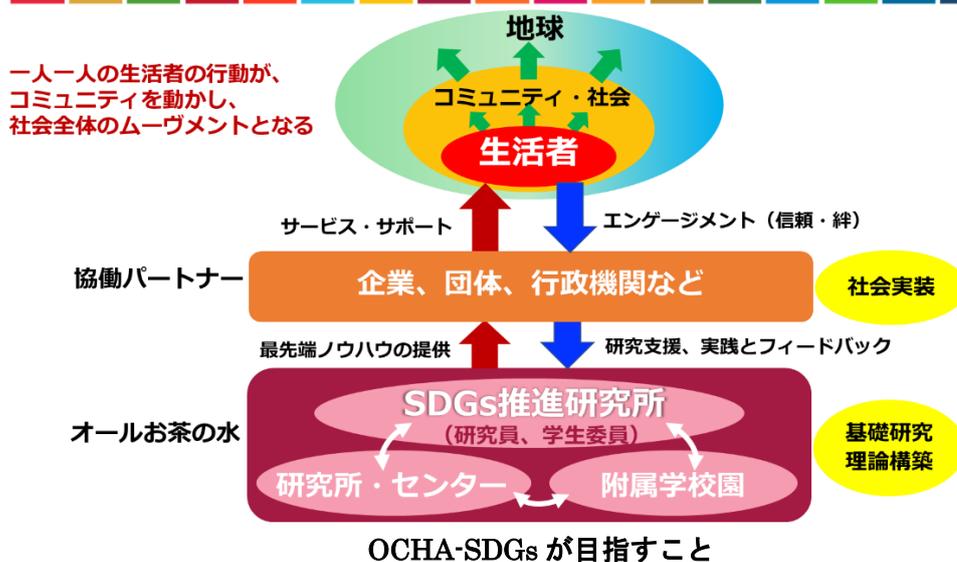


研究所のミッション

SDGs 推進研究所が目指すこと

SDGs 推進研究所では、お茶の水女子大学で展開される SDGs に向けた諸活動を「OCHA-SDGs」と名付けることとした。この SDGs 推進研究・活動のキーワードは「生活者」である。SDGs の実現には長期的な視点のもと、生活者一人一人が足元から着実に推進していくことが重要と考えたためである。まずは、食品ロスや資源リサイクル、エコシステムや行動科学、消費者教育といった身近なテーマに基づき、SDGs に関心の高い学生委員と共に、持続可能な社会への貢献を目指した生活者起点の研究・活動を推進中である。

生活者起点のSDGs (OCHA-SDGs)



2. 2022 年度事業概要

研究所の設置

本研究所は、学内の SDGs 活動を推進する拠点として 2022 年 4 月に開設され、初年度の活動を開始した。特任教授 1 名、特任リサーチフェロー1 名、特任アソシエイトフェロー1 名に加え、アカデミック・アシスタント数名を採用して研究所の運営体制を整備した。37 名の兼担による教職員が所属し、研究活動を行った。その他、ロゴの作成、HP の開設（日本語・英語）、パンフレット作成、公式 SNS の開設等を通じて、本研究所の取り組みを発信するための基盤を形成した。

研究部門

2022 年度は、本学における SDGs 研究のシーズ開拓および企業との共同研究契約締結を目的とした。また、SDGs 推進研究所プロジェクト研究として、研究所員内で実施可能な共同研究テーマを募集し、4 件に対し研究費を助成した。そのほか、研究所に所属する研究者による科研費研究プロジェクトが 25 件、その他の外部資金による研究プロジェクトが 22 件、学内競争的資金による研究プロジェクトが 8 件、計 55 件が進行している。

教育部門

「21 世紀型文理融合リベラルアーツ¹」のなかに、三菱 UFJ 環境財団寄附講義による、SDGs 関連科目として、生命と環境 7「生活と環境」、生命と環境 10「環境問題と社会」生命と環境 23「海洋環境と生物多様性（実習）」を開講し、本研究所の研究員が講義等を担当した。また、国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム (SDG-UP) の参加大学とともに、共同教育サーティフィケート・プログラム（パイロット事業）「国連 SDGs 入門」に、「ジェンダー・人権^②」科目を供与した。本学からは学生 2 名が受講し修了証が授与された。加えて、附属学校園との連携カリキュラム構築等のため、附属学校の家庭科教員を中心とした意見交換と家庭科、社会科の授業参観を行った。

¹ 平成 20 年度(2008 年 4 月)から始動した、21 世紀型文理融合教育プログラム。従来の教養教育を改革し、学術的&国際的視野をもち、コミュニケーションを通じて問題解決ができる実践力を育むことを目標に掲げている。

企画・調整部門

2022年度は、1件のシンポジウムを開催した。

研究所開設記念キックオフシンポジウムでは、会場とオンライン視聴合わせて376名の参加があった。多方面で活躍する参加者に対し、「OCHA-SDGs」のコンセプトを周知させることができ、産官学連携の認識を深めることにもつながったと判断された。

その他、産学連携・地域連携・国際連携に幅広く活動した。また、今年度、本学として初めてTHEインパクトランキングにエントリーした他、学生委員会が設立され、学生によるSDGs推進活動の基盤を形成した。

II. 研究所の設置

1. 2022 年度構成メンバー

2022 年度構成メンバー（部門長及びスタッフ）

職位		氏名	専門分野
機構長	副学長	太田 裕治※	生体医工学
研究所長	教授	藤原 葉子※	栄養化学
副所長 研究部門長	准教授	中久保 豊彦	環境評価学
プロジェクト管理者 企画・調整部門長	特任教授	笠松 千夏※	官能評価 食嗜好学
教育部門長	教授	刑部 育子※	保育学
特任教員	特任リサーチフェロー	河寄 唯衣	公衆栄養学
	特任アソシエイトフェロー	溝添 倫子	環境工学
客員教授		小中 鉄雄	国際協力学
客員研究員		菊池 淳子	国際協力学
研究協力員		伊藤 さやか	国際協力学
		有友 愛子	家庭科教育
事務局	アカデミック・アシスタント	飯塚 陽子	
	アカデミック・アシスタント	中村 天女	
	アカデミック・アシスタント	野崎 慈子	
	アカデミック・アシスタント	湯舟 由美	
	アカデミック・アシスタント	小野澤真理子	

※は運営委員を兼ねる

2022 年度構成メンバー（研究員等）（五十音順）

職位	氏名	専門分野	
学内研究員	教授	赤松 利恵※	公衆栄養学
	教授	斎藤 悦子※	生活経済学 生活経営学
	教授	須藤 紀子	公衆栄養学
	教授	長澤 夏子	建築計画学
	教授	浜野 隆	教育開発学 比較国際教育学
	教授	水野 勲	数理地理学 経済地理学
	教授	森光 康次郎	食品化学
	教授	矢島 知子	有機化学
	教授	由良 敬	生物物理学
	准教授	荒木 美奈子	国際協力学
	准教授	市 育代	栄養化学
	准教授	植村 知博	植物細胞生物学
	准教授	近藤 恵	自然人類学
	准教授	河合 英徳	建築環境工学
	准教授	新實 五穂	服飾史
	准教授	新田 陽子	調理科学
	准教授	長谷川 直子※	自然地理学 陸水学
	准教授	藤山 真美子	デザイン工学
	助教	雨宮 敏子	材料物性
	助教	神山 翼	気象学
助教	佐藤 瑤子	給食経営管理	
助教	野田 響子	食品貯蔵学	
運営委員会委員	教授	清本 正人	発生生物学 海洋生物学
	准教授	佐藤 敦子	環境発生進化学

※は運営委員会委員を兼ねる

2. 研究所の取り組み発信のための基盤形成

(1) 公式 HP、ロゴ、パンフレット

研究所の取り組みを発信するプラットフォームとして公式 HP を開設し、研究所の SDGs 推進活動（略称「OCHA-SDGs」）を学内外に発信するためのロゴやパンフレットを作成した。

パンフレットは巻末資料として掲載。



OCHA-SDGs ロゴ

研究所 HP <https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/index.html>

(2) 公式 SNS

1) Twitter

SDGs に関する情報発信の場として 2023 年 1 月 30 日に学生委員が開設した。OCHA-SDGs としてアピールできる取り組みを学内外に周知できるように学生主体としながらも、職員含めた投稿による内容の多様化や、より高い更新頻度をめざすこととした。2022 年度の更新実績は 30 件であった。



公式 Twitter のトップ画面

2) Instagram

2022 年 6 月に開設した。公式概念としての SDGs を簡単に説明した上で、本学における SDGs に関する問題やそれらへの取り組みについて、写真を主素材に紹介することとした。Instagram では、投稿したい写真の下に文章を添えられる仕様となっており、「伝えたいこと」・「実施したこと」を 1 枚～複数枚の画像で表現できる。そのため、活字で占められる大学 HP や Twitter に比べ、本研究所や学生委員の取り組みの様子をよりリアルにイメージさせることを企図した。投稿は学生委員広報班が主に担当しており、他大学訪問や定例会、勉強会等のあらゆる学生委員の活動紹介が行われた。その他、目標 1~17 それぞれに関連した学内での取り組みや、各目標に関する学内研究者の研究成果について紹介した。



公式 Instagram のトップ画面

3. 外部取材対応

メディア等からの取材対応を通じて、本研究所の理念や、今後の活動に関する展望を学内外に発信した。

(1) 学内広報

学内取材対応先一覧

媒体	内容
大学案内	研究所の紹介
第73回徽音祭実行委員会	研究所の紹介

(2) 学外広報

学外取材対応先一覧

媒体	内容
国際開発ジャーナル	キックオフシンポジウムの広報
文部科学情報 週刊文教ニュース	研究所の紹介
文部科学 教育通信	研究所の紹介
PRESIDENT / PRESIDENT Online	研究所広告の掲載



Sponsored | 2023年の注目

2022/12/23 9:30

生活科学の研究の蓄積や附属学校園の存在を生かしSDGs分野で企業連携を推進

「SDGs推進研究所」を基盤に、企業と共に未来の生活者の価値を創出

プレジデント 2023年1月13日号

P タイアップ広告制作グループ

提供元：お茶の水女子大学

2022年4月に設立されたお茶の水女子大学の「SDGs推進研究所」が企業から注目を集めている。「大学や他社と知恵を出し合い、SDGs活動を進められる」「自社にはない価値観に出会える」などが理由だ。同研究所を設立した背景や狙いについて、所長を務める藤原葉子教授と副学長で研究員の一人である赤松利恵教授に聞いた。

一つの社会課題を多様な視点から考察できる

「お茶の水女子大学では衣食住をはじめ私たちの生活に関わる多様なテーマを文理融合

問い合わせ先

お茶の水女子大学
お茶の水女子大学HPはこちら

お茶の水女子大学SDGs推進研究所
との連携に関心がある方はこちら

お茶の水女子大学のSDGsへの取組
はこちら

学外広報の例

Ⅲ. 研究部門

1. 2022 年度プロジェクト研究成果報告

SDGs 推進研究所の趣旨・目的に沿った研究活動を活性化させ、企業や他機関と連携した共同研究・開発を促進することを目的として、研究所員に対しプロジェクト研究費を支援した。2022 年度は、4 件の応募があり、全件採択された。

採択された研究課題

所属	職名	氏名	課題名
基幹研究院	教授	矢島 知子	重金属を用いない環境適応型含フッ素ジアミンモノマーの合成法の開発
基幹研究院	准教授・ 助教	市 育代・ 佐藤 瑤子	乳幼児の不適切な栄養摂取がもたらす代謝異常と食の実態に関する研究
基幹研究院	准教授	中久保 豊彦	太陽光発電と連結する下水処理場におけるエネルギーマネジメントモデルの構築
基幹研究院	准教授	新田 陽子	子ども食堂での食品ロスの有効活用に関する研究

令和4年度SDGs推進研究所学内共同研究 成果報告書

研究者名： 矢島 知子

研究課題名： 重金属を用いない環境適応型含フッ素ジアミンモノマーの合成法の開発

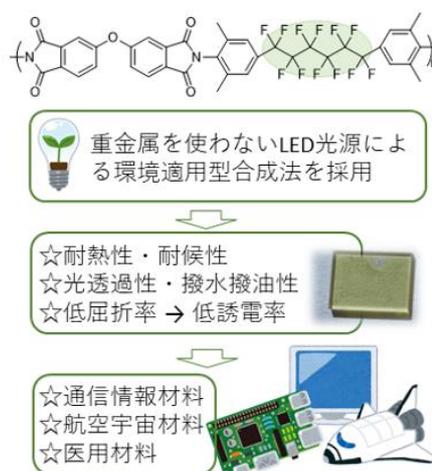
フッ素を有するポリイミドは、日本を代表する低誘電・透明材料であり、次世代型構造の開発は重要な課題となっています。私たちの研究室では新しいフルオロアルキレン鎖で結合したジアミンモノマーを合成し、それを用いたポリイミドの開発を行っています。この中で、得られたポリイミドは十分な耐熱性を維持したまま、柔らかく、低誘電性を有することを見出しており、通信情報、航空宇宙材料などへの展開が期待される材料です。

類似のモノマーはこれまで多量の銅を用いたヨウ素を有するアニリンとのカップリングによる合成が報告されています。これに対し私たちは環境負荷の大きな重金属を用いず、低エネルギーなLED光源を用いたラジカル反応による合成法を見出してきました。この反応では反応前駆体アニリンにヨウ素は必要ないことから、様々なアニリンに適用可能です。しかしながら、光反応では反応の大量合成が難しいという問題点がありました。

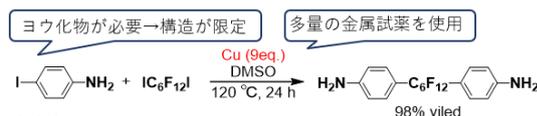
そこで本研究では、大量スケールでの合成に適用できる、安全な金属を用いない環境適応型の合成法の開発を計画し、実施しました。その結果、亜次チオン酸を用い、光反応で用いた溶媒よりも環境適応型の溶媒を用いた反応において良好な収率で望む生成物が得られることを明らかにしました。これは、光を用いることもなく、大量スケールでの合成に適用できる反応です。

この研究は、東ソー・ファインケム株式会社との共同研究に繋がり、すでに特許出願(特願 2023-063863)を行っています。

このような環境にやさしい化学物質の合成法の開発は、安心・安全な方法で有用な化合物を世の中に送り出すことのでき、より便利な世界を提供できるSDGsに欠かせない分野となっています。今後、このモノマーを重合することにより、より高速通信に対応した材料など便利な材料の開発を行っていきます。



これまでの合成法



我々の合成法



今回提案の合成法



研究者名： 市 育代・佐藤 瑤子

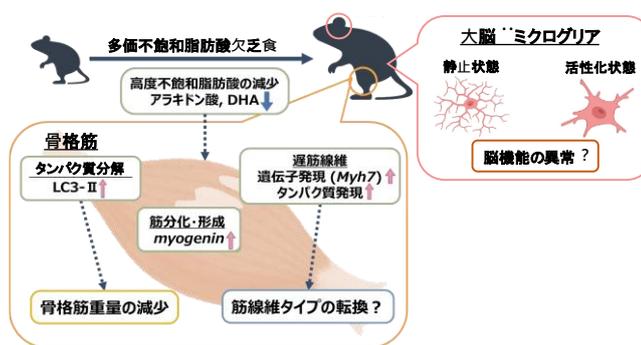
研究課題名： 乳幼児の不適切な栄養摂取がもたらす代謝異常と食の実態に関する研究

乳幼児は発育が最もさかんな時期であり、不適切な栄養摂取はその後の成長・発育に重大な影響を及ぼす。本研究では、乳幼児の不適切な栄養摂取に関して、以下の2つの研究を行った。まず、乳幼児の栄養摂取について、これまで重要視されていなかった脂質に関して、欠乏の観点から動物実験を行った。次に、乳幼児期には消化のよいもの、薄味のもの、食品の切り方や硬さにも配慮する必要があるが、離乳食や幼児食におけるテクスチャーや栄養素の実態は、高齢者などの嚥下食などに比べると不明な部分が多い。2つめの研究として、これまで明確にされていなかった幼児の食事において、特に食塩量の実態を明らかにすることで、幼児期における新たな食の問題を提示する。

研究①：出生時から高度不飽和脂肪酸欠乏にあるマウスの骨格筋及び脳機能の変化

食事からの摂取が必要な多価不飽和脂肪酸の中でも、炭素数と二重結合が多い高度不飽和脂肪酸は、生体膜の機能や生体の恒常性維持に重要である。乳幼児期はアラキドン酸とDHAなどの高度不飽和脂肪酸の摂取が精神発達に重要であり、特にDHAが出生時から欠乏すると脳の神経発達に異常が見られることが報告されている。我々はこれまで、脂肪酸不飽和化酵素FADS2欠損マウスに多価不飽和脂肪酸欠乏食を与えると高度不飽和脂肪酸が著しく減少することを報告している。そこで、出生時から高度不飽和脂肪酸を欠乏させたFADS2欠損マウスにおいて骨格筋や脳の機能異常が生じるかを調べた。まず、高度不飽和脂肪酸が欠乏したマウスでは、骨格筋(腓腹筋)重量が減少し、筋原線維の乱れが観察された。そして、このマウスでは骨格筋においてタンパク質の分解が亢進している可能性が示唆された。骨格筋繊維はミオシン重鎖のアイソフォームで分類できるが、高度不飽和脂肪酸欠乏マウスでは遅筋タイプのタンパク質発現が増加していることも確認できた。したがって、出生時より高度不飽和脂肪酸が欠乏したマウスでは、骨格筋の萎縮と速筋線維から遅筋線維への転換が生じている可能性が示唆された。類似の表現型が見られる病態として飢餓・グルココルチコイド投与・サルコペニアなどがあり、高度不飽和脂肪酸の欠乏はこれらの病態における骨格筋の萎縮にも影響を及ぼす可能性がある。

また、出生時から高度不飽和脂肪酸欠乏にあるFADS2欠損マウス的大脑皮質では高度不飽和脂肪酸であるアラキドン酸とDHAがともに減少していた。そして、脳の免疫組織化学染色より、中枢神経系の免疫応答や神経発達に重要なミクログリアが肥大化し、突起が短い傾向にあることが確認できた。これらの結果より、高度不飽和脂肪酸欠乏マウスの脳ではミクログリアが活性化し、脳機能に異常が生じている可能性が示唆された。



研究① 高度不飽和脂肪酸欠乏による骨格筋及び脳機能の変化

本研究の成果より、乳幼児において脳や骨格筋機能に異常をきたさないためには、アラキドン酸やDHAなどの高度不飽和脂肪酸が欠乏しないよう食事からの摂取を推奨することの必要性が示唆された。

研究②：幼児期の食事の実態に関する研究

幼児期の食経験は将来の食嗜好や健全な食生活に大きく影響することが知られている。食塩摂取量の低減は我が国における重要課題であり、幼児期からの食塩摂取量の低減や適切な食塩濃度に関する味覚教育が重要であると考えられる。本研究では、中食で提供されている「お子様メニュー」からの食塩摂取量を把握し、その課題を明らかにした。

お子様メニュー（8品）及び大人向けメニュー（4品）をフードデリバリーサービスにて収集し、料理ごとに食塩量を算出した。お子様メニューは大人向けメニュー品と比較して食塩量は低かったものの、2品のお子様メニューでは食塩濃度が高かった。したがって、中食においてお子様向けメニューであるにも関わらず、大人向けに比べて食塩濃度が高い料理が提供されている場合があることが明らかになった。また、本研究で測定したお子様メニューには、日本人の食事摂取基準（2020年版）に示されている8～9歳の1日の食塩摂取量の目標量を上回るメニューもあることがわかった。

本研究の成果より、幼児において中食を利用する場合、大人よりも食塩濃度が高い料理が提供されている可能性があることを考慮して利用すべきであることがわかった。

令和4年度SDGs推進研究所学内共同研究 成果報告書

研究者名： 中久保 豊彦

研究課題名： 太陽光発電と連結する下水処理場におけるエネルギーマネジメント

モデルの構築

【研究目的】

2050年カーボンニュートラルの到達に向け、生活排水の処理を担う下水処理場における取組が促進されている。その一施策が太陽光発電（PV）による電力自給率の向上であり、とりわけ小規模下水処理場では下水汚泥からのバイオエネルギー回収が困難であるため、PVに対する期待が大きい。一方で、現行の下水処理場におけるエネルギー自給率は、生産される年間総電力量（MWh/年）／処理場内における年間総電力消費量（MWh/年）での評価に留まっており、時間帯別の電力需給バランスが考慮されていない。すなわち、PV電力と下水処理場における電力消費量の時間帯別における不一致が見過されている。PVは余剰電力（場内で消費しきれなかった電力の系統電力網への逆潮流）を抑制することが求められるため、時間帯別の電力需給バランスの解析が不可欠となる。そこで本研究では、小規模下水処理場を対象とした、時間帯別電力需要量推計モデル（30分解像度）を開発することを目的とする。これにより、PVとの時間帯別電力需給バランスに基づき、自給率（下水処理場の電力需要のうちPV電力により賄えた割合）ならびに消費率（PV電力のうち自家消費できた割合）に基づく評価が、日・月・年単位で可能となる。加えて、PV出力曲線（発電量の日変化）を踏まえて下水処理場の稼働スケジュールを検討することができるため、自給率と消費率を高めるための下水処理場の改修計画を提案し、その具体的な効果を示す。本研究で提案するモデルが開発されることにより、小規模下水処理場でのPV設置によるエネルギーマネジメントの普及が期待される。

【SDGs 研究所の趣旨・該当するSDGs Goal 関係】

SDGsの「ゴール7：すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」に該当し、「指標7.2.1：最終エネルギー消費量に占める再生可能エネルギー比率」を高めることに貢献するための研究課題である。図1に、本研究で提案する電力需要マネジメントの枠組みを示す。脱炭素社会の実現に向けて再生可能エネルギーが大規模に普及した地域では、電力需給の調整役がデマンドレスポンスを担うことが期待されている。担い手としての小規模下水処理場に焦点を当て、需給バランスの調整機能を有するための稼働計画を提案した。

【研究計画・方法】

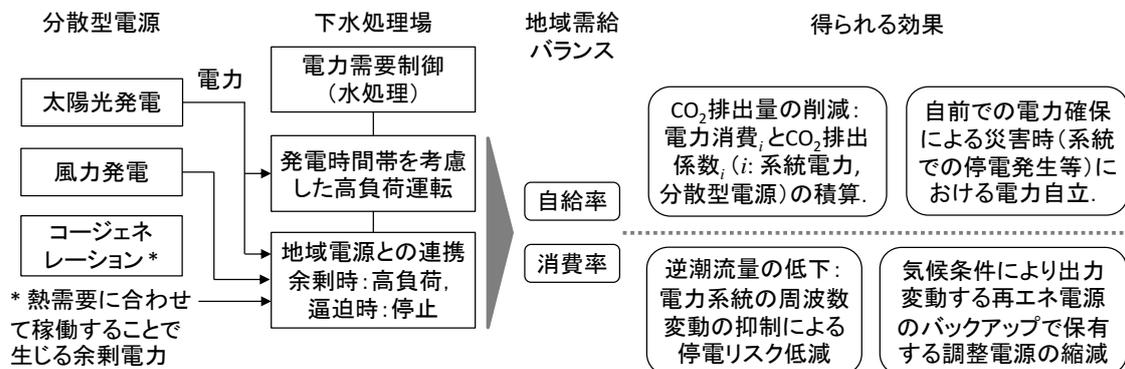


図1 分散型電源と連結した小規模下水処理場による電力需要マネジメントの枠組み

本研究は、復興計画と環境計画の複合領域を扱う福島県 S 浄化センターを対象とした。同施設では、電力消費量のモニタリングデータ（30 分解像度で使用可能）が取得されており、現状の運転実績を再現した稼働計画 A の下での電力消費量（推計値）の精度を検証することができる。30 分解像度で電力消費量の比（推計値／実績値）をとり、年間を通して±10%以内に収まる時間帯が 96%であることを確認した。電力消費はカテゴリーとして水処理、汚泥処理、所内電力から構成され、±10%以上の誤差が生じる時間帯は主に電力消費が小さい時間帯に発生していることから、消費の大きい水処理プロセスのブロワ稼働の再現性は高いことが確認できた。

小規模下水処理場では、多くの処理場で水処理方式にオキシデーショondiッチ法（OD 法）を採用している。OD 法では水理学的滞留時間（HRT）を 24 時間以上とることから、処理量あたりの電力消費量が高い傾向にある。このことを踏まえ、本研究では OD 法での水処理（ブロワ動力）の負荷低減に向けた改修策と、電力需要を PV による発電曲線に近づけるためブロワの高負荷運転時間帯を昼間に配置するデマンドレスポンス策を組み合わせ、稼働計画 B を設計した。具体的には、二点 DO 制御の導入を想定して、HRT の短縮（12 時間程度、反応タンクへの酸素供給量を推計した上で設定）を反映させた。また、二点 DO 制御では連続曝気方式での運転が行われる。流入水に対して貯水槽を設けることを想定し、流入負荷の時間帯を制御することを通して PV の発電時間帯にブロワの高負荷運転時間を配置させた。

なお、PV の導入規模は、各稼働計画下での下水処理場の年間電力消費量（MWh/y）と PV による年間総発電量（MWh/y）がおおよそ 100%となるように設置面積を設定した。

【研究結果】

シミュレーション解析に用いた稼働計画に対して、PV 発電と処理場電力需要の需給バランスを推計した結果の例を図 2 に示す。稼働計画 B において、ブロワの運転時間を短縮するとともに、高負荷運転時間帯を昼間に配置していることが把握できる。

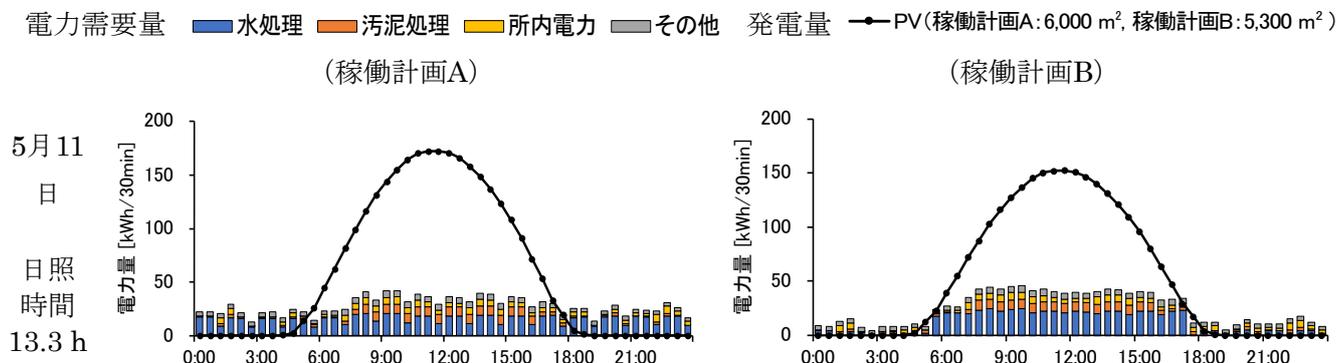


図 2 稼働計画 A/B に対する下水処理場電力需要量と PV 発電量の出力結果例

電力需要マネジメントの導入が自給率・消費率に及ぼす効果について、30 分解像度での電力需給バランスを年単位で積算した結果、自給率は 46%（稼働計画 A）から 57%（稼働計画 B）へ、消費率は 44%（稼働計画 A）から 55%（稼働計画 B）へと変化し、両指標とも稼働計画 B で 11%の向上がみられた。月単位での評価結果においても、すべての月において稼働計画 B での自給率、消費率が向上する結果が得られた。

【研究成果】

PV を活用した下水処理場のエネルギー自立に向けては、PV の発電出力・時間帯に電力需要を合わせる機能が求められる。加えて、電源構成に占める再生可能エネルギーの比率が高まる中、地域で産出した電力を、需給バランスを合わせることで地域内で如何に消費するか、消費率を高めるための調整役が求められる。本研究では、調整役としての下水処理場を取り上げ、担い手となるべく求められる機能を検討した上で、同機能を有する稼働計画 B を提案した。解析対象とした PV 発電時間帯への電力需要時間帯の配置に限定せず、多様な分散型電源と連携したデマンドレスポンスへと展開することが期待される。

令和4年度SDGs推進研究所学内共同研究 成果報告書

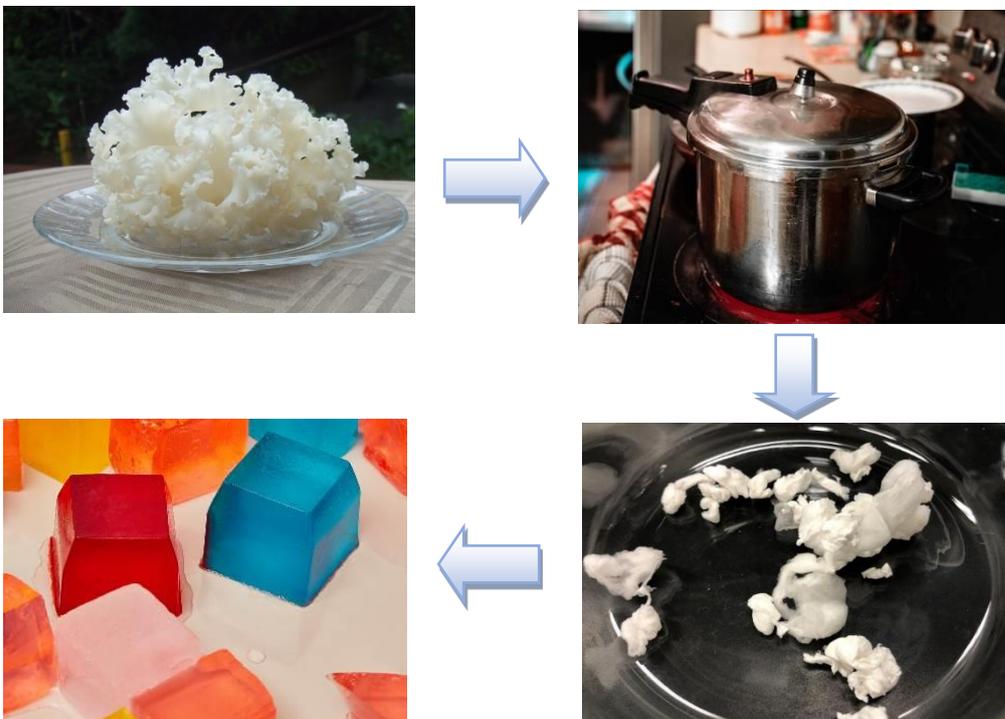
研究者名： 新田 陽子・笠松 千夏・山下 郁美

研究課題名： 子ども食堂での食品ロスの有効活用に関する研究

食べられるにもかかわらず廃棄されているものの中に、きのこ類の石づきや柄、規格外のものがあげられる。えのきたけは、廃棄される石づき部分をステーキ様に焼くことで再利用される取り組みがなされている。生しいたけは、規格外のしいたけと全体の5%程度廃棄される柄について、過熱蒸煎機によってパウダー化することで、低コストでの加工を実現している会社がある。このように廃棄する部分を適切に加工することにより付加価値のついた食品の開発につながると考えられる。

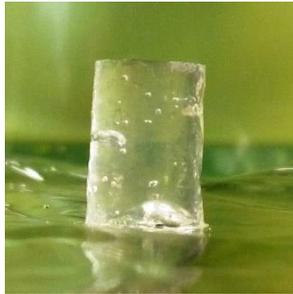
一方、日本の子どもの7人に1人が貧困状態にあることから、近年、子ども食堂での食事が増えてきている。子ども食堂は、子どもの成長に必要な栄養を補う場であると同時に、子どもたちが人と関わり、食を通じた楽しみや安心感、コミュニケーションを経験していく「育ちの場所」としても大切な役割を担っている。環境に配慮した食品、特定の品質特徴をもった食品が、次世代を担う子どもたちの「育ち」にどのように貢献できるかは重要である。

本研究では、1) きのこ類の廃棄部分の加熱調理により付加価値のついた食品の開発のための基礎研究として、ゼリー素材の抽出に取り組み、2) テクスチャーに特徴のあるゼリー類がどの程度子どもに受容されるかを確認するための、子ども対象の新しい官能評価法の開発を行うことを目的とした。



1) きのかからのゼリー素材の抽出

所属研究室の先行研究において、食用きのこのハナビラタケについて、水とともにブレンダーで攪拌して得たピューレを加熱することにより、ゼリー素材が抽出されることを既に確認している。これは新規の成分によるゼリー素材であるため、新食感が予想され、付加価値のついた食品を開発できる可能性が高い。



ゼリー素材のうち、冷やすことで固まり、熱すると融解する素材は限られており、一般に知られているものは寒天とゼラチンのみである。寒天は海藻由来、ゼラチンは動物由来であり、きのこ由来のゼリー素材は、所属研究室で研究発表している以外にはまだ知られていない。冷やして固まるゲルは、デザートゼリーだけでなく、ムースなど、最近では介護食において均一に固まったゲル状食品の需要が高まっており、様々な用途が考えられる。

本研究では、圧力鍋を用いた抽出法によって、先行研究よりもゼリー素材の抽出効率が大幅に改善した。本研究で得られたゼリー素材を用いてショ糖を添加したゼリーを作成し試食したところ、口腔内で融けたため寒天とは異なる食感であった。今後ゼリー素材の添加濃度やショ糖の添加濃度を変えたゼリーを作成し、さらに食感の特徴づけを行う予定である。

2) 子ども対象の非言語官能評価手法の開発のための予備調査

子どもにとって好ましいゼリー素材の品質特性を把握するため、絵文字を使った質問紙調査の有効性について調査を行った。小学校高学年の子ども 100 名を対象に、市販のゼリー類を試食せず、画像のみを用いて好ましさを絵文字で回答する調査を予備的に実施した。

絵文字などの非言語情報を用いた受容性評価手法を構築することで、今後開発される環境配慮商品や各種代替食品の品質目標を明確にすることができただけでなく、言語表現が難しい子どもや外国人（難民を含む）の嗜好や食に関わる情動の理解が進み、相互理解やパートナーシップの推進に繋げることができる。また、非言語情報を用いた情動の表現方法が広がることで、子どもたちが自分自身や互いの気持ちを理解する可能性を広げることができ、情操教育にも繋がると考える。

2. SDGs 関連研究成果

(1) 論文一覧

藤原 葉子

1. 江田真純, 河寄唯衣, 赤松利恵, 藤原葉子, 2022, “居住形態別にみた女子大学生の野菜, 栄養素等摂取量と野菜摂取のセルフ・エフィカシー”, 栄養学雑誌, 80 巻 4 号 p.239-245
2. Kawasaki, Y., Akamatsu, R., Fujiwara, Y., Omori, M., Sugawara, M., Yamazaki, Y., Matsumoto, S., Iwakabe, S. & Kobayashi, T. 2022, "Association of healthy eating literacy and resident status with energy, nutrients, and food consumption among lean and normal-weight female university students", *Clinical Nutrition ESPEN*, vol. 51, pp. 419-423.
3. Tsuji, Y., Matsumoto, S., Saito, A., Imaizumi, S., Yamazaki, Y., Kobayashi, T., Fujiwara, Y., Omori, M. & Sugawara, M. 2022, "Mediating role of sensory differences in the relationship between autistic traits and internalizing problems", *BMC Psychology*, vol. 10, no. 1.
4. Arisawa, K., Kaneko, M., Matsuoka, A., Ozawa, N., Kawawa, R., Ishikawa, T., Ichi, I. & Fujiwara, Y. 2023, "Piceatannol Prevents Obesity and Fat Accumulation Caused by Estrogen Deficiency in Female Mice by Promoting Lipolysis", *Nutrients*, vol. 15, no. 6.
5. Nagao-Sato, S., Kawasaki, Y., Akamatsu, R., Fujiwara, Y., Omori, M., Sugawara, M., Yamazaki, Y., Matsumoto, S. & Iwakabe, S. 2023, "Sensory profile of picky eaters among college female students", *Appetite*, vol. 185.

中久保 豊彦

1. Nguyen, T.D.T., Kawai, K. & Nakakubo, T. 2023, "Capacity assessment to secure COVID-19 waste treatment in Vietnam", *Journal of Material Cycles and Waste Management*, vol. 25, no. 1, pp. 302-313.
2. Nguyen, T.D.T., Nakakubo, T. & Kawai, K. 2023, "Analysis of COVID-19 waste management in Vietnam and recommendations to adapt to the 'new normal' period", *Journal of Material Cycles and Waste Management*, vol. 25, no. 2, pp. 835-850.
3. Wang, K. & Nakakubo, T. 2022, "Design of a sewage sludge energy conversion technology introduction scenario for large city sewage treatment plants in Japan: Focusing on zero fuel consumption", *Journal of Cleaner Production*, vol. 379.

刑部 育子

1. 岡南愛梨, 刑部育子, 2022年, “1・2歳児クラスにおける仲間との遊びの変化——ビデオ観察ツール CAVScene における観察者の遊びの切り出しに着目して”, 『質的心理学研究』 日本質的心理学会, 21巻, 34-50.
2. 高谷実穂, 刑部育子, 2022年, “フィンランドの保育者による子どもの主体性のとらえ方とその尊重 - フィンランドの ECEC の現場の記録から -”, 『お茶の水女子大学こども学研究紀要』 お茶の水女子大学 こども学研究会, 10巻, 97-107.
3. Sato, A., Oba, G.M., Aubert-Kato, N., Yura, K. & Bishop, J. 2022, "Co-expression network analysis of environmental canalization in the ascidian *Ciona*", *BMC Ecology and Evolution*, vol. 22, no. 1.

笠松 千夏

1. 笠松千夏, 坂井信之, 2022, “ヘルスケアフーズの情報に対する認知がおいしさ評定に及ぼす効果測定”, 日本家政学会誌,

赤松 利恵

1. Akamatsu, R., Tonsho, N., Saiki, M. & Komatsu, M. 2022, "Restaurant managers' readiness to maintain people's healthy weight and minimise food waste in Japan", *BMC Public Health*, vol. 22, no. 1.
2. 大内実結, 江田真純, 赤松利恵, 新保みさ, 小島唯, 2022, “ストレスと飲酒状況の組み合わせによる食習慣の特徴”, 日本健康教育学会誌, 30巻 1号 p. 26-36
3. 満崎雅咲, 吉井瑛美, 外園海稀, 赤松利恵, 新保みさ, 小島唯, 2022, “就労者における在宅勤務と家族との共食頻度”, 日本健康教育学会誌, 30巻 1号 p. 26-36
4. 中易萌香, 深澤向日葵, 赤松利恵, 小島唯, 新保みさ, 2022, “新型コロナウイルス感染症の感染拡大前と比べて調理頻度が増加した者の属性と主食・主菜・副菜のそろった食事の頻度”, 栄養学雑誌, 80巻 2号 p. 96-104
5. Kawasaki, Y., Akamatsu, R. & Warschburger, P. 2022, "The relationship between traditional and common Japanese childhood education and adulthood towards avoiding food waste behaviors", *Waste Management*, vol. 145, pp. 1-9.
6. 頓所希望, 赤松利恵, 小松美穂乃, 2022, “飲食店経営者の健康な食事に対する信念—健康な食事を売れないと考える経営者の特徴—”, 栄養学雑誌, 80巻 3号 p. 169-176
7. 頓所希望, 赤松利恵, 外園海稀, 江田真純, 井邊有未, 柄澤美季, 2022, “飲食店における健康を考慮した食品ロスの削減—ウェブサイトで公開された自治体の取組—”, 栄養学雑誌, 80巻 3号 p. 201-209

8. 赤松利恵, 2022, “飲食店経営者の「健康日本 21」の認知度と目標「適切な量と質の食事をとる者の増加」に関する取組の実施状況. ”, 栄養学雑誌, 80 卷 3 号 p. 185-193
9. 江田真純, 河寄唯衣, 赤松利恵, 藤原葉子, 2022, “居住形態別にみた女子大学生の野菜, 栄養素等摂取量と野菜摂取のセルフ・エフィカシー”, 栄養学雑誌, 80 卷 4 号 p. 239-245
10. Ikeda, H., Kubo, T., Izawa, S., Nakamura-Taira, N., Yoshikawa, T. & Akamatsu, R. 2022, "The Joint Association of Daily Rest Periods and Sleep Duration with Worker Health and Productivity: A Cross-Sectional Web Survey of Japanese Daytime Workers", *International Journal of Environmental Research and Public Health*, vol. 19, no. 17.
11. Harada, K., Izawa, S., Nakamura-Taira, N., Yoshikawa, T., Akamatsu, R., Ikeda, H. & Kubo, T. 2022, "Associations of exercising with others with stress response and mental distress among workers", *Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine*, vol. 71, no. 5, pp. 417-429.
12. Izawa, S., Nakamura-Taira, N., Yoshikawa, T., Akamatsu, R., Ikeda, H. & Kubo, T. 2022, "Conversation time and mental health during the COVID-19 pandemic: A web-based cross-sectional survey of Japanese employees", *Journal of Occupational Health*, vol. 64, no. 1.
13. Kawasaki, Y., Akamatsu, R., Fujiwara, Y., Omori, M., Sugawara, M., Yamazaki, Y., Matsumoto, S., Iwakabe, S. & Kobayashi, T. 2022, "Association of healthy eating literacy and resident status with energy, nutrients, and food consumption among lean and normal-weight female university students", *Clinical Nutrition ESPEN*, vol. 51, pp. 419-423.
14. 望月泉美, 串田修, 赤松利恵, 村山伸子, 2022, “都道府県と保健所設置市および特別区における飲食店等を通じた食環境整備のマネジメント実施状況”, 日本公衆衛生学会誌, 69 卷 10 号 p. 833-840
15. Nagao-Sato, S., Akamatsu, R., Karasawa, M., Tamaura, Y., Fujiwara, K., Nishimura, K. & Sakai, M. 2023, "Associations between patterns of participation in community activities and social support, self-efficacy, self-rated health among community-dwelling older adults", *Journal of psychiatric research*, vol. 157, pp. 82-87.
16. 大内実結, 赤松利恵, 新保みさ, 小島唯, 2022, “新型コロナウイルス感染拡大前後における飲酒頻度変化の関連要因”, 日本健康教育学会誌, 30 卷 4 号 p. 271-282
17. 鮫島媛乃, 赤松利恵, 林英美, 武見ゆかり, 2022, “環境負荷が少ない健康な食事の食品群別使用量—窒素フットプリントを用いた分析から—”, 栄養学雑誌, 80 卷 6 号 p. 307-316

18. Kawasaki, Y., Nagao-Sato, S., Yoshii, E. & Akamatsu, R. 2023, "Integrated consumers' sustainable and healthy dietary behavior patterns: Associations between demographics, psychological factors, and meal preparation habits among Japanese adults", *Appetite*, vol. 180.
19. 坂口景子, 武見ゆかり, 林芙美, 赤松利恵, 2023, “食環境の認知およびヘルスリテラシーと健康日本 21 (第二次) の食行動の目標との関連. ”, 日本公衆衛生学会誌, 70 巻 1 号 p. 3-15
20. 佐藤清香, 赤松利恵, 2023, “アメリカ栄養教育行動学会 2022 年大会現地参加報告”, 栄養学雑誌, 81 巻 1 号 p. 50-51

斎藤 悦子

1. 山本咲子, 斎藤悦子, 大竹美登利, 2023, “高齢者による調理の動作構造の解明－国際生活機能分類 (ICF) を用いた動作分析－”, 『生活経営学研究』, No.58 pp. 31-38
2. 斎藤悦子, 2023, 「経営倫理とダイバーシティ」, 『経営倫理入門』, 文眞堂, pp.80-91
3. 斎藤悦子, 2023, 「ダイバーシティ&インクルージョン」, 『実践 人的資本経営』, 中央経済社, pp.33-52
4. 伊藤純, 粕谷美佐子, 山本咲子, 吉田仁美, 斎藤悦子, 2023, 「新型コロナ下における家族介護者の働き方と生活資源マネジメントの課題」『コロナ禍の労働・生活とジェンダー』, 御茶の水書房, pp.97-122

須藤 紀子

1. 須藤紀子, 2022, “バルネラブルな人びとへの栄養支援. 2022”, 日本栄養士会雑誌, 65: 318-319
2. 柴村有紀, 須藤紀子, 久保彰子, 2022, “自然災害とパンデミックを経験した熊本県の高齢者施設における事業継続に関する質問紙調査”, 日本健康学会誌, 88: 137-149
3. Sato, H., Sudo, N., Nagao-Sato, S., Yanagisawa, A., Amitani, Y., Caballero, Y., Sekiyama, M., Matsuoka, T., Sasaki, T., Matsuda, H., 2022, “Correlation between energy and vitamin A intakes among Rwandans”, *Journal of Asian Regional Association for Home Economics*, 29(3), 13-25
4. Sudo, N., Tsuboyama-Kasaoka, N., Shimada, I., Sato, K. & Kubo, A. 2022, "Attitudes toward using "Simple simulator for calculating nutritional food stocks in preparation for large-scale disasters" among local governmental personnel and public health dietitians in Japan: An explanatory mixed methods study", *AIMS Public Health*, vol. 9, no. 4, pp. 734-757.

5. Caballero, Y., Matakawa, K., Ushiwata, A., Akatsuka, T. & Sudo, N. 2023, "Nutritional Intake Differences in Combinations of Carbohydrate-Rich Foods in Pirapó, Republic of Paraguay", *Nutrients*, vol. 15, no. 5.
6. Kobayashi, H., Sudo, N., Tsuboyama-Kasaoka, N., Shimada, I. & Sato, K. 2023, "Validity and reproducibility of food photographic estimation for evaluating meals in evacuation shelters", *AIMS Public Health*, vol. 10, no. 1, pp. 169-182.
7. 新藤由芽, 須藤紀子, 2023, “「書き込み式高齢者施設における非常時給食マニュアル作成も手引き」および「食事提供訓練用アクションカード」の開発”, 日本給食経営管理学会誌, 17(1): 32-45
8. Sugiyama, S. Sudo, N., Mukuralinda, A, Mujawamariya, P., Mukantwali, C., Ruganzu, V., Iiyama, M., 2023, “Evaluation of food security using food consumption score in rural Rwanda”, *Journal of Asian Regional Association for Home Economics*, 30(1): 1-12

長澤 夏子

1. 王紫葉, 前田望, 長澤夏子, 2022, “COVID-19 前後のワーカーによるオフィス環境評価の変化 オフィス出社・テレワーク併用の勤務者を対象として”, 日本建築学会環境系論文集, 87 巻 802 号 p. 785-796

浜野 隆

1. 浜野隆, 2022, “ビッグデータ時代の学力論・学校論—学力格差の克服に向けた取り組みを中心に—”, 教育学年報, 13, 175-192

森光 康次郎

1. Hayoshi, N., Aoyama, K., Kishimoto, M., Morimitsu, Y., Furukawa, T., Kushiro, M. 2022, “Extraction efficiency of kojic acid from ammonia-treated or non-treated agar medium with various methanol aqueous solvents”, *JMS Mycotoxins*, vol. 72, no. 2, pp. 85 – 87
2. Kishimoto, M., Furukawa, T., Hayashi, N., Karasawa, T., Morimitsu, Y., Yabe, K., Kushiro, M. 2022, “Whole agar dish culture extraction method to assess the survival of aflatoxigenic fungi in soil samples” *JMS Mycotoxins*, 早期 web 公開
3. Yamanashi, Y., Shimamura, Y., Sasahara, H., Komuro, H., Sasaki, K., Morimitsu, Y., Masuda, S." 2022, "Effects of growthstage on the characterization of enterotoxin A producing *Staphylococcus aureus* - derived membrane vesicles" *Microorganisms*, vol. 10, no. 3, pp. 574-592

矢島 知子

1. Shigenaga, S., Shibata, H., Tagami, K., Kanbara, T. & Yajima, T. 2022, "Eosin Y-Catalyzed Visible-Light-Induced Hydroperfluoroalkylation of Electron-Deficient Alkenes", *Journal of Organic Chemistry*, vol. 87, no. 21, pp. 14923-14929.
2. Koto Tagami, Yu Ofuji, Tadashi Kanbara and Tomoko Yajima, , 2022, "Metal-free visible-light-induced hydroxyperfluoroalkylation of conjugated olefins using enamine catalyst", *RSC Adv.* , 12, 32790-32795
3. Tomoko Yajima, 2022, "Visible-light-induced Organocatalytic Perfluoroalkylation of Electron-rich Olefins", *有機合成化学協会誌*, 11, 1028
4. Kawamura, K., Yoshioka, H., Sato, C., Yajima, T., Furuyama, Y., Kuramochi, K. & Ohgane, K. 2023, "Fine-tuning of nitrogen-containing bisphosphonate esters that potently induce degradation of HMG-CoA reductase", *Bioorganic and Medicinal Chemistry*, vol. 78.

由良 敬

1. Sato, A., Oba, G.M., Aubert-Kato, N., Yura, K. & Bishop, J. 2022, "Co-expression network analysis of environmental canalization in the ascidian *Ciona*", *BMC Ecology and Evolution*, vol. 22, no. 1.
2. Duong, H.T.T., Suzuki, H., Katagiri, S., Shibata, M., Arai, M. & Yura, K. 2022, "Computational study of the impact of nucleotide variations on highly conserved proteins: In the case of actin", *Biophysics and physicobiology*, vol. 19.
3. Yohei Nishikawa, Masato Kogawa, Masahito Hosokawa, Ryota Wagatsuma, Katsuhiko Mineta, Kai Takahashi, Keigo Ide, Kei Yura, Hayedeh Behzad, Takashi Gojobori, Haruko Takeyama, 2022, "Validation of the application of gel beads-based single-cell genome sequencing platform to soil and seawater", *ISME Communications*, 2, Article number: 92
4. Yokomizo, R., Lopes, T.J.S., Takashima, N., Hirose, S., Kawabata, A., Takenaka, M., Iida, Y., Yanaihara, N., Yura, K., Sago, H., Okamoto, A. & Umezawa, A. 2022, "O3C Glass-Class: A Machine-Learning Framework for Prognostic Prediction of Ovarian Clear-Cell Carcinoma", *Bioinformatics and Biology Insights*, vol. 16.
5. Ide, K., Nishikawa, Y., Maruyama, T., Tsukada, Y., Kogawa, M., Takeda, H., Ito, H., Wagatsuma, R., Miyaoka, R., Nakano, Y., Kinjo, K., Ito, M., Hosokawa, M., Yura, K., Suda, S. & Takeyama, H. 2022, "Targeted single-cell genomics reveals novel host adaptation strategies of the symbiotic bacteria *Endozoicomonas* in *Acropora tenuis* coral", *Microbiome*, vol. 10, no. 1.

6. Nemoto, N., Kawaguchi, M., Yura, K., Shimada, H. & Bessho, Y. 2022, "PGLN: A newly identified amino phosphoglycolipid species in *Thermus thermophilus* HB8", *Biochemistry and Biophysics Reports*, vol. 32.

市 育代

1. Yamane, D., Hayashi, Y., Matsumoto, M., Nakanishi, H., Imagawa, H., Kohara, M., Lemon, S. M., Ichi, I. 2022, "FADS2-dependent fatty acid desaturation dictates cellular sensitivity to ferroptosis and permissiveness for hepatitis C virus replication, " *Cell Chemical Biology*, vol. 29, no. 5, pp. 799-810.
2. Uchikawa, T., Matoba, T., Kawahara, T., Baba, I., Katsuki, S., Koga, J., Hashimoto, Y., Yamasaki, R., Ichi, I., Akita, H., Tsutsui, H. 2022, "Dietary 7-ketocholesterol exacerbates myocardial ischemia–reperfusion injury in mice through monocyte/macrophage-mediated inflammation", *Scientific Reports*, vol. 12, 14902
3. Chang, J., Koseki, M., Saga, A., Kanno, K., Higo, T., Okuzaki, D., Okada, T., Inui, H., Tanaka, K., Asaji, M., Zhu, Y., Kamada, Y., Ono, M., Saibara, T., Ichi, I., Ohama, T., Nishida, M., Yamashita, S., Sakata, Y. 2022, "Dietary Oxysterol, 7-Ketocholesterol Accelerates Hepatic Lipid Accumulation and Macrophage Infiltration in Obese Mice", *International Journal of Molecular Sciences*, vol. 23, no. 24, 15855
4. Sawada, M., Ohkuma, K., Aihara, M., Doi, S., Sekine, R., Kaneko, T., Iimuro, S., Ichi, I., Usami, S., Ohe, K., Yamauchi, T., Kubota, N. 2023, "Impact of the COVID-19 pandemic on the glycemic control, eating habits, and body compositions of people with diabetes mellitus: A retrospective longitudinal observational study" *Journal of Diabetes Investigation*, vol. 14, pp. 321-328

植村 知博

1. Ito, E. & Uemura, T. 2022, "RAB GTPases and SNAREs at the trans-Golgi network in plants", *Journal of Plant Research*, vol. 135, no. 3, pp. 389-403.
2. Shimizu, Y. & Uemura, T. 2022, "The sorting of cargo proteins in the plant trans-Golgi network", *Frontiers in Plant Science*, vol. 13.
3. Ito, Y. & Uemura, T. 2022, "Super resolution live imaging: The key for unveiling the true dynamics of membrane traffic around the Golgi apparatus in plant cells", *Frontiers in Plant Science*, vol. 13.

新實 五穂

1. 新實五穂, 2022, “ヨーロッパにおける異性装—性の混同の恐怖と社会規範—”, 装いの力 異性装の日本史, p.12-19
2. 新實五穂, 2023, “19 世紀後期のフランスにおけるエミール・パンガと服飾デザイン”, 国際服飾学会, p.35-50

新田 陽子

1. Nitta, Y., 2022, “Study of polysaccharide gels at Nishinari laboratory”, *Food Hydrocoll*, vol. 136, 108256

藤山 真美子

1. Peng, Y., Fujiyama, M., Ishida, T. 2022, “Spatial Evolution of an Oil City: A Case Study of Karamay, Northwest China” *Land*, Volume 11, Issue 11
2. Sayed, A., M., Fujiyama M., Ishida T. 2022, “Analysing the spatial syntax of Aldo van Eyck’s place-making in the Amsterdam playgrounds”, *Architectural Science Review*, vol. 66, no. 1, pp. 70-90
3. モデイセイイン・セゴフアラン, 藤山真美子, 石田壽一, 2023, ”都市の核としての歩行者専用商業地区：新首都建設期におけるハバロネ・メインモール計画へのラインバーンの影響に関する比較研究” 日本建築学会技術報告集, 29 巻 71 号, p. 503-508

雨宮 敏子

1. 都甲由紀子, 雨宮敏子, ジェフ ブローデリック, 2022, “STEAM 教育における被服学の可能性”, 工学教育, 70 巻 6 号 p. 6_52-6_57

佐藤 瑤子

1. 佐藤瑤子, 吉田里緒, 辻ひろみ, 2023, “スチームコンベクションオープンを用いた根菜類の煮物調理の標準化”, 日本給食経営管理学会誌, In press
2. Sato, Y. & Fujimoto, M. 2023, "Effect of increasing the rate of water temperature on the softening of root vegetables in boiling water", *Food Science and Technology Research*, vol. 29, no. 1.

野田 響子

1. Noda, K., Ando, H., Tada, K., Satake, M., Nakauchi, F., Tsutsuura, S., Shimamura, Y., Masuda, S. & Murata, M. 2022, "Acrylamide formation during pan-frying of mung bean sprouts", *Food Science and Technology Research*, vol. 28, no. 4, pp. 307-315.

2. Kitayama, S., Igoshi, A., Shimamura, Y., Noda, K. & Murata, M. 2022, "Formation scheme and some properties of a thiamine-derived pigment, pyrizepine, formed through the Maillard reaction", *Bioscience, Biotechnology and Biochemistry*, vol. 86, no. 5, pp. 672-680.
3. Noda, K., Hirakawa, Y., Nishino, T., Sekizuka, R., Kishimoto, M., Furukawa, T., Sawane, S., Matsunaga, A., Kobayashi, N., Sugita, K., Oonaka, K., Kawakami, H., Otsuka, Y., Yamamoto, T., Yamamoto, T., Yoshiya, T., Watanabe, M., Saka, M., Momma, K., Kushiro, M. & Miyake, S. 2022, "Preparation of Monoclonal Antibodies Specifically Reacting with the Trichothecene Mycotoxins Nivalenol and 15-Acetylnivalenol via the Introduction of a Linker Molecule into Its C-15 Position", *Toxins*, vol. 14, no. 11.
4. Kyoko Noda, Masatsune Murata, 2022, "What are melanoidins, polymers in food?", *Journal of Biological Macromolecules*, 22, 23-36

河寄 唯衣

1. Kawasaki, Y., Akamatsu, R., Warschburger, P., 2022, "The relationship between traditional and common Japanese education and avoiding food waste behaviors: interaction between direct and indirect educational approaches and mediational roles of gratitude for food ", *Waste management*, vol. 145, no. 3, pp. 1-9
2. Kawasaki, Y., Akamatsu, R., Fujiwara, Y., Omori, M., Sugawara, M., Yamazaki, Y., Matsumoto, S., Iwakabe, S. & Kobayashi, T. 2022, "Association of healthy eating literacy and resident status with energy, nutrients, and food consumption among lean and normal-weight female university students", *Clinical Nutrition ESPEN*, vol. 51, pp. 419-423.
3. 江田真純, 河寄唯衣, 赤松利恵, 藤原葉子, 2022, "居住形態別にみた女子大学生の野菜, 栄養素等摂取量と野菜摂取のセルフ・エフィカシー", *栄養学雑誌*, 80 卷 4 号, p. 331-337
4. Kawasaki, Y., Nagao-Sato, S., Yoshii, E., Akamatsu, R. 2023, "Integrated consumers' sustainable and healthy dietary behavior patterns: Associations between demographics, psychological factors, and meal preparation habits among Japanese adults", *Appetite*, vol. 180. 106353

(2) 学会等活動

所属研究者が筆頭又は共同発表者として行った学会発表は、以下の通りであった。

- ・国際学会：招待講演 1 件、口頭発表 14 件、ポスター発表 16 件 計 31 件
- ・国内学会：招待講演 11 件、口頭発表 80 件、ポスター発表 52 件 計 143 件

(3) 獲得した外部資金

所属研究者が研究代表者または分担者として獲得した外部資金は、以下のとおりであった。

- ・科研費を獲得しての研究プロジェクト：25 件
- ・その他の外部資金を獲得しての研究プロジェクト：22 件
- ・学内競争的資金を獲得しての研究プロジェクト：8 件

計 55 件

(4) 企業との共同研究

2022 年度は、15 件の共同研究が、民間企業と連携して実施された。

(5) 特許

2022 年度は、3 件の特許が取得された。

IV. 教育部門

1. 三菱 UFJ 環境財団寄付講座

文理融合リベラルアーツの中に、三菱 UFJ 環境財団寄付講座「生命と環境 7 生活と環境」「生命と環境 10 環境問題と社会」（前期、金曜 3～4 限、1～4 年次、選択、2.0 単位）を開講し、本学研究員が科目及び授業を担当した。

本研究所員の担当した講義

担当教員	科目名	担当内容及び講義タイトル
藤原 葉子	生命と環境 7	科目担当
中久保 豊彦	生命と環境 7	科目担当と授業 第 1 回 全体ガイダンス：環境学が目指すところ 第 2 回 食品廃棄物の発生と循環形成 第 3 回 機能・役割の変遷を踏まえた生活排水処理 インフラの将来像
赤松 利恵	生命と環境 7	第 4 回 SDGs と食環境～地球と私たちの両方に健康な食を考える～
長澤 夏子	生命と環境 7	第 10 回 災害と建築計画
長谷川 直子	生命と環境 10	科目担当と授業 第 1 回 授業の概観：地球規模の環境問題ー市民生活の視点からー 第 14 回・第 15 回 森林保全と間伐材割り箸の福祉 作業施設についてのオンライン学習（半日）
清本 正人	生命と環境 2 3	科目担当・実習全般

2. 2022 年度 SDG-UP 共同教育サーティフィケート・プログラム（パイロット事業）「国連 SDGs 入門」

2021 年度から本学は国連大学 SDG 大学連携プラットフォーム（SDG-UP）に参加しており、2022 年度は本研究所が参加の窓口として、所長と特任教授がメンバーに正規エントリーした。SDG-UP カリキュラム分科会で、大学生（原則として学部 1～2 年生）を対象に一般教養科目「国連 SDGs 入門」を開発するにあたり、本学から岡村利恵特任講師がカリキュラムの 1 コマ（「ジェンダー・人権②、45 分）を作成した。完成した一連のカリキュラムが参加大学で共有され、本学学部生へ履修を呼びかけた。その結果、2 名の学生が全 15 回のオンデマンド講義、反転授業を受講し、提出した最終課題が評価され、2023 年 2 月にサーティフィケート（修了証）を授与された。

3. 国連大学本部大学間連携活動 BIG IDEAS:SDGs に関する対話シリーズ

SDGs 関連の社会課題に貢献しうる若手人材の育成と研究展開を日本から発信する事業である国連大学本部大学間連携活動 BIG IDEAS:SDGs に関する対話シリーズ（2022年度は21回の開催）について、研究所から学生に周知した。数名の参加があった。

4. 附属学校園との連携教育

本研究所学生委員（P.54）に最先端のエシカル教育を学ぶ機会を提供するため、附属小学校・中学校・高校の授業等を参観させた。

参観した授業等の概要

年月	連携先	授業概要	参加人数
2023年2月	附属小学校	公開研究会への参加	3名
2023年2月	附属中学校	家庭科、社会科（公民的分野）授業	10名
2023年3月	附属高校	Super Science Highschool 報告会	8名

V. 企画調整部門

1. シンポジウム・セミナーの開催

(1) 研究所開設記念キックオフシンポジウム

【タイトル】SDGs 推進研究所設立記念キックオフシンポジウム

「生活者起点で実現するSDGs」—OCHA-SDGsの新たな挑戦—

【目的】 本学で新しく開始された、生活者起点のSDGs推進研究・活動「OCHA-SDGs」を紹介するとともに、様々なセクターの関係者とディスカッションすることを企図し、シンポジウムと産官学交流会を開催した。

【成果】 企業、大学、行政機関等から会場参加とオンライン視聴参加者合わせて376名の参加があった。多方面で活躍する人々に対し、「OCHA-SDGs」のコンセプトを周知でき、産官学連携の認識を深めることができた。また、来場者に本学学生委員の活動も周知したことで、本格的な活動開始に繋がった。

持続可能な社会の実現のために、
今「私たちから」できることって何だろう？

SDGs推進研究所は、本学の特色であるジェンダーや生活科学研究を基盤として、生活者の立場から持続可能な社会に貢献できる研究・教育と社会実験を目指します。
人にも地球にも幸せな未来を描けるSDGsを
幼稚園から大学院まで、全学的に推進していきます。

参加費 無料
申し込みはこちらから
ご来場の方 ↓ オンライン参加 ↓

2022.10.19 (wed)
時間:14:00~16:30
(17:00~18:00 産官学交流会)

会場:お茶の水女子大学講堂「徽音堂」
OR
オンライン配信

詳細:<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/>
お問い合わせ:sdgs-office@cc.ocha.ac.jp

【シンポジウム概要】

日時	2022年10月19日(水) 14:00~16:30
開催方式	対面とオンラインのハイブリッド方式 【対面会場】講堂「徽音堂」 【オンライン視聴】Zoom ウェビナー
申込者数	338名 (※申込者の主な所属一覧はP.34参照)
参加者数	376名 (【対面会場】117名、【オンライン視聴】259名)

【産官学交流会】

日時	2022年10月19日(水) 17:00~18:00
会場	国際交流留学生プラザ 2階 Commons2
参加者	約60名(主な参加者の詳細はP.33参照)

【プログラム】

総合司会 笠松千夏 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所特任教授

14:00～	開会の挨拶 佐々木 泰子 お茶の水女子大学長
14:05～	<p>ご来賓挨拶 小池 百合子 東京都知事</p> <p>森 晃憲 文部科学省 研究振興局長</p> <p>茂木 正 経済産業省 商務・サービス審議官</p> <p>成澤 廣修 文京区長</p> <p>白波瀬 佐和子 国際連合大学 上級副学長 国際連合 事務次長補</p> <p>包括連携協定締結民間企業</p> <p>有元 龍一 日本工営(株) 取締役会長</p> <p>井阪 隆一 (株)セブン&アイ・ホールディングス 代表取締役社長</p>
14:25～	<p>基調講演 1: SDGs は地球市民の未来</p> <p>新井 ゆたか 消費者庁長官</p>
14:40～	<p>基調講演 2: 産業界における SDGs 推進の重要性</p> <p>長谷川 知子 日本経済団体連合会 常務理事</p>
14:55～	<p>プレゼンテーション: SDGs 推進研究所について</p> <p>藤原 葉子 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所長</p>
15:10～	休憩
15:15～	<p>パネルディスカッション: OCHA-SDGs に期待すること</p> <p>ファシリテータ</p> <p>菊池 淳子 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所 客員研究員</p> <p>パネリスト 太田 朝弓 お茶の水女子大学 文教育学部3年</p> <p>鈴木 由香 大日本印刷(株) サステナビリティ推進部 部長</p> <p>釣流 まゆみ (株)セブン&アイ・ホールディングス 執行役員</p> <p>中久保 豊彦 お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所副所長</p> <p>森島 千佳 味の素(株) 執行役 サステナビリティ・ コミュニケーション担当</p> <p>葎内 ありさ お茶の水女子大学附属高等学校教諭</p>
16:25～	閉会の挨拶 太田 裕治 お茶の水女子大学 副学長

ご登壇者名（ご登壇順）および主な産官学交流会参加者

お名前	肩書
小池 百合子	東京都知事
森 晃憲	文部科学省 研究振興局長
茂木 正	経済産業省 商務・サービス審議官
成澤 廣修	文京区長
白波瀬 佐和子	国際連合大学 上級副学長 国際連合 事務次長補
有元 龍一	日本工営(株) 取締役会長
井阪 隆一	(株)セブン&アイ・ホールディングス 代表取締役社長
新井 ゆたか	消費者庁長官
長谷川 知子	日本経済団体連合会 常務理事
鈴木 由香	大日本印刷(株) サステナビリティ推進部 部長
釣流 まゆみ	(株)セブン&アイ・ホールディングス 執行役員
森島 千佳	味の素(株) 執行役 サステナビリティ・コミュニケーション担当
井関 俊夫	東京海洋大学 学長
都築 稔	日本薬科大学 副学長
加藤 俊一	中央大学 副学長
佐藤 法仁	国立大学法人岡山大学 副理事
宮井 真千子	森永製菓(株) 取締役 常務執行役員

【記念撮影】



【シンポジウムの様子（パネルディスカッション）】



【産官学交流会の様子】



オンライン視聴参加申込者の主な所属先（50音順）

大学：青森県立保健大学、青森県立保健大学大学院、青森中央短期大学、茨城大学、岩手大学、宇都宮大学、岡山大学、帯広畜産大学、活水女子大学、神田外語大学、北九州市立大学、北見工業大学、京都府立大学、慶應義塾大学、高知県立大学、国土館大学、国連大学、静岡大学、芝浦工業大学、島根大学、聖徳大学、女子栄養大学、千葉商科大学、中央大学、東京大学、東京薬科大学、東洋英和女学院大学、長野県立大学、奈良教育大学、新潟県立大学、新潟大学、日本女子大学、弘前大学、福岡女子大学、北海道大学、三重大学、山形大学

企業：味の素(株)、イオン(株)、NHK、MS&AD インシュアランスグループホールディングス(株)、(株)科学新聞社、キッコーマン(株)、キヤノン(株)、キリンホールディングス(株)、JFE エンジニアリング(株)、(株)J-オイルミルズ、(株)J-バック、住友重機械工業(株)、(株)セブン&アイ・ホールディングス、大日本印刷(株)、高砂香料工業(株)、TDK(株)、帝人(株)、東急不動産(株)、東京ガス(株)、(株)東芝、東洋紡(株)、凸版印刷(株)、日清オイリオグループ(株)、日清製粉グループ本社(株)、日清紡ホールディングス(株)、日本ハム(株)、(株)日本経済新聞社、日本工営(株)、長谷川香料(株)、富士電機(株)、マツダ(株)、三井物産(株)、(株)三菱総合研究所、(株)三菱 UFJ フィナンシャル・グループ、森永製菓(株)、森永乳業(株)

その他機関：高エネルギー加速器研究機構、国立医薬品食品衛生研究所、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構、消費者庁、農林水産省、船橋市教育委員会

【参加者アンケート】

会場参加者とオンライン視聴参加者に、シンポジウム終了後アンケートを実施した。127名より回答が得られた。アンケートの結果より、参加者の満足度の高いシンポジウムが開催できたことがわかった。次項以降にアンケート結果と自由記述欄に書かれた感想の抜粋を掲載する。

参加者アンケート（回答者 127 名/参加者）

1. 本シンポジウムの参加方法を教えてください。(0 点数)

[詳細](#)

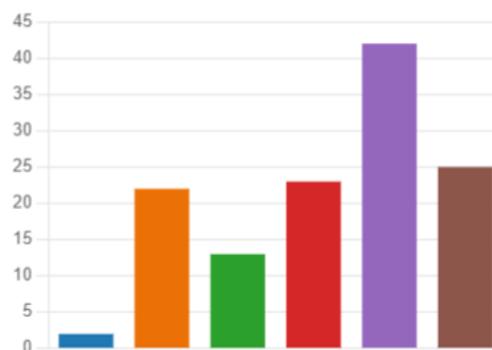
● 会場参加	23
● オンライン参加	104



2. あなたのご年齢を年代で教えてください。(0 点数)

[詳細](#)

● 10代	2
● 20代	22
● 30代	13
● 40代	23
● 50代	42
● 60代以上	25



3. 本日のシンポジウムにはご満足いただけましたでしょうか？(0 点数)

[詳細](#)

● はい	114
● どちらともいえない	12
● いいえ	1



自由記入欄感想抜粋 (1)

会場参加 /オンライン	年代	感想
会場参加;	10代	若者の私が頑張らなければと思いました。
会場参加;	20代	SDGs のことは知識として知っていましたが、本日のシンポジウムでお茶大がどのように生活者の立場から推進していくかなどを聴いて、今までより身近なことに感じました。
会場参加;	20代	様々なセクターの方から SDGs の取組や今後の展望のお話を伺うことができ、自分の研究の向かう方向性が見えるなど、勉強になりました。
会場参加;	50代	お茶大ならではの特徴を生かして、アピールしてほしい。 また、食など他大学より進んでいる部門によりフューチャーしたらいいと思います。SDGs 自体が漠としているので分かりやすくお願いいたします。
会場参加;	50代	実装、生活者の立場から、という視点で期待しております。お茶大らしい取り組みを期待しています。
会場参加;	50代	本日はシンポジウムに参加させていただき、産官学の様々なお立場の方から貴重なお話を聞くことができました。ありがとうございました。 一人一人の意識と行動の積み重ねが、協調社会の実現に向かう大事な出発点になっていることを改めて感じました。そして OCHA-SDGs がテーマとされている生活者視点での取り組みと、大学附属学校園や企業との幅広いパートナーシップが、これからの未来に向けて重要な役割を果たしていくことを確信しました。
オンライン	20代	先進的に取り組みをされており、学生が学びたいと思える環境を整え、提供及び支援をされているなという印象を受けました。若い世代が社会課題についてしっかり考えているところを見ると、自分自身もより周囲に目を向け行動を起こしていかななくては、と感じました。
オンライン	20代	SDGs 推進研究所が様々なパートナーと連携することを通して、お茶大のみならず、地域を、国を、そして世界をケアするためのハブとなるであろうと感じました。
オンライン	30代	附属幼稚園保護者として参加させて頂きましたが、とても分かりやすい内容で学生の方の意見も拝聴でき、とても有意義なシンポジウムだったと思います。 これからの時代を生きる子の母親として、学び合う姿勢を忘れずに育児に励みたいと思いました。

自由記入欄感想抜粋（2）

会場参加 /オンライン	年代	感想
オンライン	30代	消費者の立場でのSDGs、具体的に何ができるのか興味を持ち、一般人ですが参加させていただきました。ひとつひとつの説明が丁寧で、SDGsについて漠然としたイメージしかなかった私でも、非常に分かりやすく有益なシンポジウムでした。セキュリティやコロナ禍でなかなか難しいかもしれませんが、また私のような一般人でも参加できる機会があれば嬉しいです。また、子供と参加できるような機会があれば、親子で取り組む機会になると思いました。
オンライン	50代	多くの有力なステークホルダーの方々と強力なパートナーシップで推進されることを期待します。また、附属学校との協働についても、学生を巻き込んだ活動を含めて、この分野で先導的な役割を担って行かれるのかなと感じました。

【サステナビリティに配慮した飲食物の提供】

来賓対応や交流会の実施にあたり、味の素㈱、キリンホールディングス㈱、ポッカサッポロフード&ビバレッジ㈱、㈱明治、㈱ロッテより、サステナビリティに配慮した飲食物の提供があった。来賓控室や交流会会場で各社のSDGsに関わる取り組みポスターと共に提供した。

(2) 台北医科大学との国際共同セミナー

2022年に本学SDGs推進研究所と台北医科大学栄養学部との間で、持続可能な開発目標に関する連携推進のための覚書(Memorandum of Understanding: MOU)を締結した。このMOUに基づき、2022年9月8日に「高齢者の食」に関する国際共同セミナーをオンラインで開催した。本学から2名、台北医科大学からは3名が登壇した。

【概要】

国際共同セミナー「高齢者の食」 International Webinar for Promotion of Food Education for Elderly Adults	
日時	2022年9月8日(木)
開催方式	【オンライン視聴】Zoomウェビナー
参加者	63名
本学からの登壇者	藤原 葉子所長 (クロージングスピーチ) 市 育代研究員 (発表) “Preventing Frailty from an Eating Point of View Among Community-dwelling Older Adults” 博士後期課程2年 佐藤 清香さん (発表) ”The prevalence of Undernutrition and Lipid Intake in Nursing Homes” 登壇者を含め、当大学からは9名が参加した。

【セミナーの様子】



【台北医科大学 HP に掲載された本学との提携とセミナーの紹介】

<http://tmubt.azurewebsites.net/archives/16783>

北醫大與日御茶水女子大學聯合舉辦「以食物質地調整飲食推動高齡者之食育」線上國際研討會

發佈日期: 2022-10-15 · 作者: joycechin

本校營養學院高齡營養研究中心、食品安全檢驗暨機能發展研究中心與保健營養學系於2022年9月8日，與盟校日本御茶水女子大學SDGs推動研究所共同合作，以高齡者之食育推廣為目標，利用線上方式舉辦「以食物質地調整飲食推動高齡者之食育」國際研討會。



並邀請到御茶水女子大學市



※聯合國永續發展目標 (SDGs) : SDG2消除飢餓、SDG3健康福祉、SDG17全球夥伴

2. 産学連携

(1) 日本工営(株)と連携協定による活動

本学と日本工営(株)〔本社：東京都千代田区、代表取締役社長：有元龍一（協定締結時）〕は、2021年4月20日に「SDGsに関する包括的連携・協力に関する協定書」を締結している。2022年度は、キックオフシンポジウム（P.31）の開催にあたり、コンサルティングや人員派遣などで連携した他、産学連携プラットフォーム構築（P.41）でも連携した。

(2) (株)セブン&アイ・ホールディングスとSDGsに関する包括的連携協力に係る協定締結

本学と(株)セブン&アイ・ホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：井阪隆一）は、2022年9月26日（月）に「SDGsに関する包括的連携協力に係る協定書」を締結し、同日に調印式を行った。

本学と(株)セブン&アイ・ホールディングスはこれまでに、学生と企業とのSDGsをテーマにした情報交換を実施する等、社会課題解決のための取り組みについて検討してきた。今回、双方の持つリソースを活かし、SDGs目標達成への取り組みを加速させたいとの思いから、共同研究や実証実験を通じた新たな社会価値の創造や課題解決につながる取り組みを検討、推進することを目的とした協定を締結した。産学が連携し、未来世代とともに豊かで持続可能な未来の実現を目指す。

<協定概要>

1. 協定の名称 SDGsに関する包括的連携協力に係る協定

2. 協定締結日 2022年9月26日（月）

3. 協定の目的

多面的な連携のもと、SDGsを基盤とした共同研究、イベントの共同開催などによる人材育成及び教育研究分野で相互に協力し、国際社会、地域社会に貢献することを目的とする。

4. 連携事項

上記の目的を達成するために、次の項目について連携し協力していく。

- a. 将来を担う未来世代への支援・健全育成に関すること
- b. 教育・人材育成の相互支援
- c. 研究交流及び人材交流
- d. 共同研究等の研究協力
- e. 研究成果の普及及び活用
- f. 研究施設・設備の相互利用
- g. その他本協定の目的を達成するために双方が必要と認める事項



協定書調印式の様子

(3) 日本工営(株)、(株)セブン&アイ・ホールディングスを中心とした産学連携プラットフォーム構築

日本工営(株)、(株)セブン&アイ・ホールディングスを中心とした産学連携プラットフォームを構築し、2023年2月に「第1回企業連携 OCHA-SDGs コンソーシアム」を開催した。

【概要】

第1回企業連携 OCHA-SDGs コンソーシアム	
日時	2023年2月3日(金) 10:00~12:00
開催方式	ハイブリッド 【会場】お茶の水女子大学 国際交流留学生プラザ3階 セミナー室 【オンライン】Zoom
参加者	16名+学生委員

内容：

企業からのSDGs話題提供(15分) 森永製菓(株) 宮井 真千子様

SDGs政策側からの話題提供(15分) 岡山大学 佐藤 法仁様

各企業様の関心、進捗など(60分)

今後の連携について(30分)

開催の趣旨：

- ・SDGs達成のためのエコシステムを構築し、大学・企業双方のプレゼンス向上につなげる。
- ・各企業でSDGsを牽引する立場から、OCHA-SDGsのあるべき姿について提言いただく。

学外からの参加者のご所属：味の素(株)、岡山大学、(株)セブン&アイ・ホールディングス、大日本印刷(株)、(株)林原、森永製菓(株)

成果：

このコンソーシアムによって、企業が本学に期待することが明確化した。また、学生の声を企業に届けることができた。そして、本研究所と企業との継続的な連携が合意された。

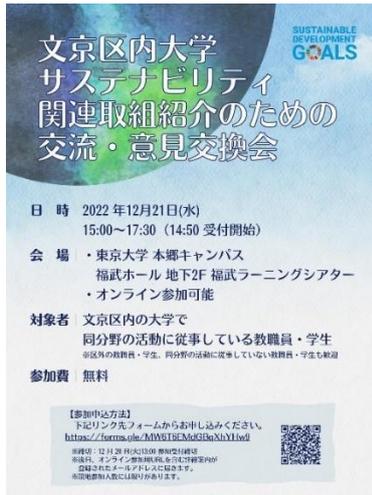


当日の様子

3. 地域連携

(1) 文京区内大学サステナビリティ関連取り組み紹介のための交流・意見交換会への参加

2022年12月21日（水）東京大学本郷キャンパス福武ラーニングシアターにて、主に大学でサステナビリティ分野の活動に従事している教職員・学生を対象とし、開催された（オンライン同時開催）。



文京区内大学
サステナビリティ
関連取り組み紹介のための
交流・意見交換会

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

日時 2022年12月21日(水)
15:00～17:30 (14:50 受付開始)

会場 ・東京大学 本郷キャンパス
福武ホール 地下2F 福武ラーニングシアター
・オンライン参加可能

対象者 文京区内の大学で
同分野の活動に従事している教職員・学生
※以外の教職員・学生、同分野の活動に従事していない教職員・学生も歓迎

参加費 無料

【参加申込方法】
下記リンク先フォームからお申し込みください。
<https://forms.gle/MtVY1BzMc8kx1Y1hd1>

主催 文京区内の各大学
後援 文京区、オンライン事務局、各大学
協賛 各大学
お問い合わせ先 文京区環境・まちづくり課
お問い合わせ先 東京大学経営企画部 CN推進課 (ipc.promotion.adm@eps.mail.u.tokyo.ac.jp)

ポスター

初めに東京大学大久保達也理事・副学長による開会の挨拶と、成澤廣修文京区長による来賓の挨拶があった。その後、各大学での取り組み紹介と参加大学によるパネルディスカッションが行われた。各大学での取り組み紹介として、本学からは藤原葉子 SDGs 推進研究所長が初めに登壇した。お茶の水女子大学で取り組む SDGs (OCHA-SDGs) の特徴と SDGs 推進研究所学生委員の活動第1弾であるフードドライブ (10/25～27 実施) を紹介した。これに続き、東京大学、東洋大学、日本女子大学、日本薬科大学、東京大学消費生活協同組合 (大学生協) が各 SDGs 関連の取り組み事例について紹介した。パネルディスカッションでは、各大学の着眼点を取り上げられ、日本女子大学は防災備蓄品の入れ替え、東京大学は温室効果ガス削減目標におけるライフサイクルアセスメント (LCA)、東洋大学は学生 SDGs アンバサダー制度とおにぎりアクション、日本薬科大学は地域との連携について追加説明を行った。(本学は企業との連携について触れた。) 総括として、本学赤松利恵副学長が大学生協を含めた大学間連携について期待を述べた。学生目線や SNS 活用が重要とのことで、今後は「食 (フードロス対策など)」「水 (ペットボトル削減など)」をキーワードに、文京区フードロス削減キャンペーンや文京区食べ切り協力店等と連携し、学生主体の活動を推進していくと述べた。



当日の様子

(2) 東京大学との GX に向けた地域連携モデルの模索

2022年9月より、「文京区内大学連携 GX (Green Transformation)」と題し、文京区長発案のもと東京大学を中心に、区内 SDGs 推進活動について打ち合わせている。2022年12月21日に本郷キャンパスで行われた5大学合同の意見交換会は、こうした打ち合わせの成果として開催されたものである。

GX に関する文京区内大学の連携に関する会議を、2022年9月5日と11月28日に行った。5大学（お茶の水女子大学、東洋大学、日本薬科大学、日本女子大学、東京大学）の担当者が招集され、2022年9月5日の会合では全大学が、11月28日の会合では本学、日本女子大学、東京大学が参加した。

9月5日の会合では、とりわけ地球温暖化に関わる顕著な問題としてフードロスが上げられ、当連携を通し学生主体の活動をどう構想するか、話し合った。本学としては、フードロスが当研究所の掲げる「生活者起点」に直結する問題であり、学生主体の活動を通し推し進めたい意向を強調し、2022年10月の開催を控えていたフードドライブの告知を行った。各5大学も学生主体の団体（本研究所でいう学生委員）の立ち上げにおける形や募り方を検討していた。本学学生委員も本テーマを皮切りに活動を活発化できるのではないかと期待された。当日の参加者に10月19日の本研究所キックオフシンポジウムの招待をし、会は終了した。

11月28日の会議では、大久保副学長による12月21日の交流・意見交換会について連絡の後、各大学で SDGs 推進活動の進捗状況を共有した。本学は笠松特任教授がキックオフシンポジウム参加へのお礼を述べ、㈱セブン&アイ・ホールディングスと行ったフードドライブが学生主体で行われたことを報告した。

4. 国際連携

(1) 台北医科大学との Memorandum of Understanding (MOU) 締結

お茶の水女子大学と台北医科大学とは、2018年から国際交流協定を締結しているが、これに加えて、2022年から本学SDGs推進研究所と台北医科大学栄養学部との間で、持続可能な開発目標に関する連携推進のための覚書（Memorandum of Understanding: MOU）を締結した。

MOUには、客員研究員の交換や共同研究プロジェクトの企画、国際セミナーなどの合同開催などを通し、国際的なパートナーシップを築きながらSDGs推進研究を継続して実施することが記載されている。この覚書締結による提携関係の有効期間は5年間とし、以下の交流により両大学が持続可能な開発目標に関する連携推進に努めることとなった。

- 客員研究員の交換
- SDGs分野における共同研究プロジェクト
- 両大学の参加のもと共同国際会議、セミナー、シンポジウム、ワークショップその他イベントの開催
- SDGs推進活動に関する経験・情報の共有

初めての国際交流共催企画として両大学参加のもと、国際セミナーが行われた。（P.38参照）

5. 附属学校園との連携

(1) フードドライブ

2022年10月、家庭科教員を中心に附属学校園と連携を図り、フードドライブを共同実施した。本活動は、(株)セブン&アイ・ホールディングスとの連携の一環としての役割も担っていた。学生・生徒・保護者から幅広く協力を得て、合計200kg以上の食品を収集し、フードバンクであるNPO法人セカンドハーベスト・ジャパン（東京都台東区）に寄付した。事後報告会では、お茶大らしいフードドライブとは何かについて議論し、来年度も継続する方向で合意した。本取り組みは、附属学校園との連携を深める契機となった。



フードドライブ活動の参加を呼び掛けるポスター（学生委員作成）

(2) 附属学校授業参観・公開研究会参加

P.30 参照。

6. アウトリーチ活動

関連する SDGs の目標別に記載した。※重複する項目は、() に記載

目標 2 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
2	森光 康次郎	2022 年 12 月	令和 4 年度文化カレッジ 食の視点から考える SDGs～食料・飼料とし ての昆虫～	公益財団法人 としま未来文 化財団	一般
2	由良 敬	2023 年 1 月	令和 4 年度文化カレッジ 食の視点から考える SDGs～食料・飼料とし ての昆虫～	公益財団法人 としま未来文 化財団	一般

目標 3 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3	赤松 利恵	2022 年 6 月	School Food Around the World: Lessons for Canada Japan's school food program webinar	The Coalition for Healthy School Food	一般
3	赤松 利恵	2022 年 6 月	東京都多摩小平保健所栄 養管理講習会	東京都多摩小 平保健所	専門職
3 (4)	赤松 利恵	2022 年 6 月	令和 4 年度湘南三管内食 育研修会	神奈川県教育 委員会教育局 湘南三浦教育 事務所	専門職
3	赤松 利恵	2022 年 7 月	令和 4 年度宮城県学校給 食研究協議会研修会	宮城県教育委 員会	専門職
3	赤松 利恵	2022 年 8 月	第 63 回全国栄養教諭・ 学校栄養職員研究大会第 5 分科会指導助言	文部科学省、 大分県教育委 員会他	専門職

目標3に関連するアウトリーチ活動(2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3(4)	赤松 利恵	2022年 8月	令和4年度東京都学校栄養職員経験者前期(6年次)研修	東京都教育長 地域教育支援	専門職
3	新田 陽子	2022年 9月	プレゼミナール	お茶の水女子 大学	高校生
3	赤松 利恵	2022年 9月	板橋区健康づくり協力店 講習会	板橋区健康生 きがい部	一般
3	赤松 利恵	2022年 9月	令和4年度富士保険局・ 東京都立病院機構専門研 修選種職務専門研修 「栄養士(病院・保健所 等)」	東京都福祉保 健財団	専門職
3 (12)	赤松 利恵	2022年 9月	2022年度徽音塾	お茶大女性リ ーダー育成 塾：徽音塾	一般
3(4)	赤松 利恵	2022年 10月	三重県栄養教諭・学校 栄養職員協議会研修会	三重県栄養教 諭・学校栄養 職員協議会	専門職
3	赤松 利恵	2022年 11月	横浜市給食施設栄養管理 研修会	横浜市健康福 祉局	専門職
3	森光 康次 郎	2022年 11月	食物実技講習会	栄養改善普及 会	一般
3	新田 陽子	2022年 11月	模擬授業	お茶の水女子 大学学祭実行 委員会	一般
3	須藤 紀子	2022年 11月	令和4年度鎌倉保健福祉 事務所保健衛生研修	神奈川県鎌倉 保健福祉事務 所	行政職員、 在宅栄養 士、在宅歯 科衛生士
3	赤松 利恵	2022年 11月	令和4年度小金井みんな の給食委員会講演会	小金井市教育 委員会	専門職・一 般

目標 3 に関連するアウトリーチ活動 (3)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
3 (4)	赤松 利恵	2022 年 12 月	令和 4 年度栄養教諭・ 学校栄養職員研修	広島市教育委 員会	専門職
3	須藤 紀子	2023 年 1 月	令和 4 年度専門研修 「栄養士」	特別区職員研 修所	栄養士
3	須藤 紀子	2023 年 2 月	講演「給食施設における 災害への備え」	多摩立川保健 所	管理栄養 士・栄養 士・調理師 等
3	須藤 紀子	2023 年 2 月	高知市災害時栄養・食生 活支援活動マニュアル 検討委員会	高知市保健所 健康増進課	庁内栄養士
3	赤松 利恵	2023 年 2 月	第 10 回日本栄養改善学 会九州・沖縄支部学術 総会市民公開講座	日本栄養改善 学会九州・沖 縄支部	専門職・一 般
3	佐藤 瑤子	2023 年 2 月	目黒区特定給食管理講習 会「大量調理のサイエン ス」講師	目黒区保健所	区内給食従 事者
3 (4)	赤松 利恵	2023 年 2 月	お茶の水女子大学附属小 学校第 85 回教育実際 指導研究会食育部会	お茶の水女子 大学附属小学 校	専門職・一 般
3 (4)	赤松 利恵	2023 年 2 月	生涯教育（基幹教育） 実務研修 e ラーニング < 学校栄養分野 >	日本栄養士会	専門職

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対 象者
4 (3)	赤松 利恵	2022 年 6 月	令和 4 年度湘南三管内 食育研修会	神奈川県教育 委員会教育局 湘南三浦教育 事務所	専門職

目標 4 に関連するアウトリーチ活動 (2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
4 (3)	赤松 利恵	2022 年 8 月	令和 4 年度東京都学校栄養職員経験者前期 (6 年次) 研修	東京都教育長 地域教育支援	専門職
4	斎藤 悦子	2022 年 9 月	新フンボルト入試サブゼミアンペイド・ワークと生活時間	入試課	高校生
4 (3)	赤松 利恵	2022 年 10 月	三重県栄養教諭・学校栄養職員協議会研修会	三重県栄養教諭・学校栄養職員協議会	専門職
4	浜野 隆	2022 年 11 月	講演「非認知能力の発達と教育「ウエルビーイングに向かう力を育てる」	一般社団法人 ダヴィンチマ スターズ	一般
4 (3)	赤松 利恵	2022 年 12 月	令和 4 年度栄養教諭・学校栄養職員研修	広島市教育委員会	専門職
4	浜野 隆	2023 年 3 月	講演「全国学力・学習状況調査の成果と課題」	宮城教育大学	一般・ 研究者
4 (3)	赤松 利恵	2023 年 2 月	お茶の水女子大学附属小学校第 85 回教育実際指導研究会 食育部会	お茶の水女子 大学附属小学 校	専門 職・一 般
4 (3)	赤松 利恵	2023 年 2 月	生涯教育 (基幹教育) 実務研修 e ラーニング <学校栄養分野>	日本栄養士会	専門職

目標 5 に関連するアウトリーチ活動 (1)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
5	笠松 千夏	2022 年 5 月	ホームカミング・デイ 2022 しなやかに働く 企業の女性リーダー	お茶の水女子 大学	一般
5 (8)	斎藤 悦子	2022 年 6 月	お茶大 SCC 学修プログ ラム「生活時間データ から考える将来」	SCC	SCC 学生

目標5に関連するアウトリーチ活動(2)

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
5	齋藤 悦子	2022年 7月	SDGsについて学ぶ ①健やかな生活と ジェンダー平等	德音塾	德音塾生
5(8)	齋藤 悦子	2022年 8月	令和4(2022)年度 とちぎウーマン応援塾 課題を読み取るワザ～ 男女共同参画を進める 統計の基礎知識と活用～	栃木県	栃木県民
5	齋藤 悦子	2022年 9月	ジェンダード・イノベー ション研究所産学交流会 研究紹介従業員の多様性 に関する企業の戦略	IGI	企業
5	齋藤 悦子	2023年 2月	女子中高生のためのイノ ベーションセミナー第2 回生活者の視点からイノ ベーションを料理行動の 科学一夫婦で家事を担う ためにー	理系女性育成 啓発研究所	女子中高生
5	齋藤 悦子	2023年 3月	ジェンダード・イノベー ション研究所産学交流会 研究紹介イノベーション を促進するためのD&I	IGI	企業

目標7に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
7	中久保 豊彦	2023年 3月	令和4年度廃棄物資源 循環学会関東支部主催 講演会、研究発表会 共催：お茶の水女子大学 SDGs推進研究所	廃棄物資源循 環学会関東支 部	一般

目標 8 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
8 (5)	斎藤 悦子	2022 年 6 月	お茶大 SCC 学修プログラム「生活時間データから考える将来」	SCC	SCC 学生
8 (5)	斎藤 悦子	2022 年 8 月	令和 4 (2022) 年度とちぎウーマン応援塾課題を読み取るワザ～男女共同参画を進める統計の基礎知識と活用～	栃木県	栃木県民
8	斎藤 悦子	2022 年 11 月	R4 ハッピーキャリア 縁カレッジワーク・ライフ・バランス講義	福井県	福井県民

目標 11 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
11	河合 英徳	2023 年 3 月	第 1 回「富岳」が拓く Society5.0 時代のスマートデザインプロジェクトシンポジウム	理化学研究所	一般, 専門職対象

目標 12 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
12 (3)	赤松 利恵	2022 年 9 月	2022 年度德音塾	お茶大女性リーダー育成塾：德音塾	一般

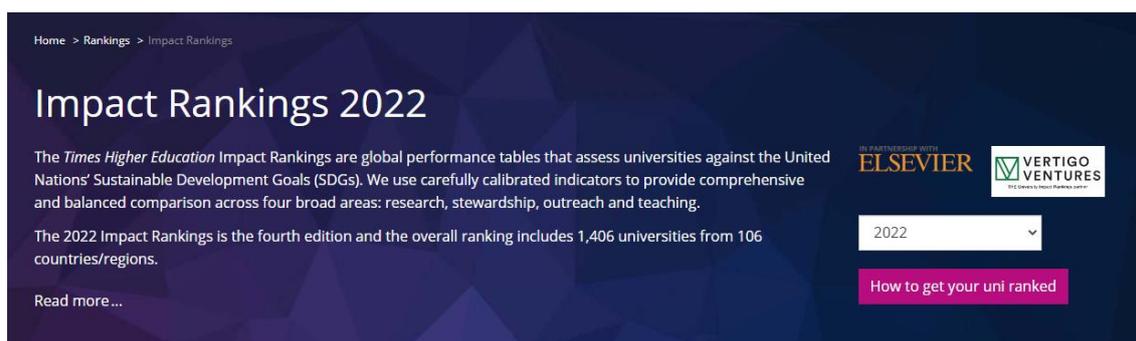
目標 15 に関連するアウトリーチ活動

目標	氏名	年・月	活動名	主催者	主な対象者
15	植村 知博	2022 年 7 月	文京区植物講演会	文京区	一般

7. 学内 SDGs 推進活動

(1) THE インパクトランキングエントリー

THE インパクトランキングは、イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE)」が主催する、大学の社会貢献の取り組みを国連の SDGs の枠組みを使って可視化するランキングである。本学では今年度より THE の評価基準に基づき 2020 年度に実施した学内の SDGs の取り組みに関する情報を収集し、SDG3、4、5、17 でのエントリーを完了した。結果は 2023 年 6 月に発表予定である。



EXPLORE IMPACT RANKINGS FOR INDIVIDUAL SDGS



Show me universities in any country / region offering any subject

Or, find specific universities by name

THE インパクトランキングの画面

(<https://www.timeshighereducation.com/impactrankings>)

(2) SDGs 学内認知度初期値設定のための調査

学内の SDGs 認知度初期値の取得のため、質問紙調査を実施した。2023 年 3 月末日までに収集したデータのうち 362 名が有効回答であり、中間解析を実施した（資料 4）。2023 年度新入生にも対象を広げ、調査を継続している。結果は 2023 年 11 月頃に公式 HP 等を通じて発表する予定である。

(3) OCHA-SDGs 学生委員会設立

OCHA - SDGs 学生委員会とは、学内の SDGs 推進活動を行う学生団体である。2022 年 11 月に、本研究所のサポートを受けて発足した。Education for Sustainable Development (ESD) 班、食班、環境班の 3 部門に分かれ、学内の SDGs 推進活動を開始した。

学生委員会活動例

1) フードドライブ

附属学校園と連携して、フードドライブを実施した。(詳細は、P.46 を参照)

2) セカンドハーベストジャパン見学会

2 月 18 日に学生委員 4 名がセカンドハーベストジャパンを訪問し、フードドライブで集められた食品を保管する倉庫や利用者が食品を受け取る「フードパントリー」等を見学した。



セカンドハーベストジャパン



フードパントリー内様子

3) ㈱日本フードエコロジーセンター見学会

3 月 15 日に、スーパーや工場などで出た「食品ロス」を回収し、養豚用飼料にリサイクルする取り組みを行っている㈱日本フードエコロジーセンターを訪問した。飼料にリサイクルできる食品は栄養素や種類によって厳選しているため、家庭や飲食店で出た残飯などは利用できないことなどを学んだ。



工場の外観



工場内の作業の様子

4) OCHA-SDGs アクションアワード

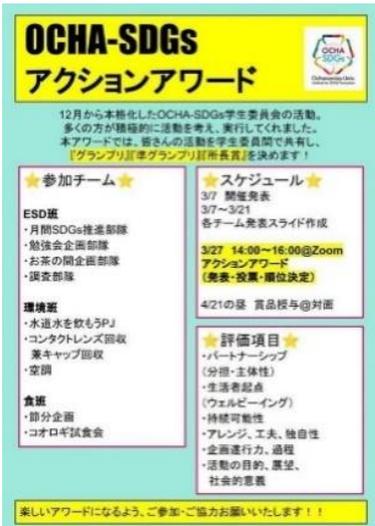
3月27日に2022年度に行った活動や企画を各チームが報告し、投票により優れた活動を選ぶOCHA-SDGsアクションアワードを開催した。

受賞した企画は以下の通りである。

グランプリ：月間SDGs推進部隊

準グランプリ：勉強会企画部隊 コオロギ（昆虫）食試食会 節分企画

藤原所長賞：プラスチック回収PJ（コンタクトレンズ&キャップ回収）



ポスター



表彰状

資料

- ①国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則
- ②お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所パンフレット
- ③キックオフシンポジウムポスター
- ④2022 年度 SDGs 認知度調査 中間報告書

○国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所規則

令和4年3月29日

制定

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人お茶の水女子大学サステイナブル社会実装機構規則第4条第2項の規定に基づき、国立大学法人お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所(以下「研究所」という。)に関し必要な事項を定める。

(目的)

第2条 研究所は、サステイナブル社会実装機構に附属する研究所として、持続可能な開発目標(以下「SDGs」という。)に関する総合的、国際的な研究及び教育並びに学内外において SDGs 活動実践を行い、国際研究拠点を構築するとともに、SDGs の実現に貢献することを目的とする。

(研究及び業務)

第3条 研究所は、前条の目的を達成するため、次に掲げる研究及び業務を行う。

- (1) SDGs に関する基礎及び応用研究
- (2) SDGs に関する教育及び啓発に関する業務
- (3) SDGs 実践活動に関する国内及び国際連携に関する業務
- (4) その他前条の目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 研究所は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 研究所長
 - (2) 研究員
 - (3) その他学長が必要と認めた職員
- 2 研究所に、次に掲げる者を加えることができる。

- (1) 副研究所長
- (2) 教員
- (3) プロジェクト管理者
- (4) 特任職員
- (5) 客員教員
- (6) 客員研究員
- (7) 研究協力員

(研究所長)

第5条 研究所長は、基幹研究院人文科学系、人間科学系及び自然科学系の系会議構成員である教授のうちから学長が任命する。

- 2 研究所長は、研究所の業務を掌理する。
- 3 研究所長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(副研究所長)

第6条 副研究所長は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

2 副研究所長は、研究所長から指定された業務を掌理する。

3 副研究所長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 副研究所長が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(プロジェクト管理者)

第7条 プロジェクト管理者は、本学の専任又は特任の教員のうちから、研究所長が指名する。

2 プロジェクト管理者は、研究所長の指示のもと、研究所の推進するプロジェクトを統括する。

3 プロジェクト管理者の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 プロジェクト管理者が辞任を申し出たとき、又は欠員となったときの後任の者の任期は、前任者の残任期間とする。

(研究員)

第8条 研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に従事する。

2 研究員は、本学専任の教員のうちから、学長が任命する。

3 研究員の任期は2年とし、その終期が研究員となる日の属する年度の翌年度の末日を超えることとなる場合は、翌年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

(客員研究員)

第9条 客員研究員は、第3条に掲げる研究及び業務に参画する。

2 客員研究員は、本学専任の教員以外の者を、学長が委嘱する。

3 客員研究員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(研究協力員)

第10条 研究協力員は、第3条に掲げる研究及び業務に協力する。

2 研究協力員は、本学専任の教員以外の者を、研究所長が委嘱する。

3 研究協力員の任期は1年とし、その終期が委嘱する日の属する年度末を超えることとなる場合は、年度末までとする。ただし、再任を妨げない。

(運営会議)

第11条 研究所に、研究所の運営並びに研究及び業務に関する事項を審議するため、SDGs推進研究所運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次に掲げる者をもって組織する。

(1) 研究所長

- (2) 副研究所長
 - (3) 第4条第1項第2号に掲げる教員
 - (4) 第4条第1項第3号に掲げる研究員
 - (5) その他所長が必要と認めた者
- 3 運営会議の議長は研究所長をもって充て、議長は運営会議を主宰する。
- 4 運営会議の構成員は、第2条の目的を達成する上で必要な事項について、運営会議での審議を求めることができる。
- 5 研究所長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。
- 6 本条に定めるもののほか、運営会議に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第12条 研究所の事務は、研究・産学連携課が行う。

(雑則)

第13条 この規則に定めるもののほか、研究所に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

Seikatsu-sha-oriented “OCHA-SDGs”

Seikatsu-sha: subjects who are creatively involved in enriching their lives

Small daily efforts by each *seikatsu-sha* are indispensable to make a social movement toward a sustainable future.

With our promotion activities named “OCHA-SDGs”, we contribute to create a sustainable future.

Institute for SDGs Promotion Official SNS

Institute's official website:
<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/index.html>



Instagram Twitter

The composition of the institute and the goals of each section

➤ Research Section

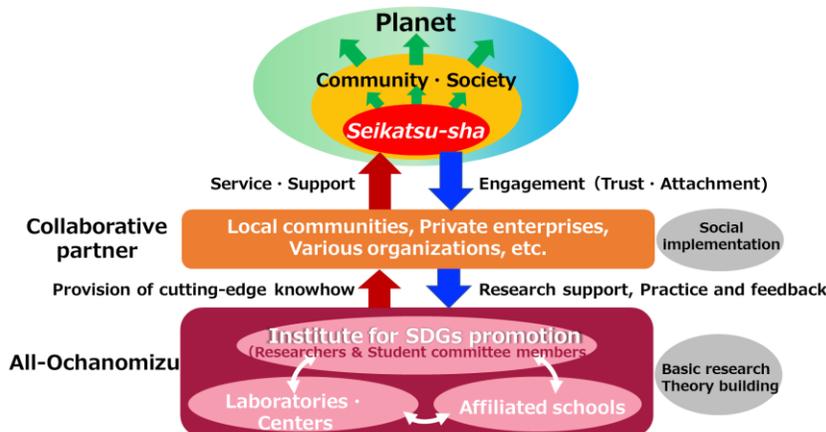
Composed of faculty members on campus, we promote “*seikatsu-sha*-oriented” research focused on people’s comfort and sense of well-being to create a sustainable society. In addition, we aim to function as a platform where experts and researchers from different fields can collaborate.

➤ Planning and Coordination Section

We build partnerships both inside and outside of the campus that are indispensable for implementing our achievements in society, coordinate joint research among researchers from different fields, conduct research with companies, and arrange and support SDGs promotion activities through collaboration with affiliated schools.

➤ Education Section

Through the research data achieved by the research division and SDGs promotion activities, we provide SDG-related educational and research programs according to the developmental stage of students.



Our Engagements

- The kick-off symposium of the Institute for SDGs Promotion
- On-campus Food Drive
- Conclusion of the comprehensive partnership agreement related to SDGs with College of Nutrition, Taipei Medical University (TMU)
- Conclusion of the comprehensive partnership agreements related to SDGs with private companies
- Tour of a food bank in Tokyo
- Class Visit to Junior High School’s Home Economics/Social Studies
- Corporate Collaboration Consortium
- OCHA-SDGs Official Character Recruitment
- OCHA-SDGs Action Award



Student Committee Members

Regular Study Session

OCHA-SDGs Student Committee

Consisting of the ESD Team, Food Team, and Environment Team, we lead the University’s SDGs activities by holding regular study sessions, environmental surveys of campus, information dissemination via SNS, and exchanges with other universities.



お茶の水女子大学
SDGs推進研究所



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs)を支援しています。

SDGs推進研究所とは

設立以来「学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する」をミッションと掲げ、女子の高等教育と高度人材の輩出に貢献してきたお茶の水女子大学の理念はSDGsの目指す理念と合致するものです。持続可能な未来の構築に向けて世界的な動きが加速する今、SDGs推進研究所は、本学の特色である生活科学を中心とした研究実績を社会に実装するための統合拠点となると同時に、高い問題意識・率先した行動力を持つ未来のサステナビリティリーダーとなる人材の育成に努めます。

研究所の特色

➤ 生活科学を中心に他分野の研究者との協働

生活科学は多様な学術分野からなる複合領域であり、異分野の研究者が協働して取り組みやすいという利点に加え、学内で行われている環境、教育、海洋、情報などのSDGsに関連した多様な研究、さらには文理融合型の共同研究にサステナブルな視点を取り入れ、新たな課題解決にチャレンジすることが可能です。

➤ 生活者起点のSDGsの研究推進

お茶の水女子大学では前身の家政学部時代から一貫して「人間らしい豊かで健康な生活」「様々な価値観を持った人々や社会との共生」「環境問題と人間生活の調和」等、地に足の着いた生活者の視点から研究に取り組んできました。SDGsの実現には長期的な視点のもと、生活者一人一人が足元から着実に推進していくことが重要であるとの考えから「生活者」をキーワードに据え研究・推進活動を行っています。(OCHA-SDGs)

➤ 大学と附属学校園が一体となった推進活動

同キャンパス内にあるナーサリー、幼稚園、小中高の附属学校園と連携を深め、各世代における未来の消費リーダーの問題意識や行動力を高める教育プログラムを提案・実行すると共に、生徒・児童の未来に対する価値観や危機感を共有しSDGs推進活動と研究に活用します。

SDGsとは

持続可能な未来の構築を目指し、環境・貧困・ジェンダー等に関する様々な社会問題を2030年までに解決するべく国連によって定められた全世界的取り組みです。17のゴールと169のターゲットが定められています。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

生活者起点の“OCHA-SDGs”

生活者一人一人の行動がコミュニティを動かし、社会全体のムーブメントとなると、お茶の水女子大学で行うSDGs推進活動を“OCHA-SDGs”と名付け、サステナブルな未来の構築に貢献します

お茶の水女子大学SDGs推進研究所
公式SNS

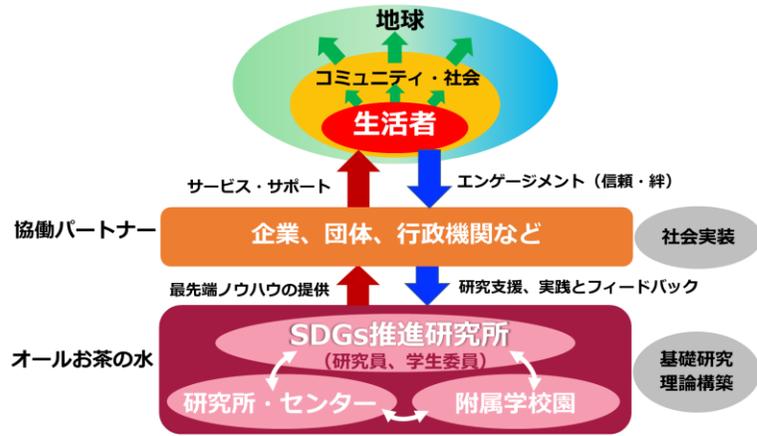
当研究所HP:
<https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/index.html>



Instagram Twitter

研究所の構成と各部門の目標

- 研究部門**
 学内の教員から構成され、人びとのwell-beingに配慮した持続可能な環境作りのための「生活者起点の」研究を推進していきます。
 又、異分野の専門家が協働して研究を行えるプラットフォームとして機能することを目指します。
- 企画・調整部門**
 生活者起点のSDGs研究を着実に推進し、社会に実装していくために欠かせない学内外のパートナーシップの構築に努め、学内の研究者の共同研究の調整、企業等との共同研究や外部資金の獲得、学生や附属学校園との連携を通じたSDGs推進活動を支援し発信する役割を担います。
- 教育部門**
 研究部門の研究の成果や学生を中心としたSDGs推進活動を通して、子供から大人までの発達段階に応じたサステナブル教育を企画・実施し、SDGs関連カリキュラムの開発を行います。



取り組み (例)

- 設立記念キックオフシンポジウムの開催
- キャンパス内フードドライブ活動の実施
- 台北医科大学とSDGsに関する覚書(MOU)に署名、共同国際シンポジウムの開催
- 民間企業とのSDGsに関する包括的連携協力に係る協定締結
- 都内フードバンク見学
- 附属中学校授業訪問(家庭科/社会科)
- 企業連携コンソーシアムの開催
- OCHA-SDGs公式キャラクター募集
- OCHA-SDGsアクションアワード



OCHA-SDGs 学生委員

本学のSDGs活動のリーダー
ESD班・食班・環境班、広報班から構成され、定期的な勉強会・環境調査・情報発信、学外交流を行います。研究所と連携し、学内のSDGs活動を盛り上げます！



Institute for SDGs Promotion



About Us

Ochanomizu University's primordial mission, to "be a place where all women who are motivated to learn can realize their earnest dreams.", completely matches the principle of the Sustainable Development Goals (SDGs).
As the global movement toward a sustainable future accelerates, we will serve as an integrated base for implementing our university's research achievements centered on the human life sciences into society. At the same time, we will develop human resources who will become future sustainability leaders with a high awareness of issues and the ability to take initiative.

Characteristics of the Institute

- Collaboration with researchers from various fields**
 Human life sciences is a multidisciplinary field in which researchers from different fields can easily collaborate. We make the most of this advantage to tackle social issues by incorporating a sustainable perspective into various SDG-related research conducted on campus, along with our accumulated and ongoing interdisciplinary research.
- Promoting seikatsu-sha-oriented SDG research**
 The Faculty of Human Life and Environmental Sciences has continuously conducted consumer-oriented research with the considerations of the meaning of a full, healthy, and humane way to live, ways to live together with people and societies with different values, balancing the richness of human life with environmental concerns. We will pursue a sustainable society by conducting further research from the perspectives of *seikatsu-sha*. (OCHA-SDGs)
Seikatsu-sha: subjects who are actively involved in enriching their lives
- Promotion activities collaborating with the affiliated schools**
 By raising the awareness of students by providing our SDG-related educational programs, we aim to develop future consumer leaders who will move society forward actively to achieve the SDG goals. Also, we will share the values and sense of crisis for the future of students in each generation and utilize them for further SDG research.

What is the SDGs?

The abbreviation "SDGs" stands for the Sustainable Development Goals. They consist of 17 goals and 169 targets that were set by the United Nations to solve global social issues and achieve a sustainable world by 2030.



Ochanomizu Univ.
Institute for SDGs Promotion

お茶の水女子大学 SDGs推進研究所



私たちは持続可能な開発目標（SDGs）を
支援しています

設立記念キックオフシンポジウム 「生活者起点で実現するSDGs」 —OCHA-SDGsの新たな挑戦—

持続可能な社会の実現のために、
今「私たちから」できることって何だろう？

SDGs推進研究所は、本学の特色であるジェンダーや生活
科学研究を基盤として、生活者の立場から持続可能な社会
に貢献できる研究・教育と社会実装を目指します。
人にも地球にも幸せな未来を描けるSDGsを
幼稚園から大学院まで、全学的に推進していきます。

2022. **10.19** (wed)

時間: 14:00~16:30

(17:00~18:00 産官学交流会)

会場: お茶の水女子大学講堂
「徽音堂」

or
オンライン配信

参加費 無料

申し込みはこちらから

ご来場の方

オンライン参加



【主催】 お茶の水女子大学

【後援】 消費者庁、文部科学省、経済産業省

詳細: <https://www.cf.ocha.ac.jp/sdgs/>
お問い合わせ: sdgs-office@cc.ocha.ac.jp



お茶の水女子大学
Ochanomizu University

Program

	総合司会	笠松 千夏	お茶の水女子大学 SDGs推進研究所特任教授
14:00-	開会の挨拶	佐々木 泰子	お茶の水女子大学長
14:05-	ご来賓挨拶	小池 百合子 氏 森 晃憲 氏 茂木 正 氏 成澤 廣修 氏 白波瀬 佐和子 氏 包括連携協定締結民間企業 有元 龍一 氏 井阪 隆一 氏	東京都知事 文部科学省 研究振興局長 経済産業省 商務・サービス審議官 文京区長 国際連合大学 上級副学長 国際連合 事務次長補 日本工営株式会社 取締役会長 株式会社セブン&アイ・ホールディングス 代表取締役社長
14:25-	基調講演1	SDGsは地球市民の未来 新井 ゆたか 氏	消費者庁長官
14:40-	基調講演2	産業界におけるSDGs推進の重要性 長谷川 知子 氏	日本経済団体連合会 常務理事
14:55-	プレゼンテーション	SDGs推進研究所について 藤原 葉子	お茶の水女子大学 SDGs推進研究所長
15:10-	休憩		
15:15-	パネルディスカッション	OCHA-SDGsに期待すること ファシリテータ 菊池 淳子 パネリスト(五十音順) 太田 朝弓 鈴木 由香 氏 釣流 まゆみ 氏 中久保 豊彦 森島 千佳 氏 葭内 ありさ	お茶の水女子大学 SDGs推進研究所客員研究員 お茶の水女子大学 文教育学部3年 大日本印刷株式会社 サステナビリティ推進部 部長 株式会社セブン&アイ・ホールディングス 執行役員 お茶の水女子大学 SDGs推進研究所副所長 味の素株式会社 執行役 サステナビリティ・コミュニケーション担当 お茶の水女子大学附属高等学校教諭
16:25-	閉会の挨拶	太田 裕治	お茶の水女子大学 副学長

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所

2022 年度 SDGs 認知度調査

—中間報告書—

2022.5.10

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL & FAX : 03-5978-2568

【目次】

1 調査の概要	P.2
2 調査結果	
(1) 対象者の特徴	P.5
(2) SDGs 認知度	P.7
(3) SDGs に対する関心	P.8
(4) SDGs 各目標に関する知識・態度・行動	P.9
(5) SDGs 達成への参画意識	P.12
(6) SDGs に関してお茶大に求めること	P.31
3 参考資料	
1) 調査質問紙（お茶大生対象）	P.34
2) 調査質問紙（一般女性対象）	P.47

1. 調査の概要

【序論】

SDGs 推進研究所では、持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals: SDGs）の達成に向けた実践活動を統合する拠点として、生活者を起点とした SDGs 教育・研究プログラムを企画実行し、地域社会・民間企業・各種機関と連携し、社会全体で SDGs の達成を推進していくための人材養成を行っている。その一環として、本研究調査では、本学学生（学部生・大学院生）を含む女子青年における SDGs の認知度及び SDGs に関する知識・態度・行動に関する質問紙調査を実施する。収集したデータから、SDGs の知識・行動・態度との関連を検討し、得られた結果を本学学生と一般女子青年との間で比較する。さらに、得られた調査結果を基礎資料とし、SDGs 推進研究所のミッションである、SDGs 推進に資する教育プログラムの開発を目指す。

本研究が女子青年の SDGs に関する知識・態度・行動に焦点を当てる意義として、次の2つが挙げられる。第一に、大学生を含む若年者の SDGs に関する意識の高さである。我が国における若年者は他の世代と異なり、学生時代から SDGs に関する学修を行っている。実際に、2021年に民間で行われた調査では、10代が、SDGs の認知率が最も高かった（1）。SDGs に示される社会課題解決のための行動や習慣については先行研究が少ないため、本研究で若年女性における SDGs の知識・態度と生活行動との関連を検討することで、全世代に波及可能な教育プログラム作成のための基礎資料を得ることができる。第二に、わが国のジェンダー平等の実施状況が低いことである。SDGs の目標5に掲げられているジェンダー平等の実現は、わが国では他の先進国と比較して大きく遅れている。2022年7月に公表された「The Global Gender Gap Report 2022」では、日本のジェンダーギャップは146カ国中116位と先進国の中でも非常に低かった（2）。従って、我が国で SDGs 推進活動を展開するために、上記世代に該当する女子青年を対象として、SDGs に対する知識・態度・行動についてデータを収集・分析し、社会課題解決のためのプログラム開発に必要なエビデンスを提供することを目的とした本研究は、学術的かつ社会的な意義を有するものと考えられる。

【目的】

女子青年における SDGs に関する知識・態度・行動との関連を明らかにするために、オンライン質問紙調査（無記名自記式）による横断研究を実施すること。

【方法】

（1）研究デザイン：横断研究

本学学生を対象とした【調査1】、一般女子青年を対象とした【調査2】から構成される無記名自記式質問紙調査

(2) 調査の対象者

【調査1】 本学の学部生（1～4年生）、大学院生（博士前期課程1～2年生、博士後期課程1～3年生）合計約2,700名

【調査2】 調査会社（株式会社アスマーク）にモニター登録している女子青年約500名（18～25歳）

(3) 調査実施期間

【調査1】 2023年2月1日～3月31日※2023年度新入生にも対象を広げて継続中

【調査2】 2023年2月8日～13日

(4) 調査内容

質問項目リスト参照

質問項目リスト（調査1・2）

セクション	No	内容	質問項目数	【調査1】 本学学生	【調査2】調査 会社モニター
A	1	本学への所属	1	○	
A	2	学籍番号の上5桁(入学年度・所属学部・学科)	1	○	
A	3	年齢	1	○	○
A	4	母国語	1	○	
A	5	居住形態	1	○	○
A	6	居住地(都道府県)	1		○
A	7	婚姻状況	1		○
A	8	職業	1		○
A	9	生活のゆとり感	1	○	○
A	10	学生生活充実度	1	○	
A	11	2022年度後期の登校日数	1	○	
B	1	SDGsの知識	1	○	○
B	2	SDGsへの全般的な関心	1	○	○
B	3	SDGsに関心を持ったきっかけ	1	○	○
B	4	SDGs各目標への知識	17	○	○
B	5	SDGs各目標への関心	17	○	○
B	6	SDGs各目標と自分の生活との関連	17	○	○
C	1	SDGs実践行動の全般的な実践状況	4	○	○
C	2	SDGsに関する生活行動	6	○	○
C	3	夏季の冷房設定室温	1	○	○
C	4	SDGsに関する食行動	10	○	○(9)
C	5	朝食摂取状況	1	○	○
C	6	SDGsの目標達成のための主体的な活動の実践状況	12	○	○
C	7	男女の役割にとらわれない行動	1	○	○
C	8	いじめや不登校の経験	1	○	
D	9	本学のSDGsに対する自由意見	1	○	
D	10	SDGsの実現のために自分ができること	1		○
E		IMC質問	1	○	○
N/A		ダミー質問	5	○	○
		total	105	102	98

2. 調査結果

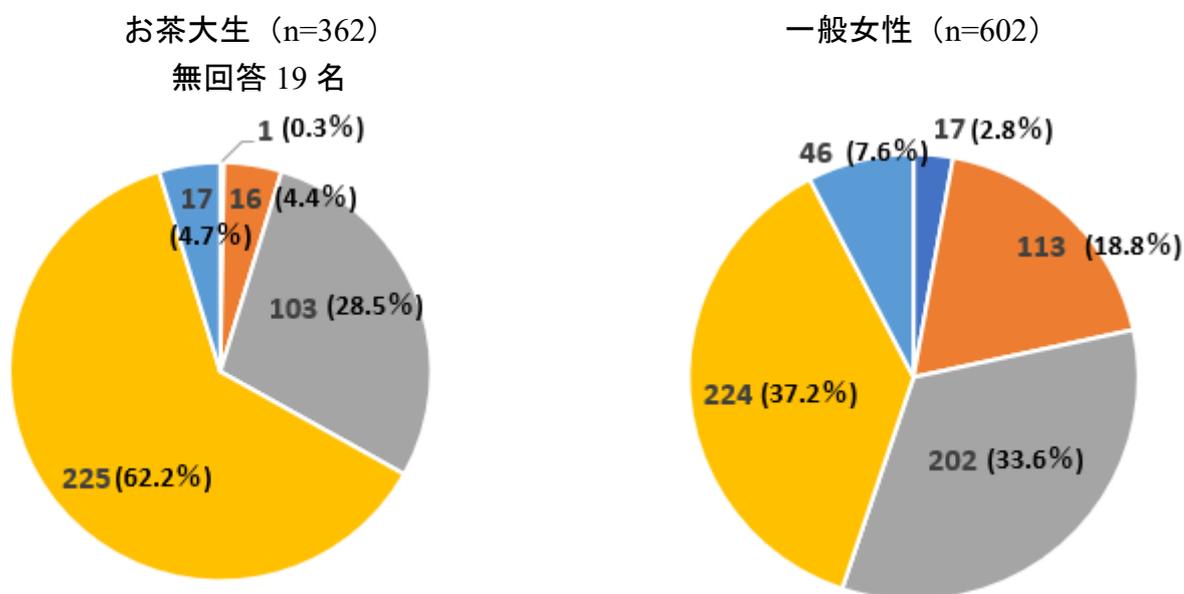
(1) 対象者の特徴

	お茶大		一般		p ^a
	n/平均	%/SD	n/平均	%/SD	
合計 (人)	362	100	602	100	
性別 (人)					
女性	362	100	602	100	-
年齢 (歳)	21.7	3.32	21.9	2.3	0.358
居住形態 (人)					
一人暮らし	76	21.0	141	23.4	
実家暮らし (お茶大)	197	54.4	-	-	-
寮暮らし (お茶大)	87	24.0	-	-	-
同居者あり (一般)	-	-	461	76.6	
無回答	2	0.5			
暮らし向き (1: 全くゆとりがない～ 5: ゆとりがある)	3.5	1.09	2.9	1.14	<0.001
職業 (一般のみ回答・人)					
会社・団体の経営者・役員			14	2.3	
会社員 (契約社員/派遣社員含む)			138	22.9	
公務員			16	2.7	
自営業・自由業			10	1.7	
専業主婦			12	2	-
パート・アルバイト			68	11.3	
学生			307	51	
無職/リタイア			32	5.3	
その他			5	0.8	

^a t検定

(2) SDGs 認知度

「あなたは、SDGs について知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。」



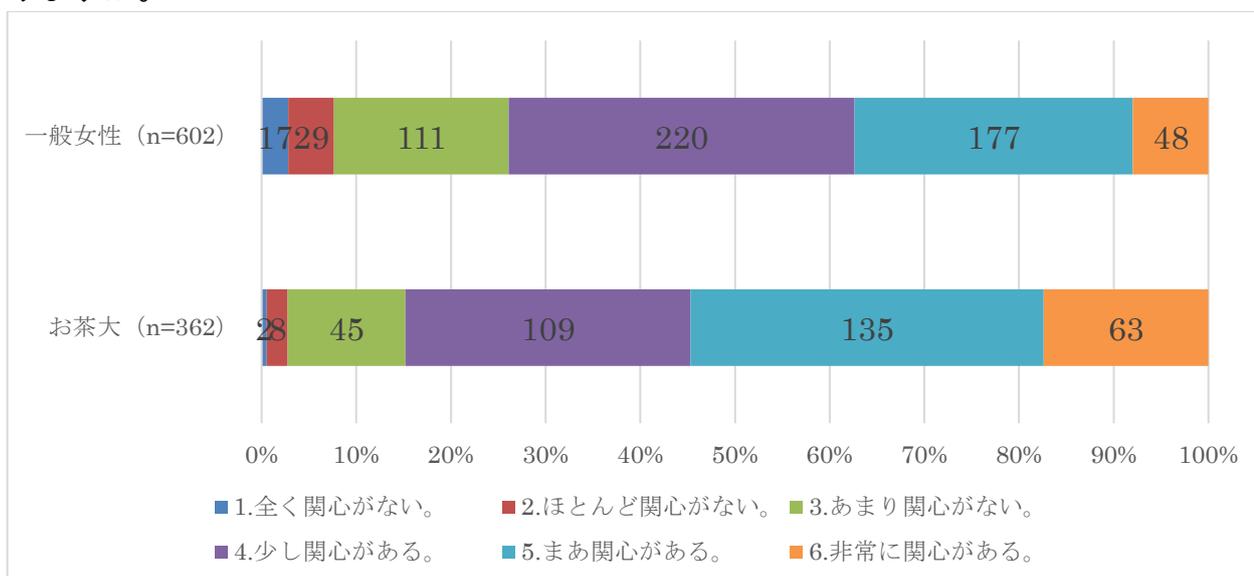
- 1. 名前を聞いたことがない。
- 2. 名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3. 名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4. 上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5. 上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

SDGs 認知度（上記項目で 3-5 と回答した者の割合）は、

お茶大生：95.3%、一般女性：77.7%であった

（3）SDGs に対する関心

あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）にどの程度関心がありますか。



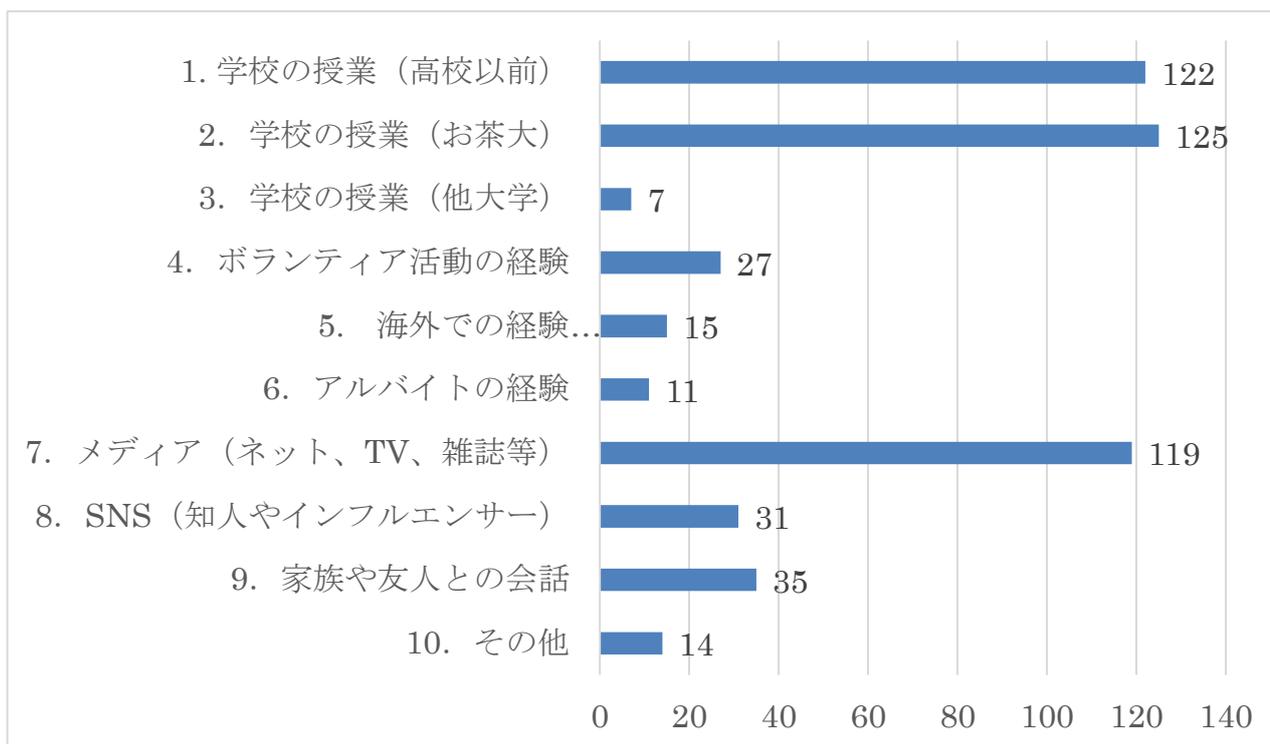
カイ二乗検定, * $p < 0.05$

SDG 関心度（上記項目で 4-6 と回答した者の割合）は、

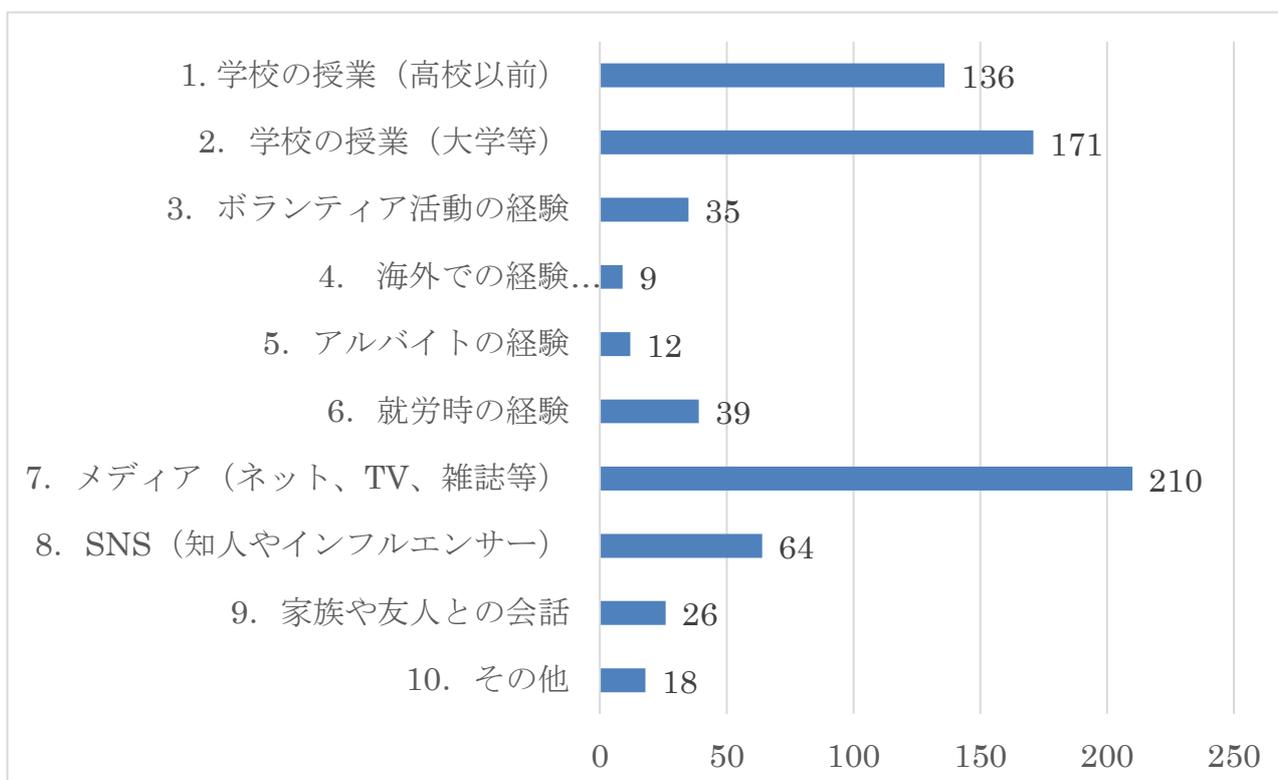
お茶大生：84.8%、一般女性：73.9%であった

あなたが、SDGsに興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

①お茶大生 (n=362)



②一般女性 (n=602)

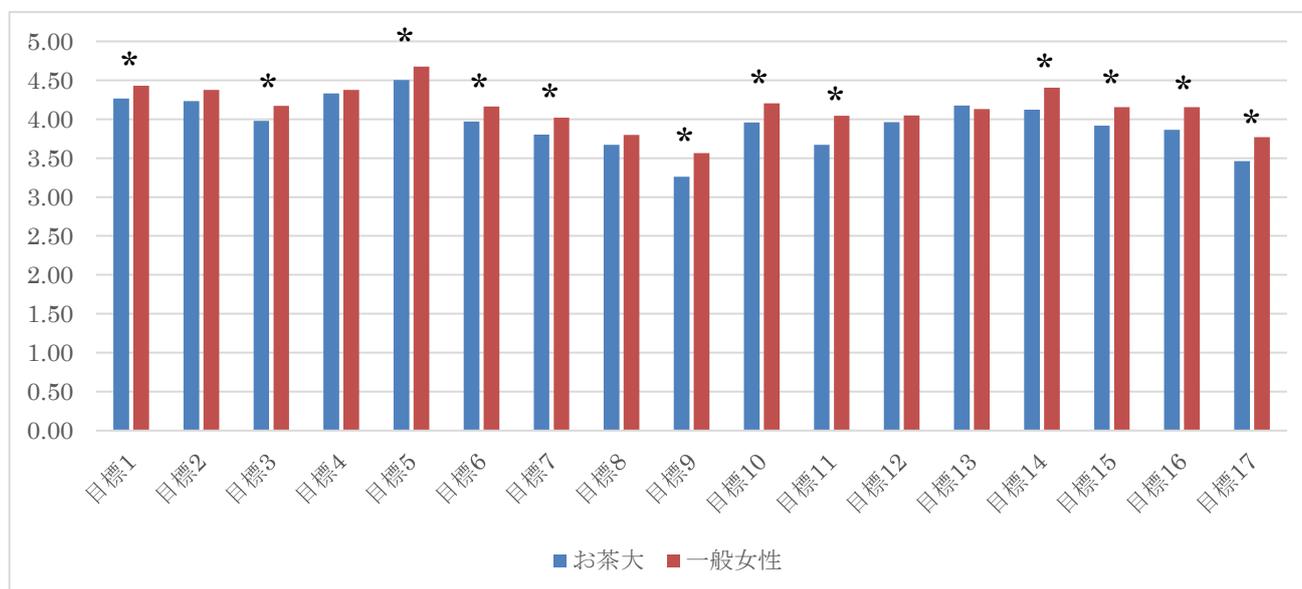


(4) SDGs 各目標に関する知識・態度・行動

①各目標に関する知識

「あなたは、SDGs の 17 つの目標の内容について、どの程度知っていますか。」

1：全く知らない～6：非常によく知っている の 6 件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

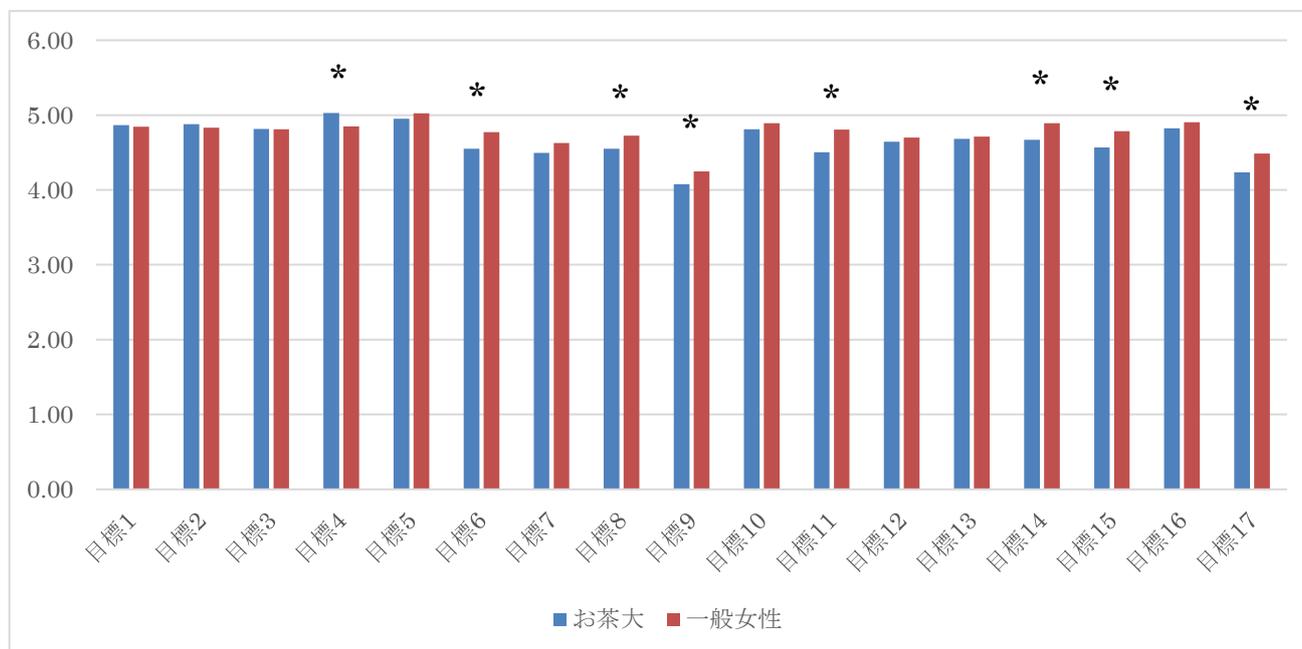
高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 5	4.5	目標 9	3.3	目標 5	4.7	目標 9	3.6
2	目標 4	4.3	目標 17	3.5	目標 1	4.4	目標 17	3.8
3	目標 1	4.3	目標 11	3.7	目標 14	4.4	目標 8	3.8

②各目標に対する態度（関心の強さ）

「あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。」

1：全く関心がない～6：非常に関心がある の6件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

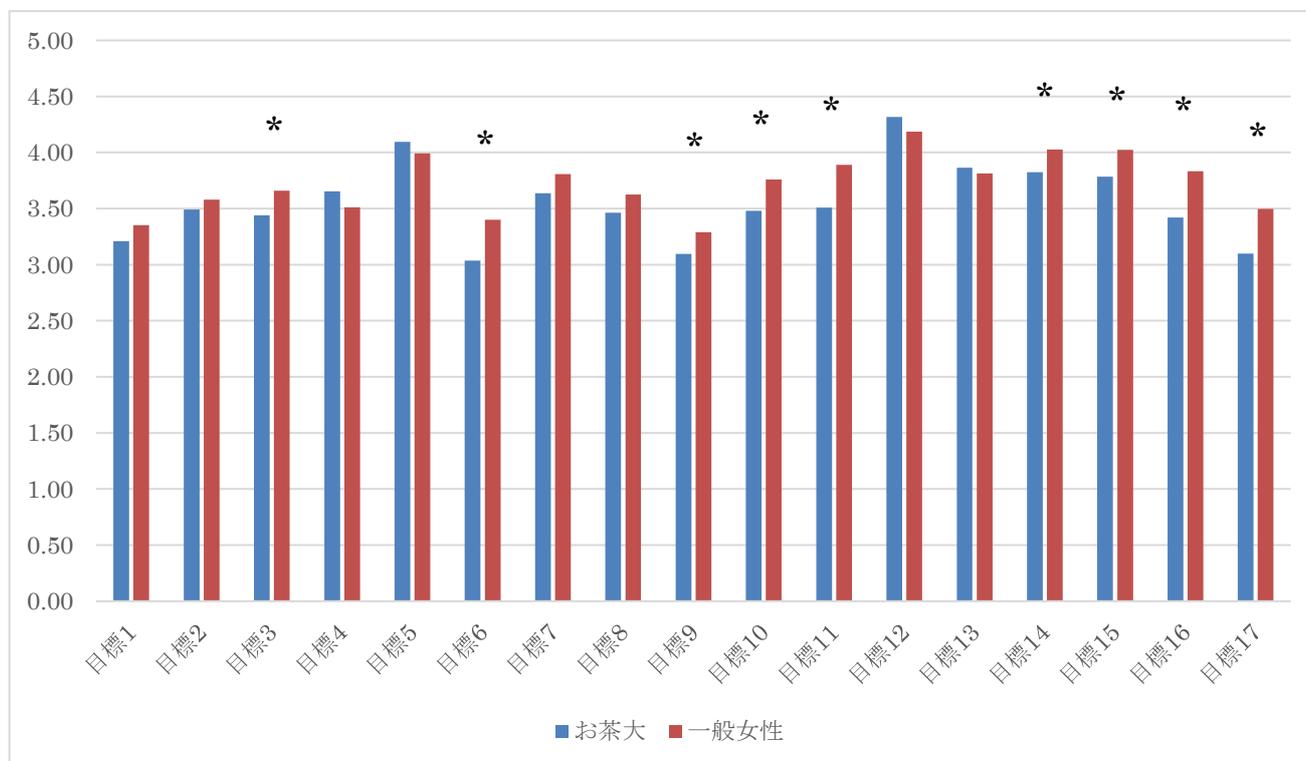
高得点/低得点を獲得した目標

順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 4	5.0	目標 9	4.1	目標 5	5.0	目標 9	4.2
2	目標 5	5.0	目標 17	4.2	目標 16	4.9	目標 17	4.5
3	目標 2	4.9	目標 7	4.5	目標 14	4.9	目標 7	4.6

③各目標と自分の行動との関わり

「あなた自身の行動は、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。」

1：全く影響しない～6：非常に強く影響する の6件法で回答



* $p < 0.05$, t 検定

高得点/低得点を獲得した目標

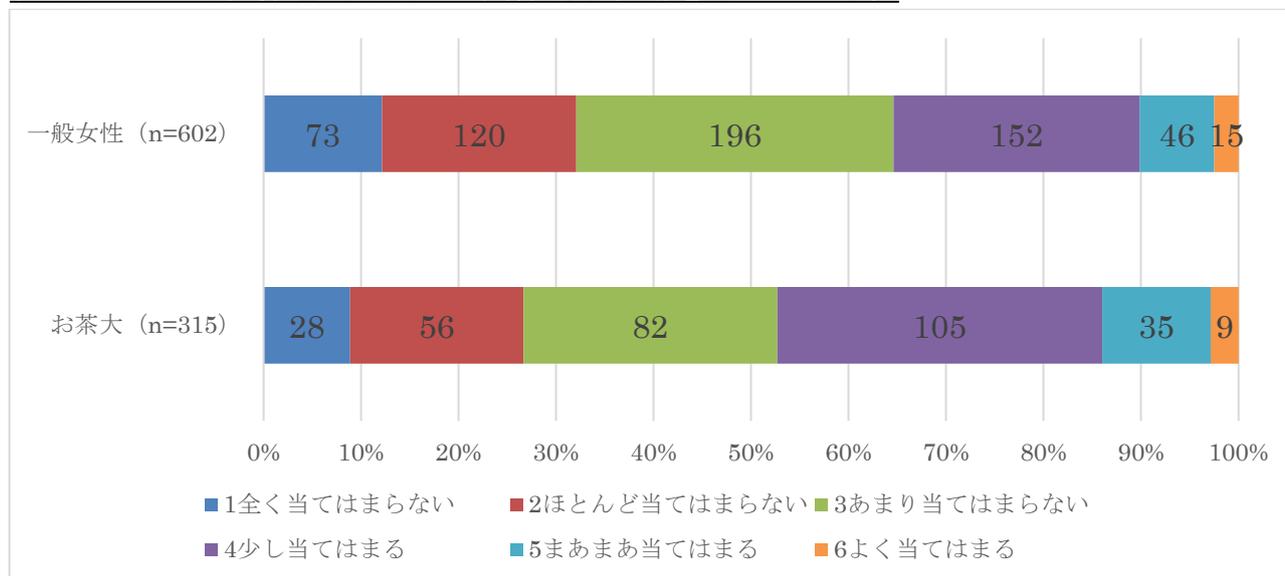
順位	お茶大				一般女性			
	高得点	平均点	低得点	平均点	高得点	平均点	低得点	平均点
1	目標 12	4.3	目標 6	3.0	目標 12	4.2	目標 9	3.3
2	目標 5	4.1	目標 9	3.1	目標 14	4.0	目標 1	3.4
3	目標 13	3.9	目標 17	3.1	目標 15	4.0	目標 6	3.4

(5) SDGs 達成への参画意識

①SDGs 達成のための行動全般

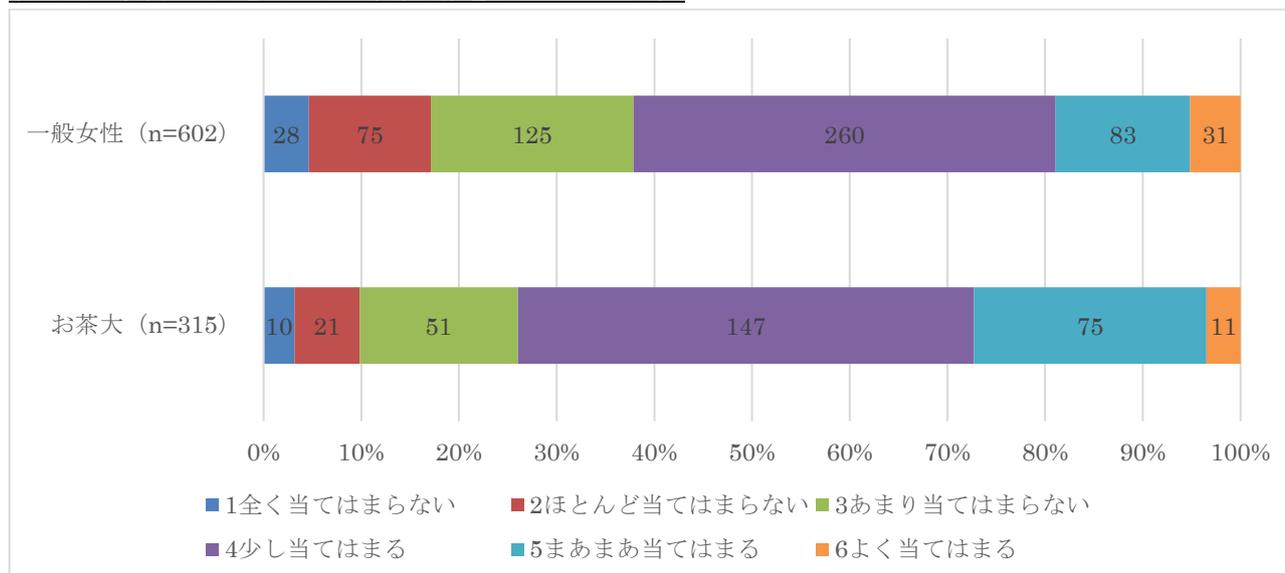
「次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。」

私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。



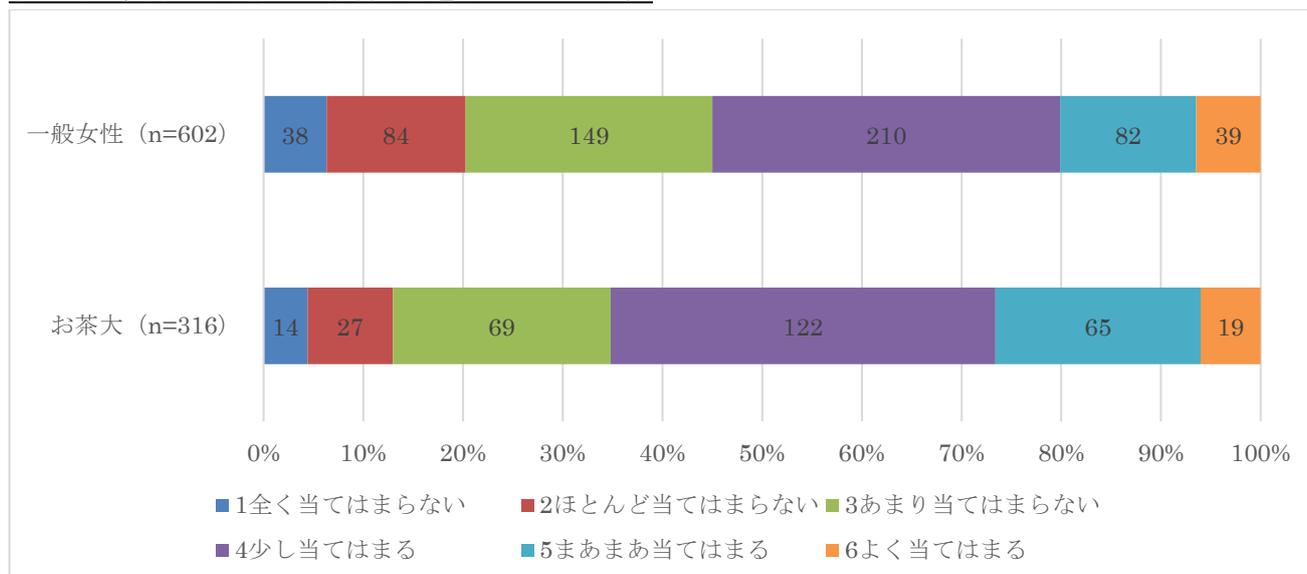
カイ二乗検定, $p=0.022$

私は、環境に配慮した生活行動をとっている。



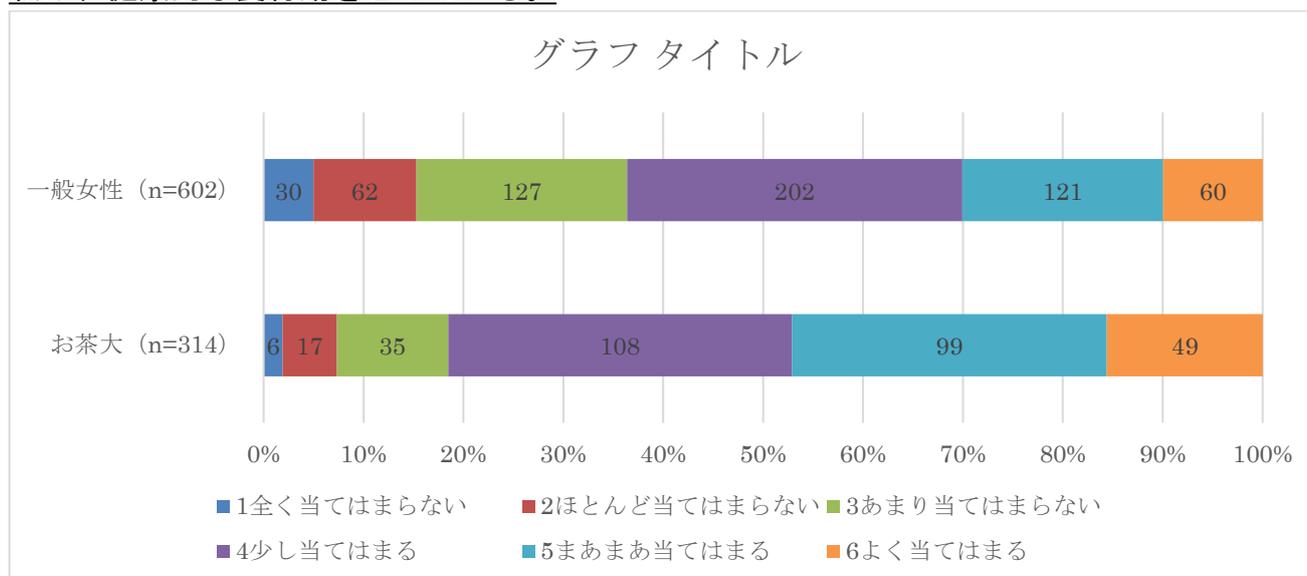
カイ二乗検定, $p<0.001$

私は、環境に配慮した食行動をとっている。



カイ二乗検定, $p=0.015$

私は、健康的な食行動をとっている。

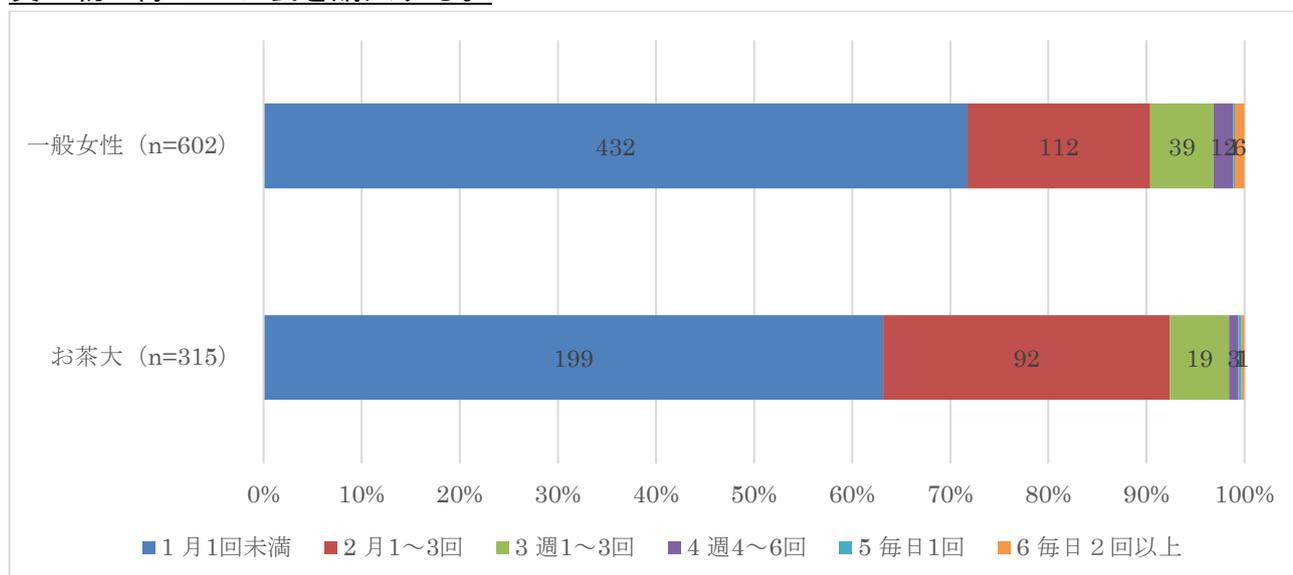


カイ二乗検定, $p<0.001$

②SDGs 達成のための生活行動

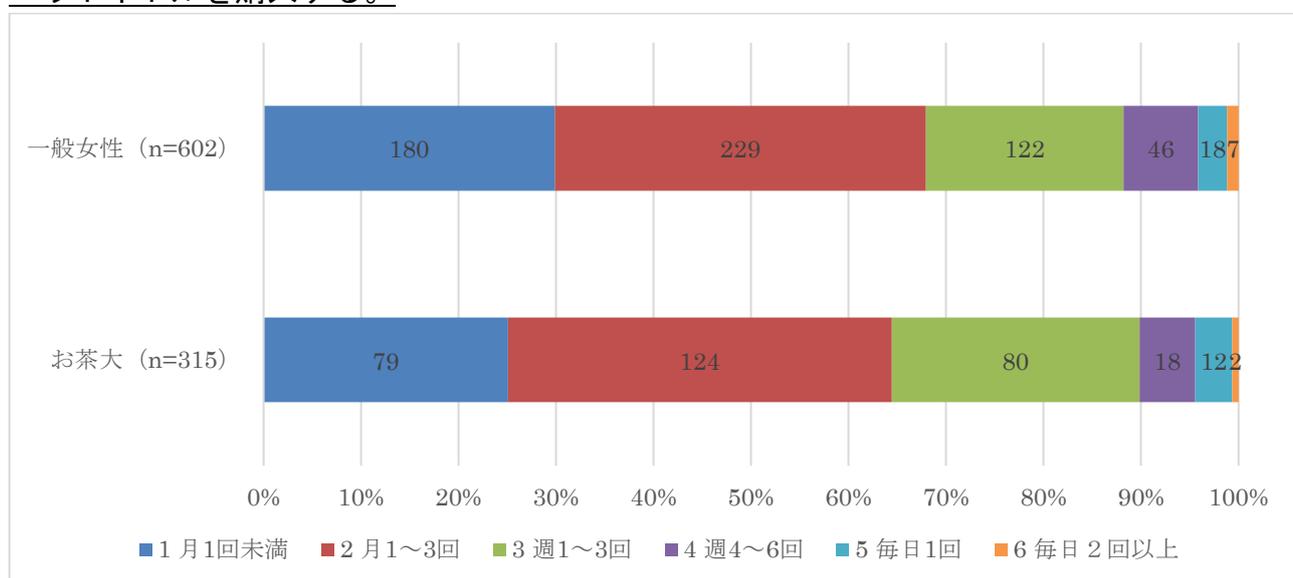
「あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去1か月程度のことを振り返ってお答えください。」

買い物の際にレジ袋を購入する。



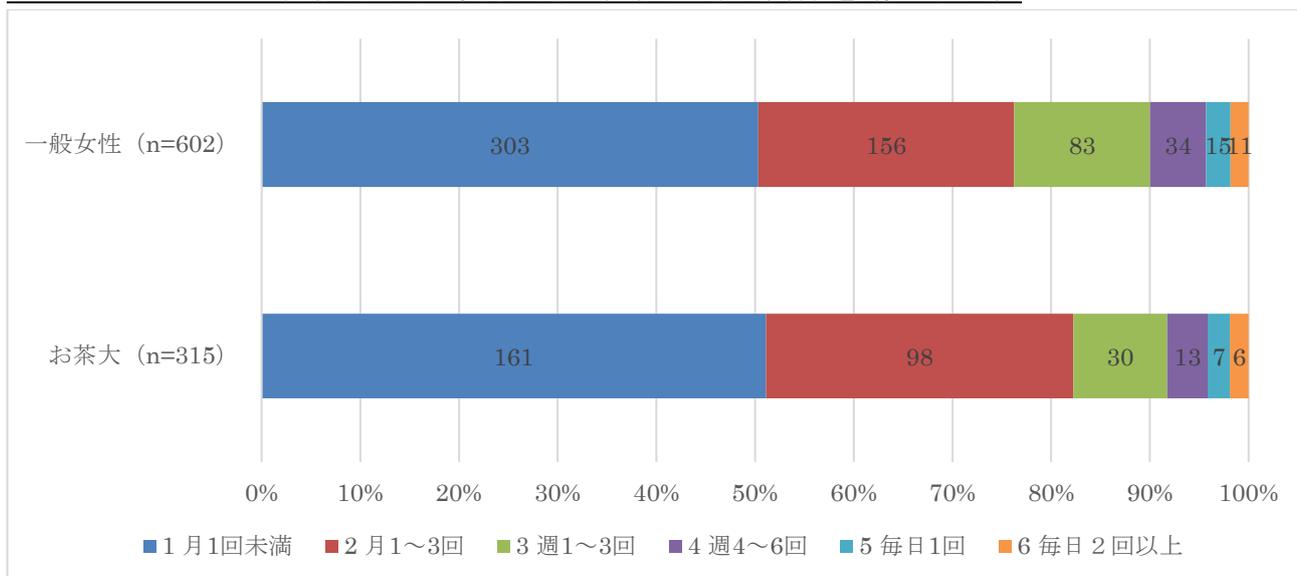
カイ二乗検定, $p=0.008$

ペットボトルを購入する。



カイ二乗検定, $p=0.271$

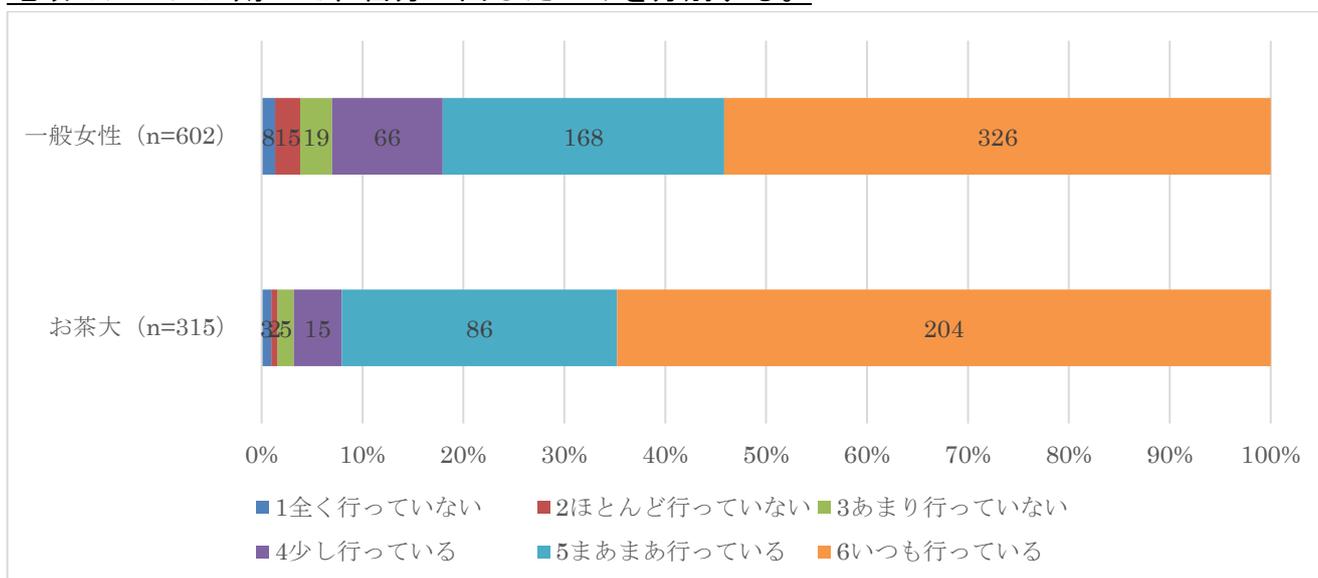
エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。



(FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)

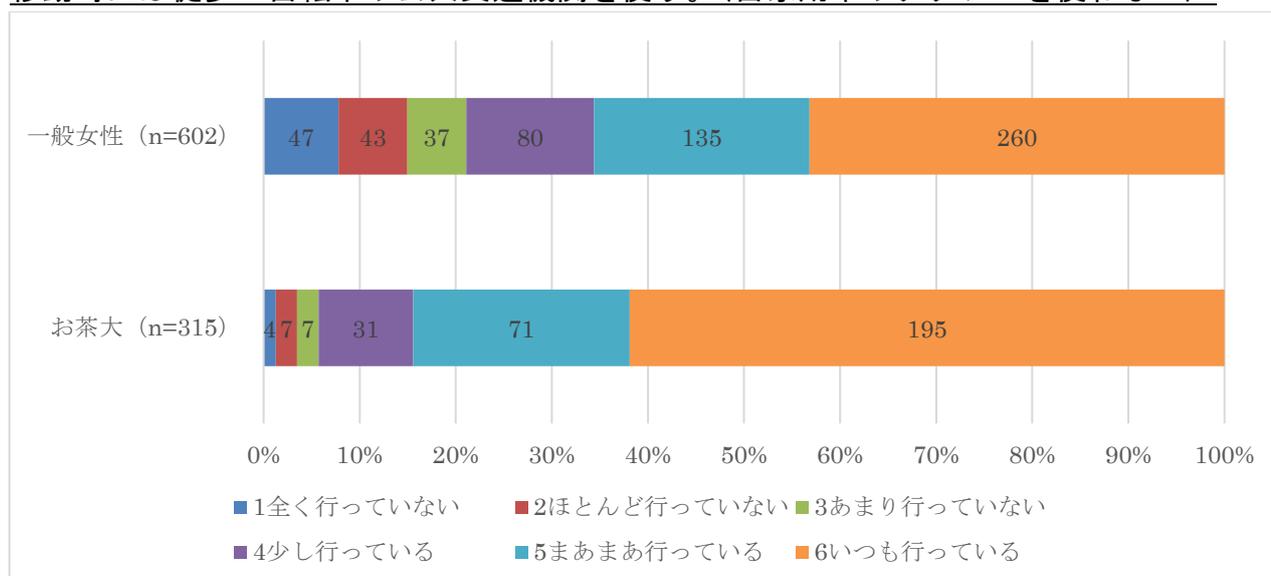
カイ二乗検定, $p=0.297$

地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。



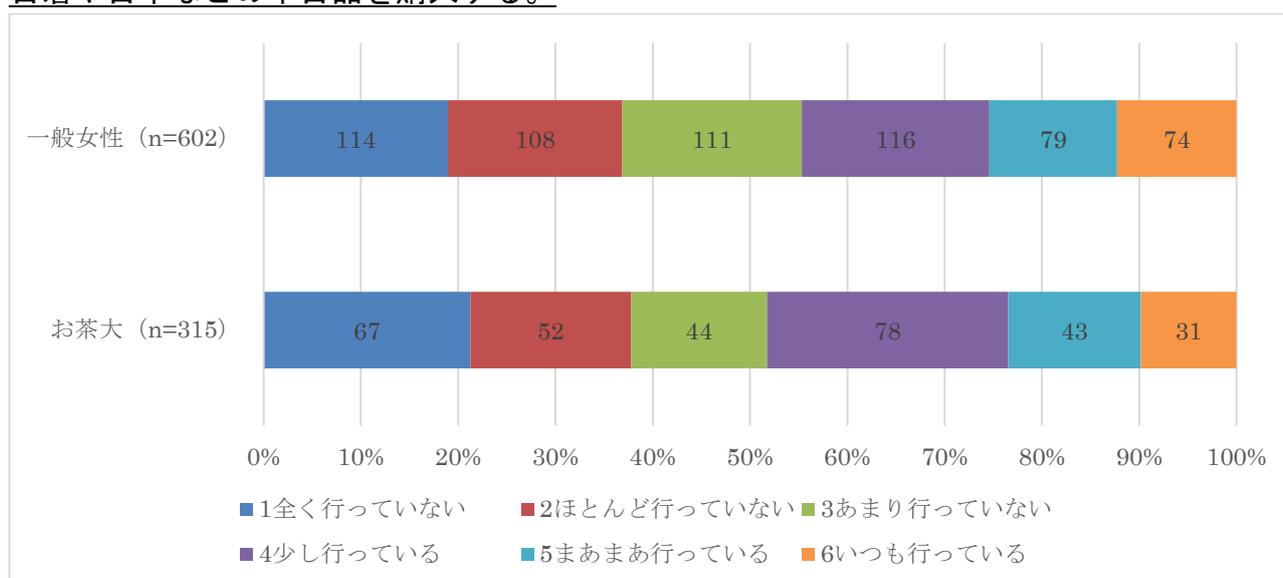
カイ二乗検定, $p=0.002$

移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)



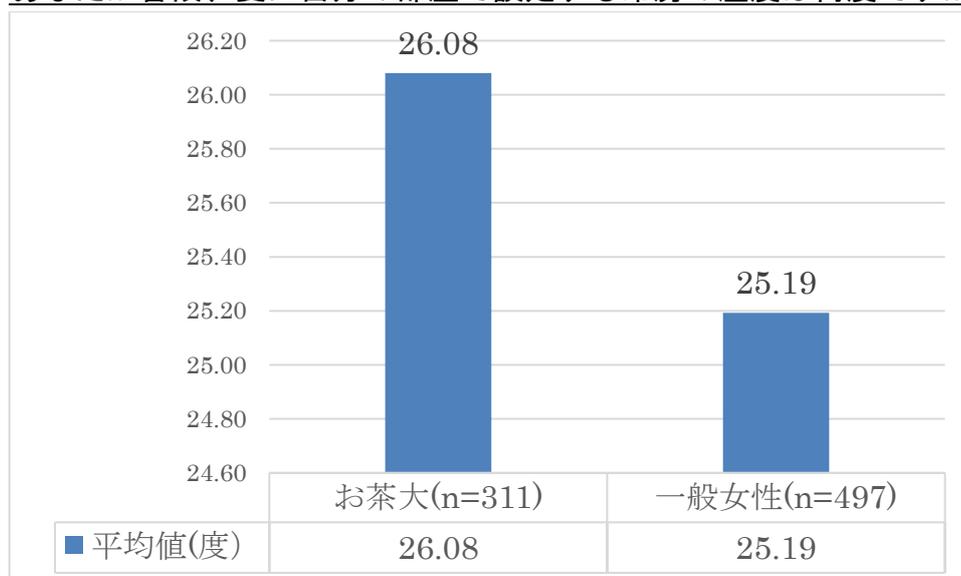
カイ二乗検定, $p < 0.001$

古着や古本などの中古品を購入する。



カイ二乗検定, $p = 0.197$

あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

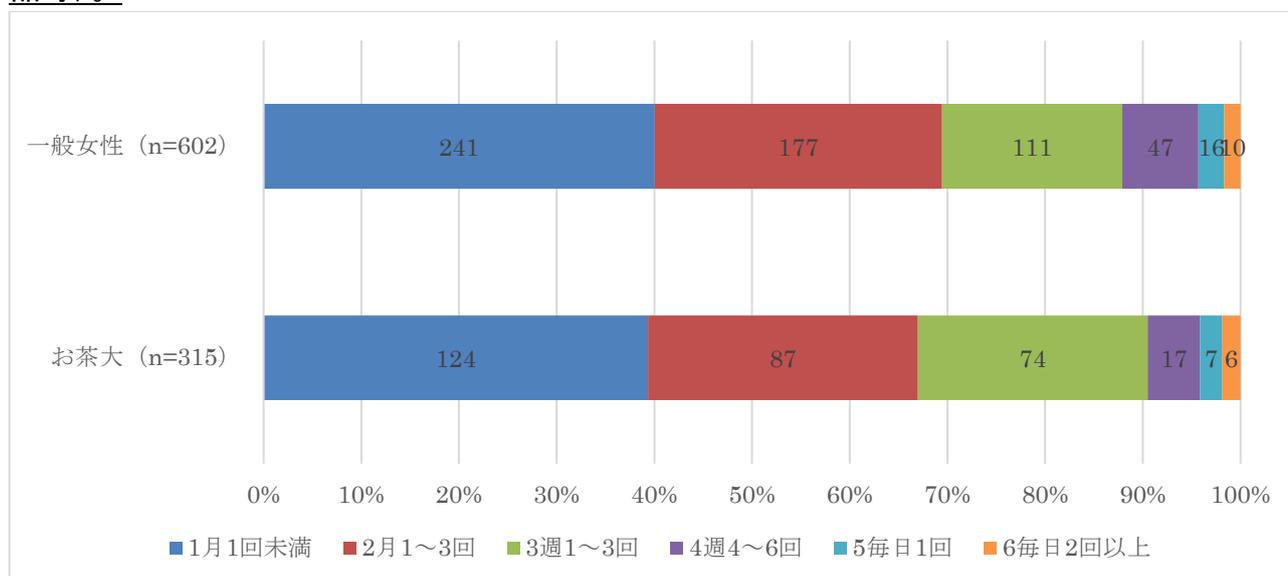


t検定、 $p < 0.001$

「自室に冷房がある」と回答した者に対し質問した。

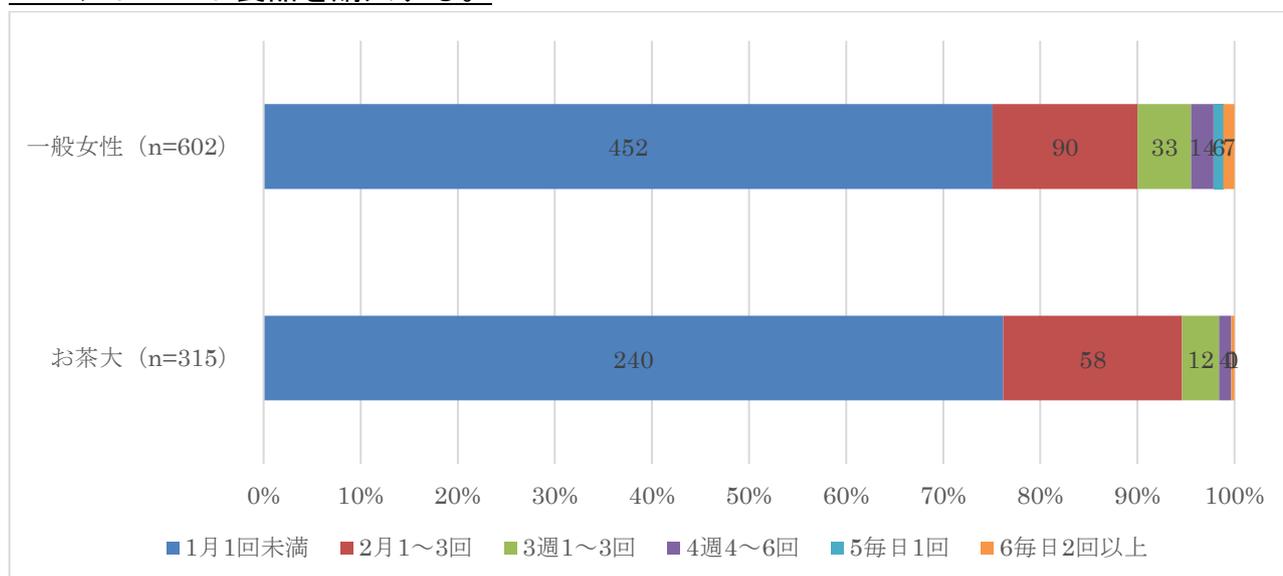
③SDGs 達成のための食行動

地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。



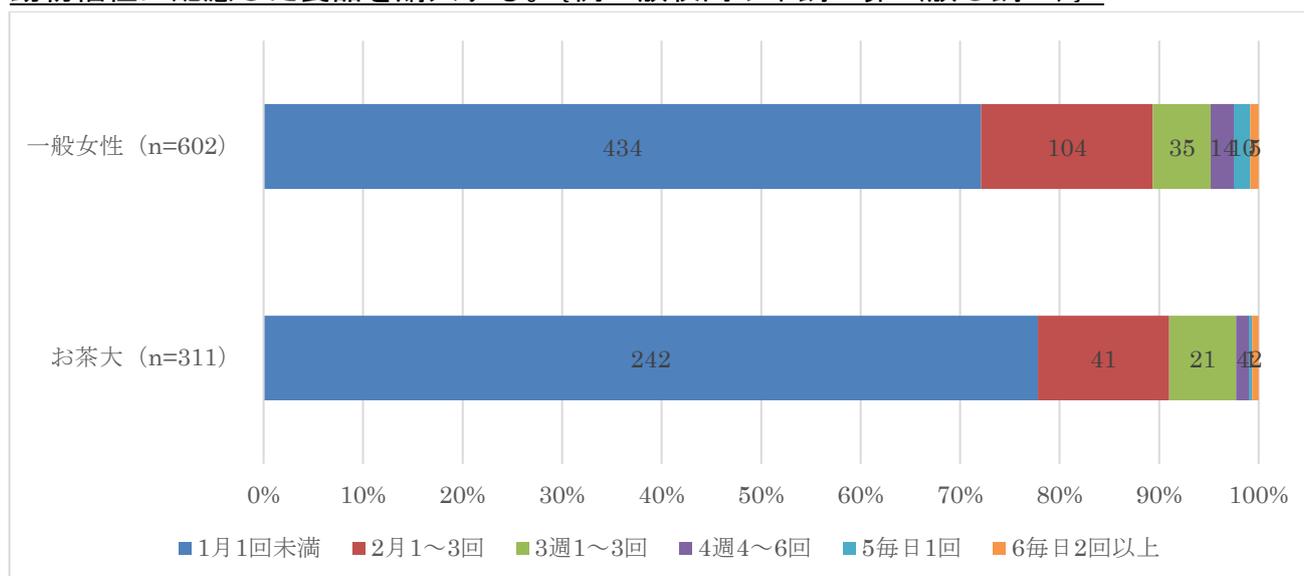
カイ二乗検定, $p=0.439$

フェアトレード食品を購入する。



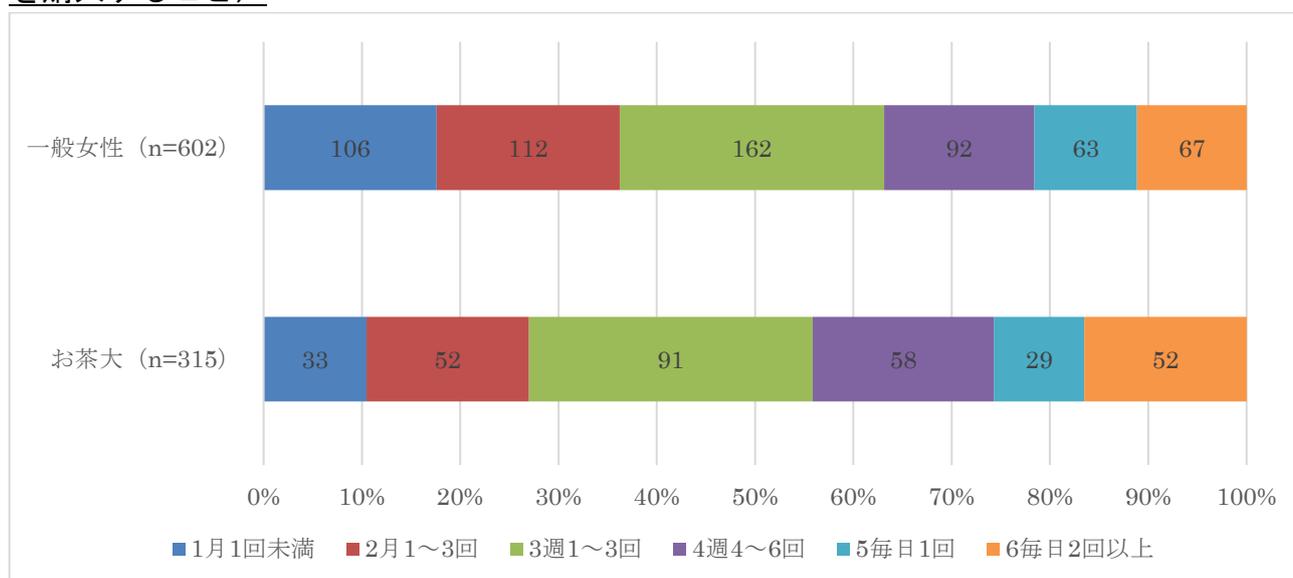
カイ二乗検定, $p=0.119$

動物福祉に配慮した食品を購入する。{例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）}



カイ二乗検定, $p=0.178$

食品購入時に「てまえどり」をする。(賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)



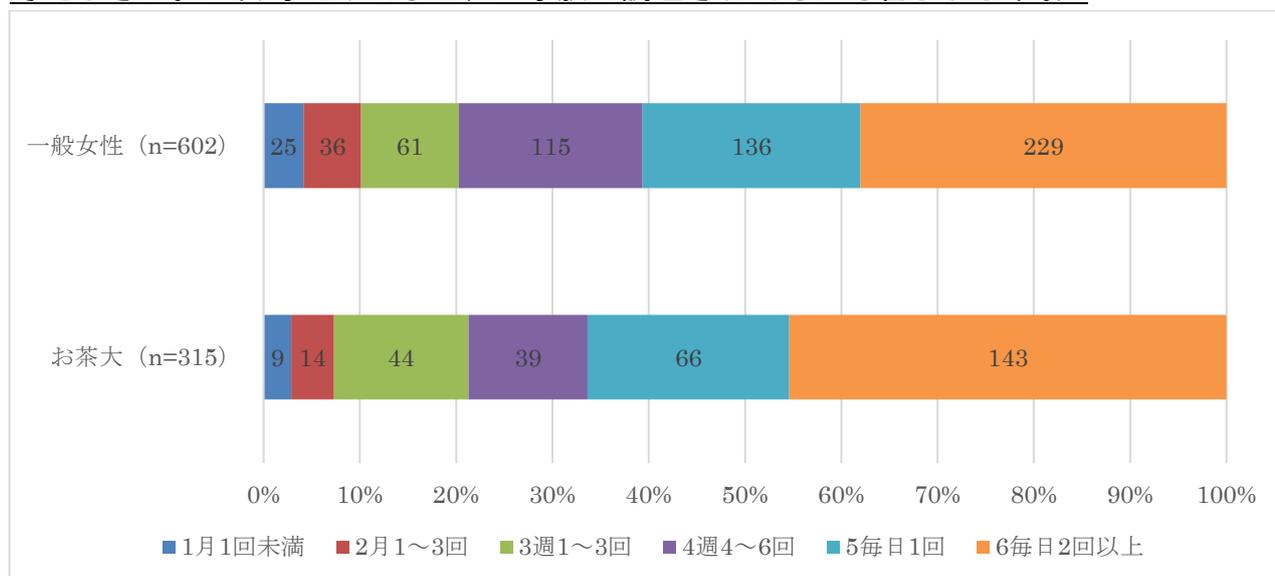
カイ二乗検定, $p=0.016$

主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。



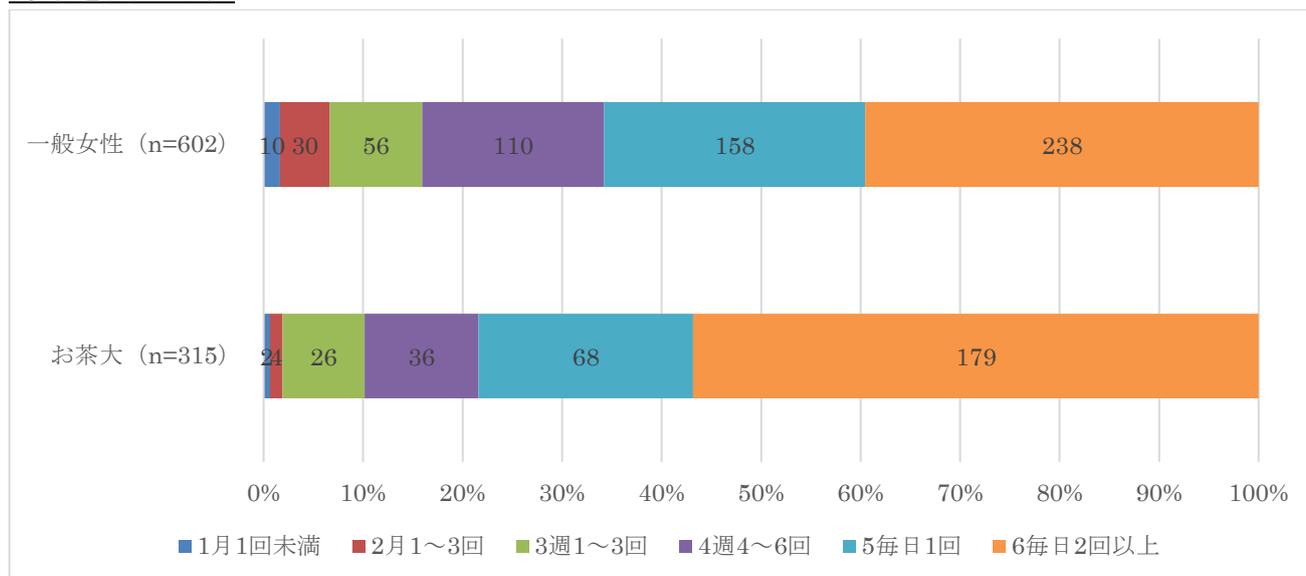
カイ二乗検定, $p < 0.001$

家庭で調理されたものを食べる。(家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)



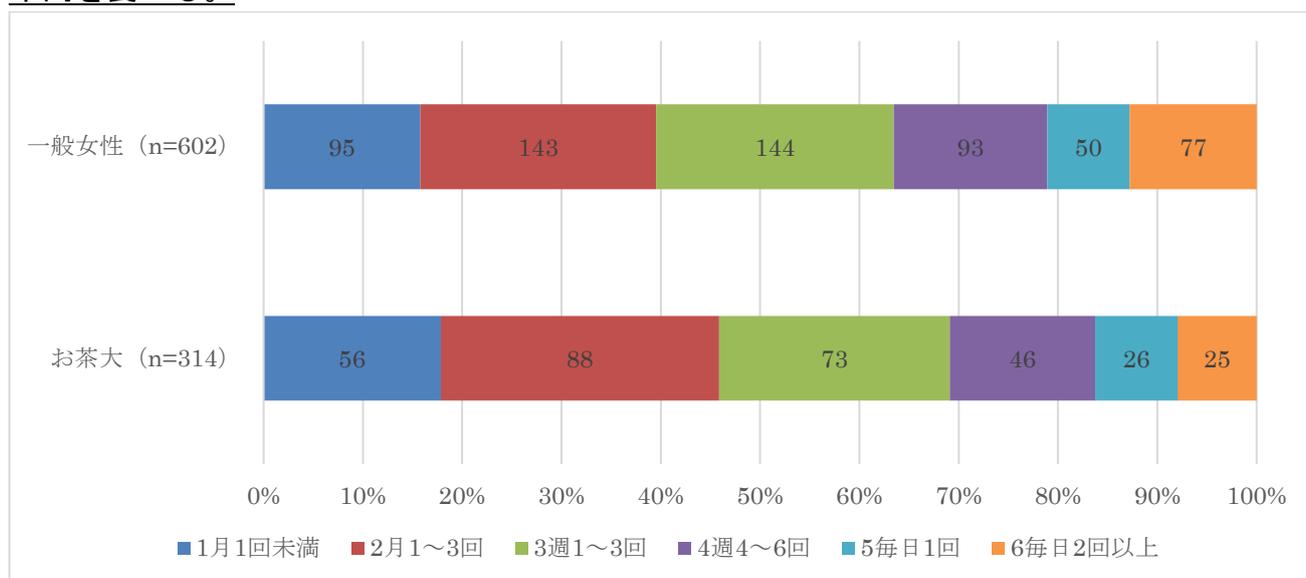
カイ二乗検定, $p = 0.023$

野菜を食べる。



カイ二乗検定, $p < 0.001$

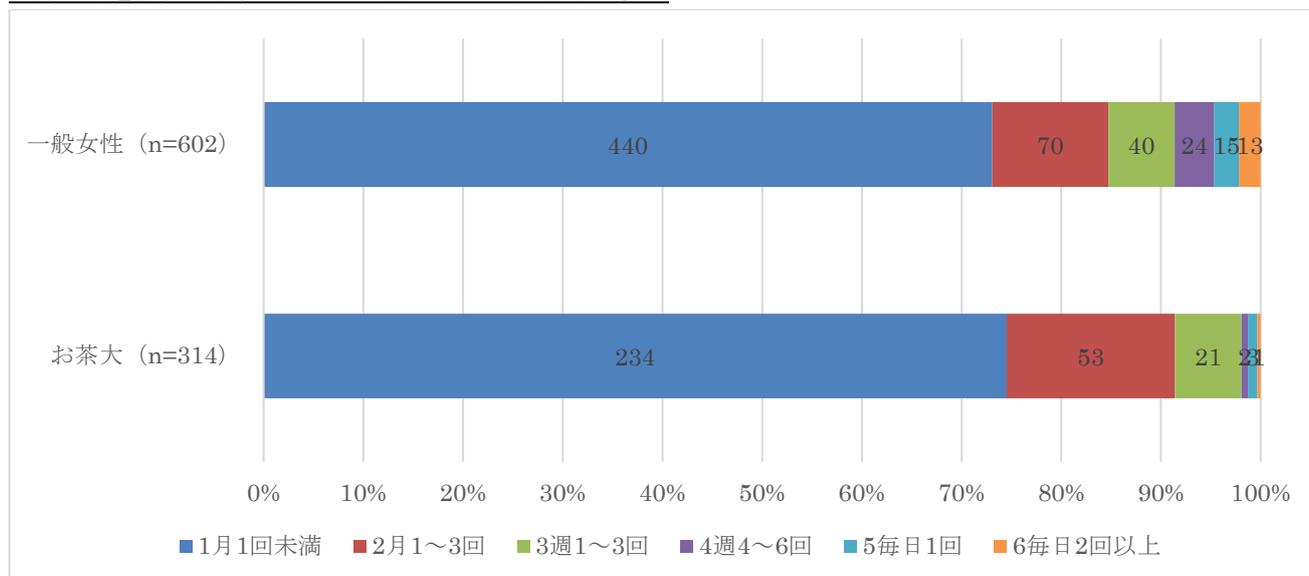
牛肉を食べる。



カイ二乗検定, $p = 0.263$

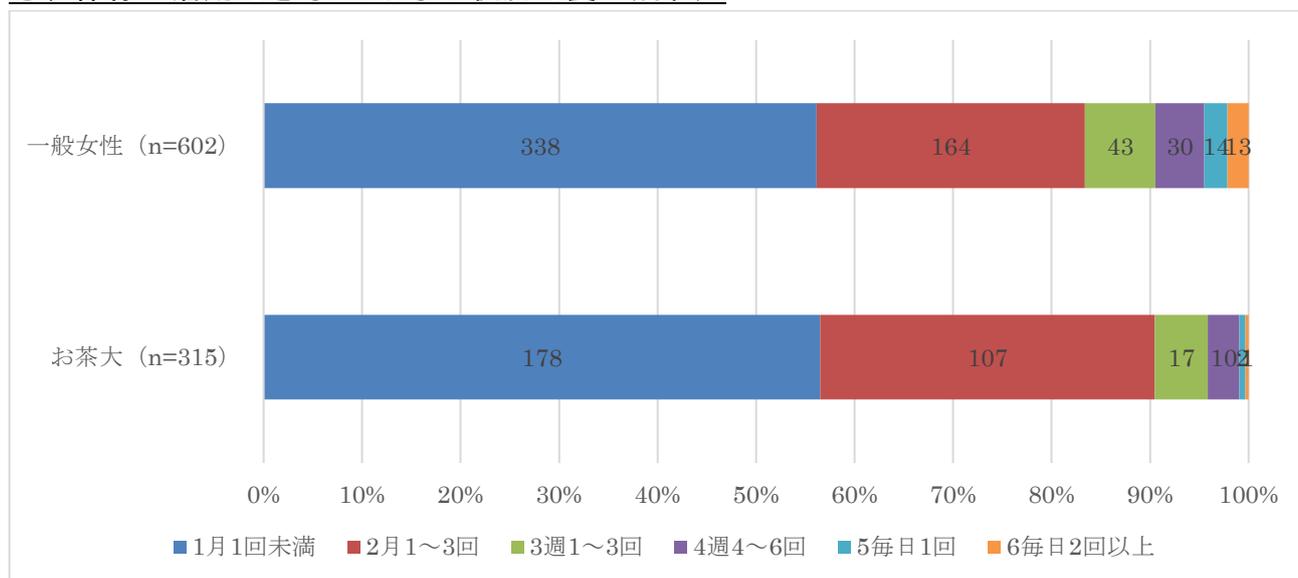
※データ確認済み

代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)



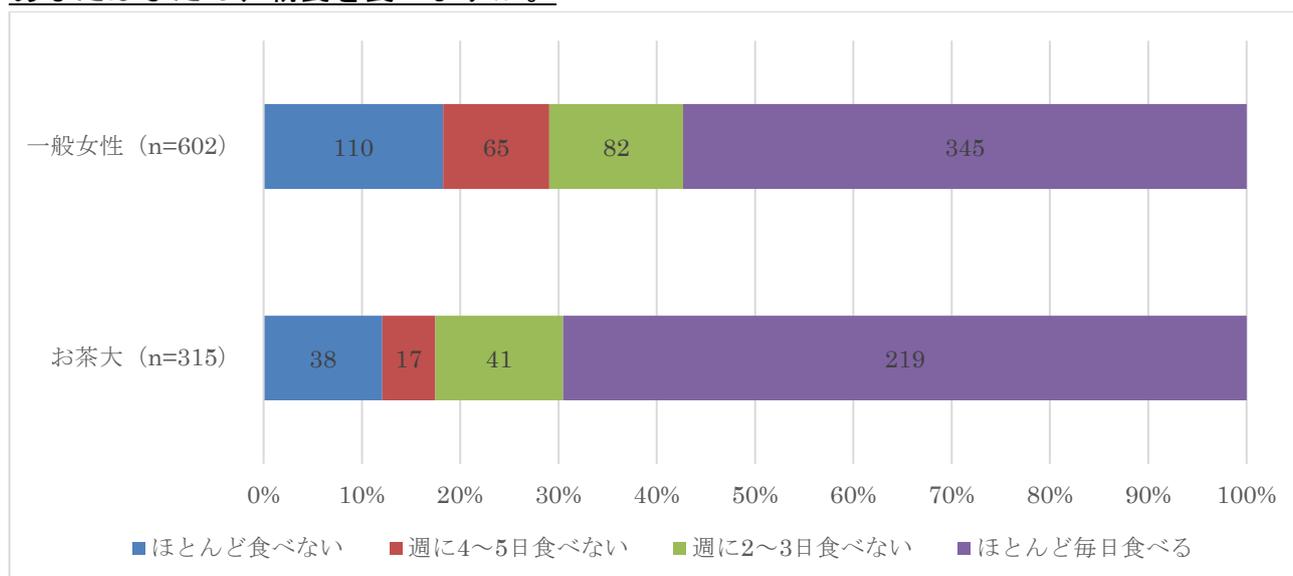
カイ二乗検定, $p=0.002$

本来食べられる食品を廃棄する。(例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けずに捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)



カイ二乗検定, $p=0.018$

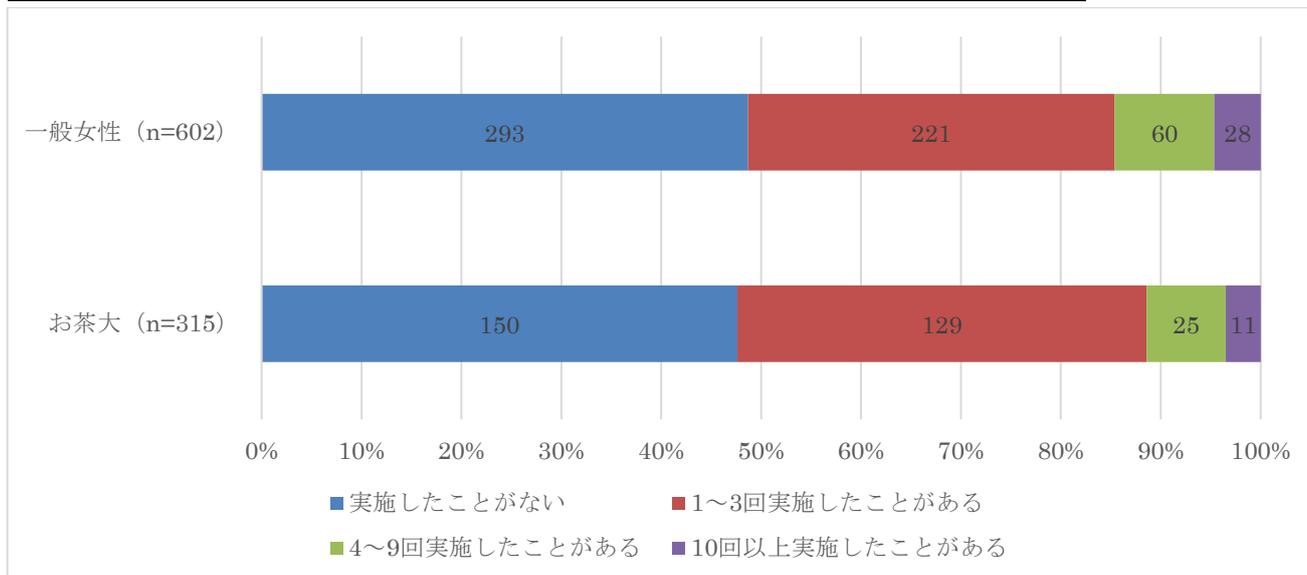
あなたはふだん、朝食を食べますか。



カイ二乗検定, $p < 0.001$

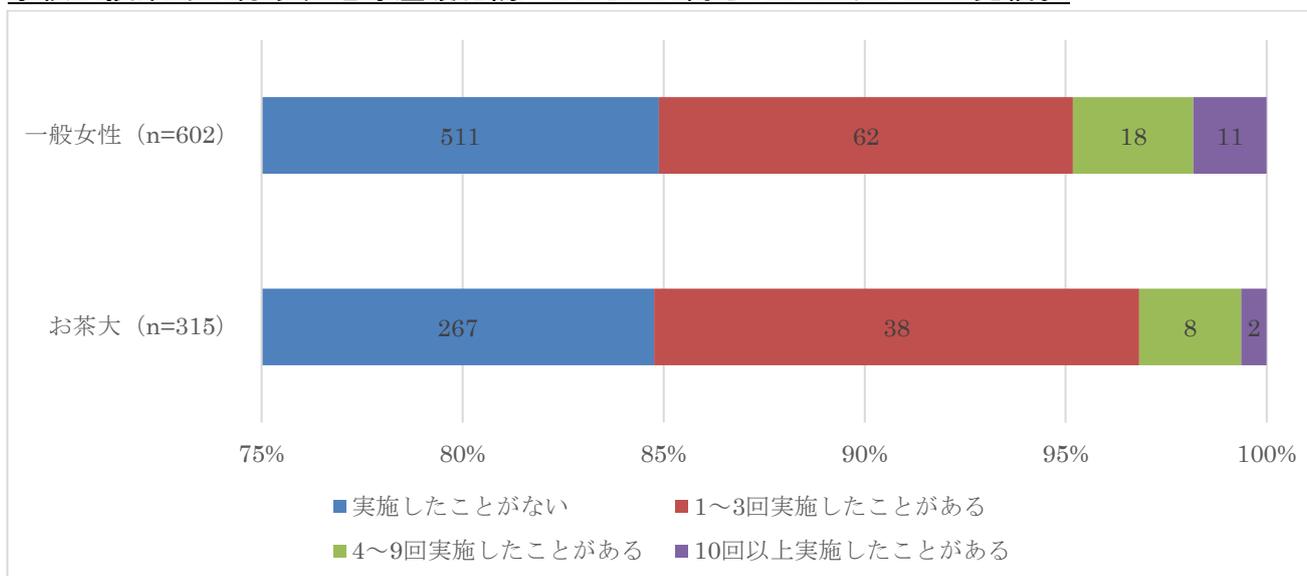
③SDGs 達成のためのその他の行動

授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。(例：ゴミ拾い活動)



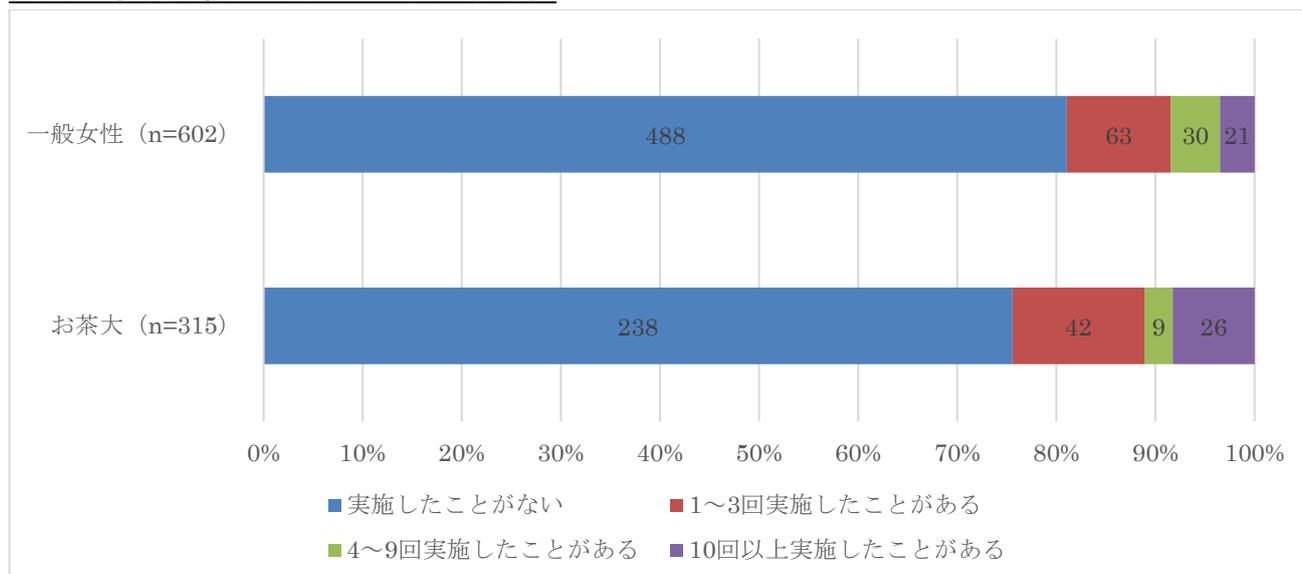
カイ二乗検定, $p=0.458$

学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。



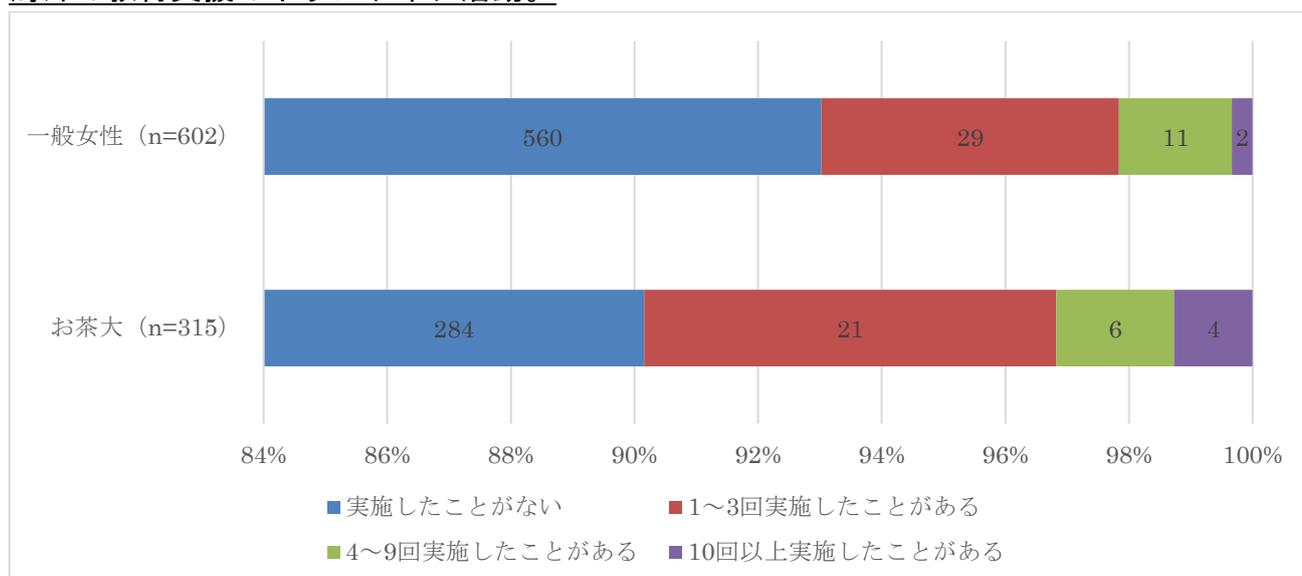
カイ二乗検定, $p=0.421$

国内の学習支援のボランティア活動。



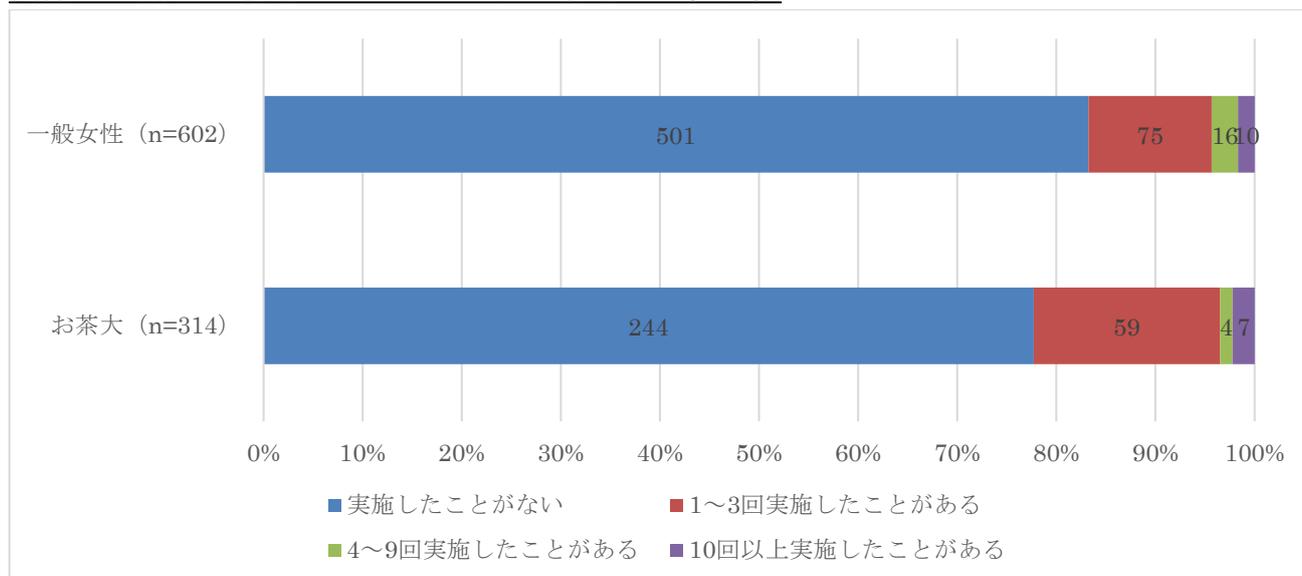
カイ二乗検定, $p=0.003$

海外の教育支援のボランティア活動。



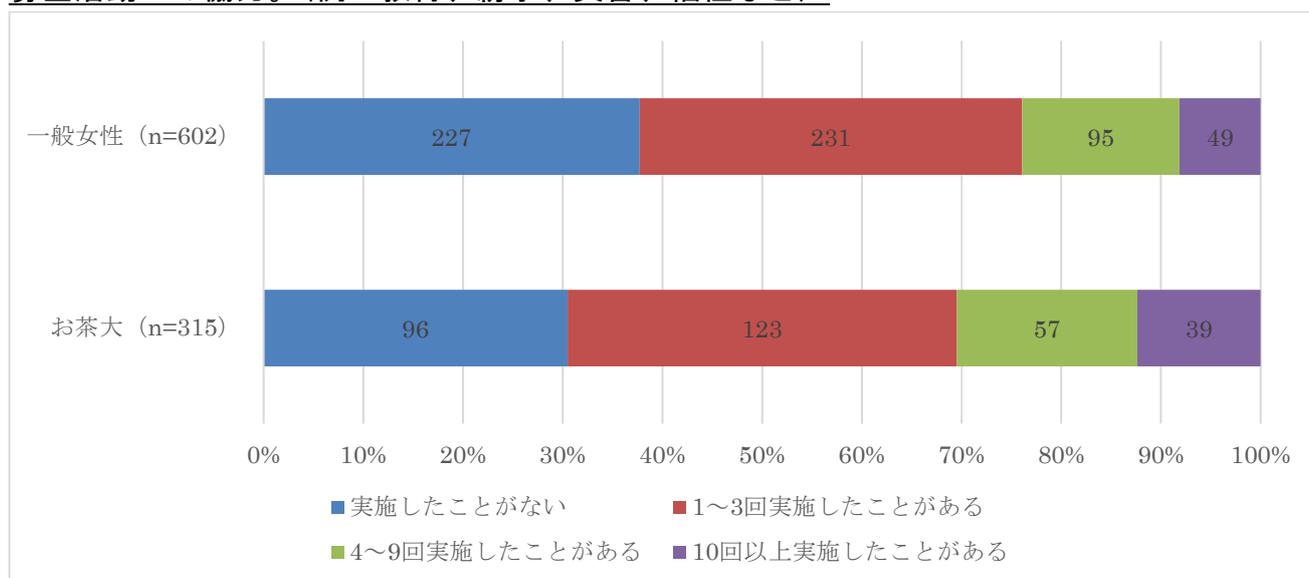
カイ二乗検定, $p=0.234$

食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。



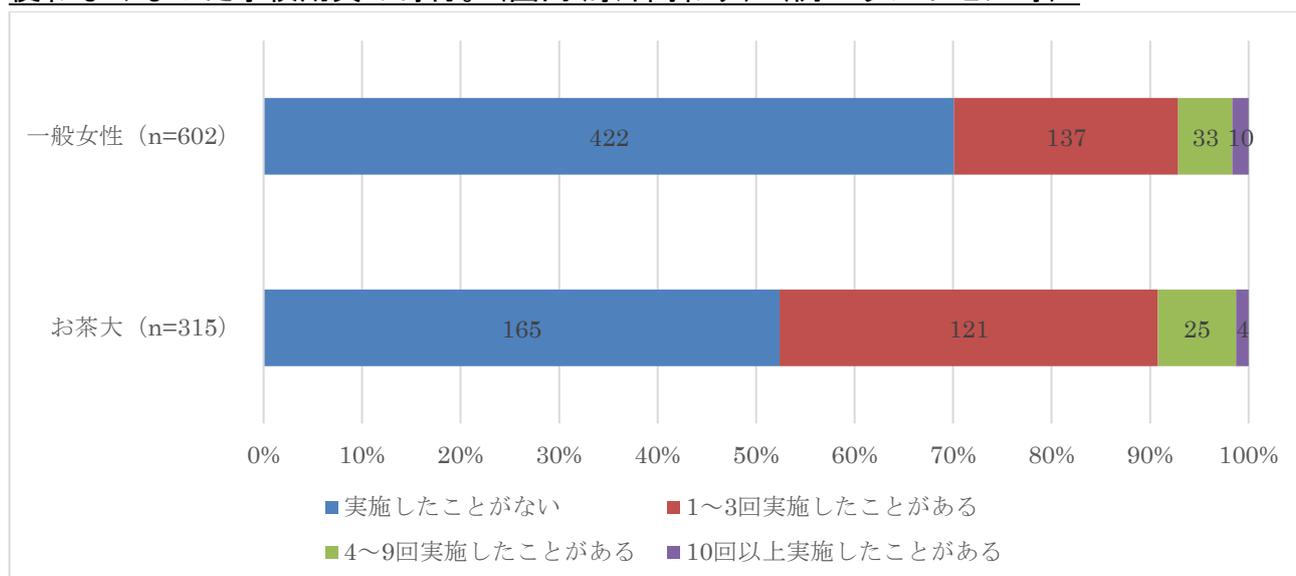
カイ二乗検定, $p=0.035$

募金活動への協力。(例：教育、紛争、災害、福祉など)



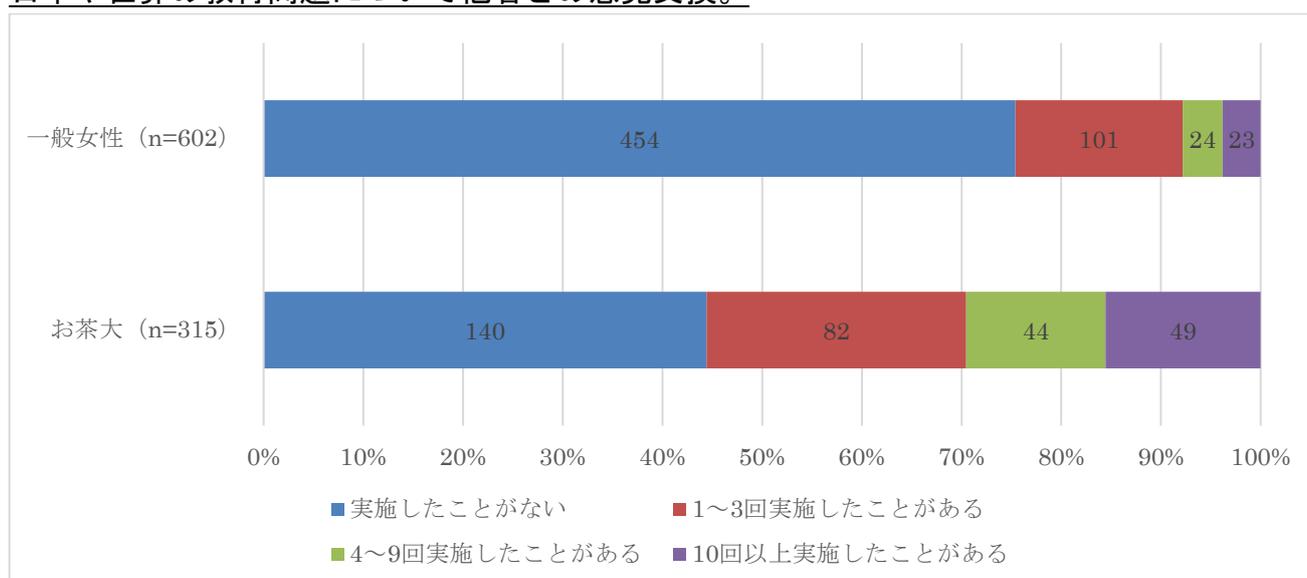
カイ二乗検定, $p=0.054$

使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例：ランドセル等)



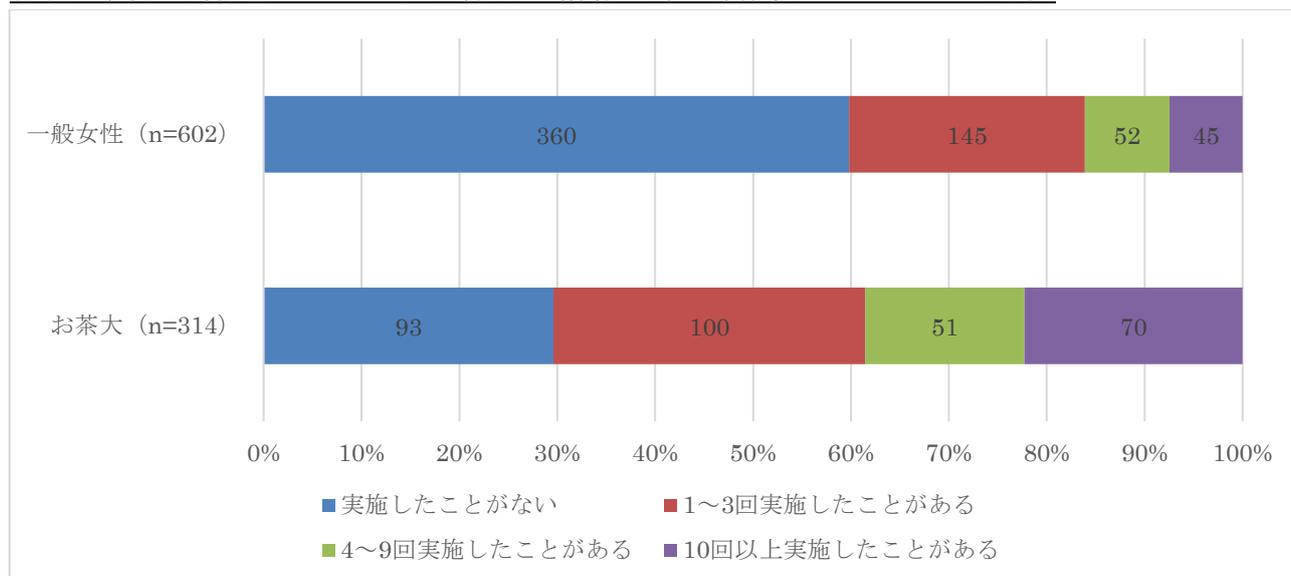
カイ二乗検定, $p < 0.001$

日本や世界の教育問題について他者との意見交換。



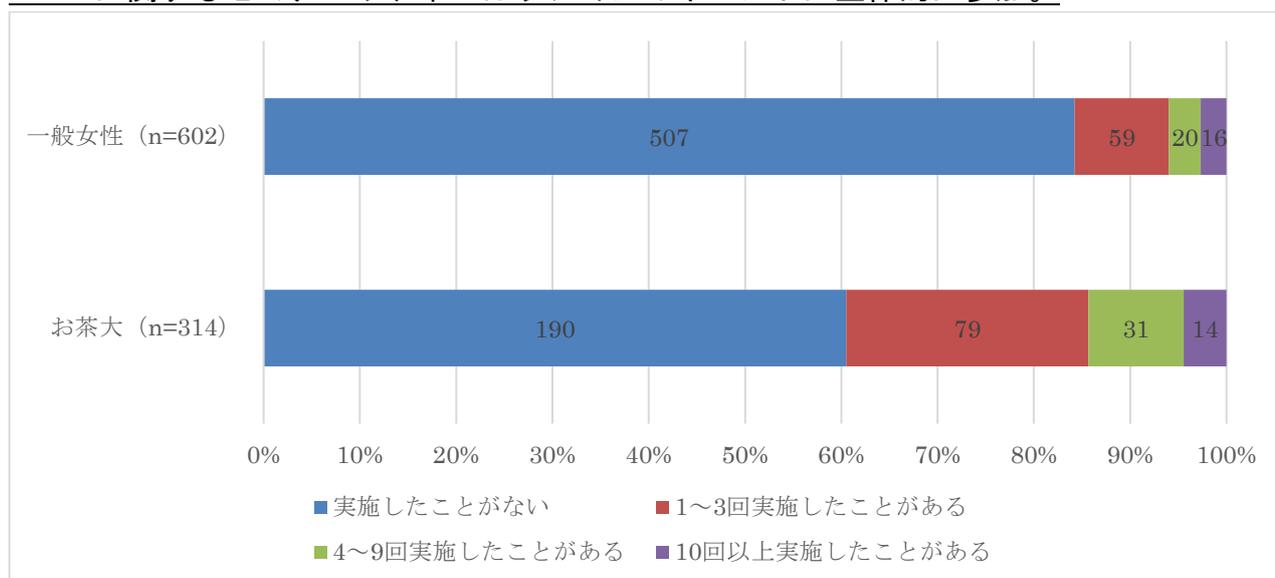
カイ二乗検定, $p < 0.001$

教育に関する話題について、主体的な情報収集（新聞やニュースから）。



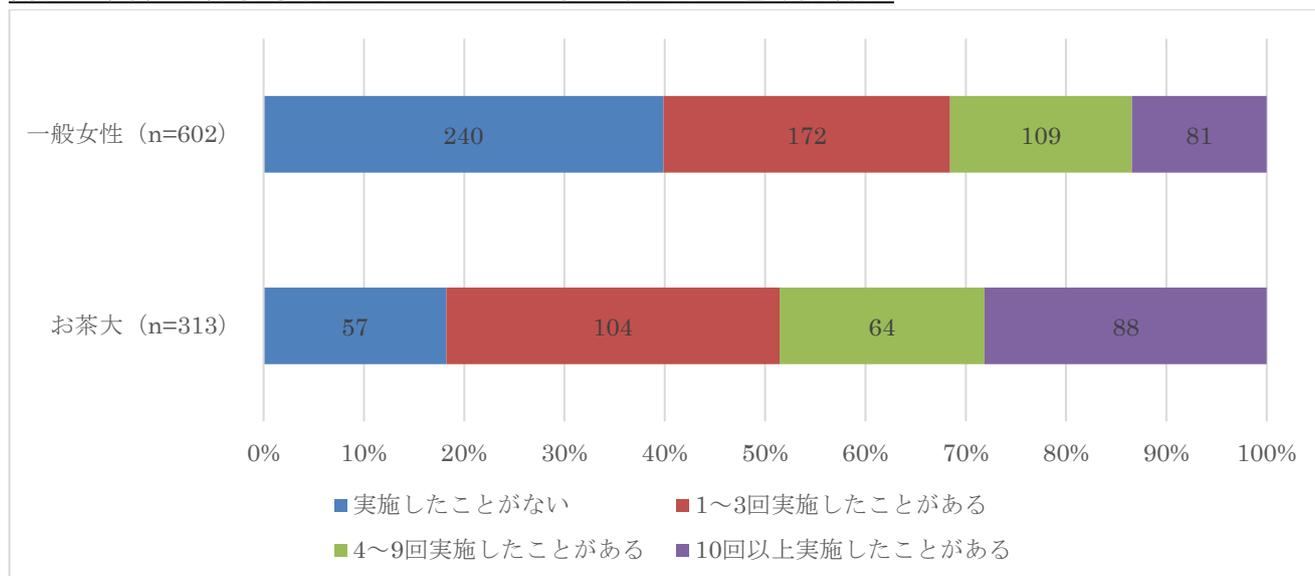
カイ二乗検定, $p < 0.001$

SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。



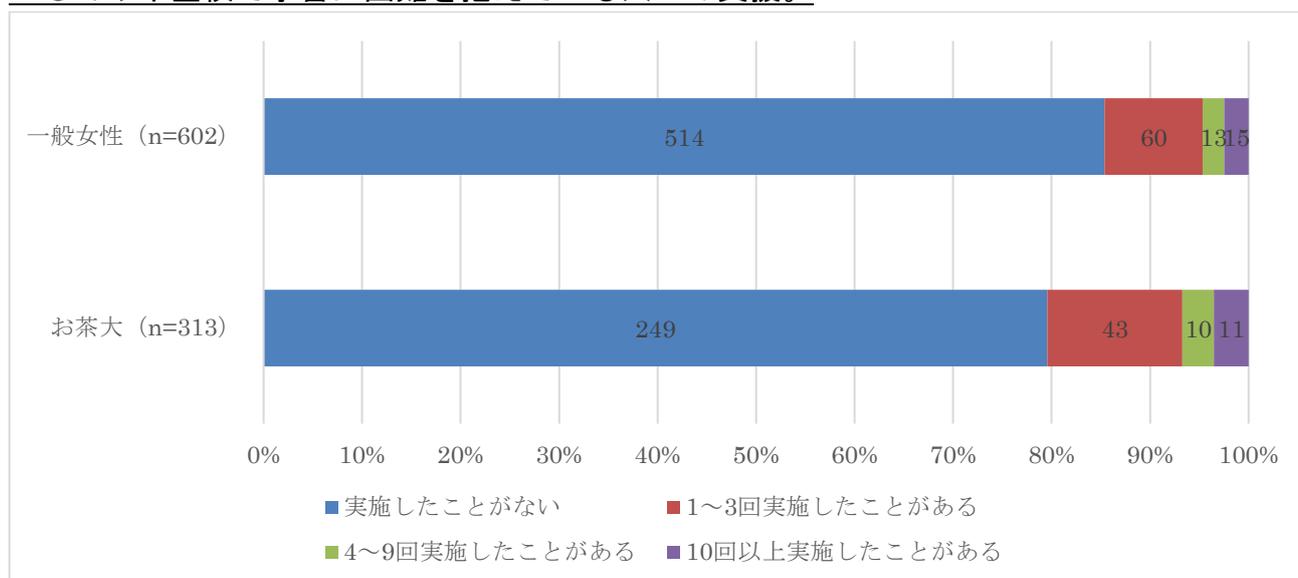
カイ二乗検定, $p < 0.001$

防災に関わる体験学習やイベントへの参加。(例：避難訓練)



カイ二乗検定, $p < 0.001$

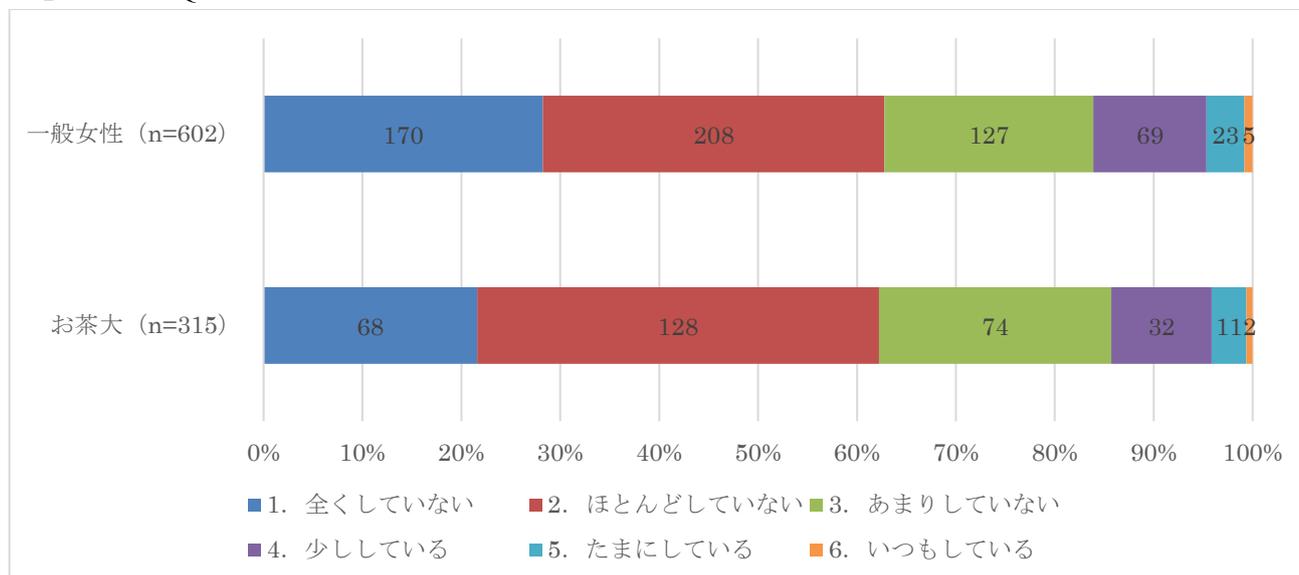
いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。



カイ二乗検定, $p = 0.166$

④ジェンダーに関する発言

あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)



カイ二乗検定, $p=0.249$

(6) SDGs に関してお茶大に求めること (抜粋)

あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

●SDGs に関する知識を得る機会

- ・SDGs がテーマの授業があると話し合いの時間などを取ることができて勉強になるのではないかと思います。
- ・SDGS 関連の授業や実習を増やしていくと、より私たちみんなが意識していくのではないかと思います。特に、社会科見学のように、17 のゴールに向けて進んだ取り組みを行っている企業や自治体などに実際にお話しを伺う機会を設けたりすると関心が高まってよいのではないのでしょうか。
- ・学生や人々が SDGs の内容について学ぶ機会はそれなりに提供されていると思うので、学ぶだけではなく、実際に社会が変化するためにできるアクションについて学んだり、企業とともに取り組める講義などがあると良いと思います。
- ・幅広い年代に向けて教育を行なう機関として、年齢に合わせた適切な SDGs 教育を実施すること。

●教育・生活環境の充実

- ・図書館を 24 時間オープンにするなど、自習施設を充実させてほしい。夜も勉強しようとなると、音羽館居住者のみ音羽館の自習室が使える状況なので不平等だと感じる。また、日本国内の別の大学や留学先にある図書館や学習施設とのギャップに驚いた。
- ・ウォーターサーバーまたは浄水が出るものを設置して欲しい。ペットボトルを買わなくてよくなるので。"
- ・水筒に水を入れられる給水器の普及
- ・カウンセリングの充実。メンタルヘルスケアの調査だけでは不十分だと思う。
- ・プラスチック製の製品や歯ブラシなど、リサイクルが行われているものの、あまりされていないものがある気がするため、リサイクル用回収コーナーなどがあつたらうれしいです。服や家具など、引っ越し時期に廃棄されがちなものをお茶大生間でやりとりできるウェブサイトなどがあつたら、よいかもしれません。寮では行われていました。また、既に行われているかもしれませんが、学食などでの大豆ミートを使った食品、環境に配慮した食事の提供などがあつたら面白いと思います。
- ・空調・証明等の設備に無駄、必要のないところに多くあつて必要のあるところに十分に行き届いていない等の問題があるように思えるので、改善してほしいです。設定温度等も検討していただきたいとおもいます。
- ・古着・古本の売り場などがあれば、ありがたいです。
- ・食堂でテイクアウトするとき、お弁当箱の持参を推奨する。
- ・性別や身体障害に関わらず快適に使えるトイレの整備
- ・代替肉を利用した食事や、環境に配慮した素材の文房具などを販売する。
- ・ unnecessary書類をなくしてほしい。(授業関連プリント、ポスターちらしなどを全て含めて)

●イベント等の開催

- ・ジェンダーに関する意見を、幅広く全員が発言させてもらう会議などを開いてほしい！
- ・何かしたいが何をしたら良いのか分からない。その為、「これをしたら SDGs に貢献する」というイベントやものを沢山設置して欲しい。手軽に SDGs 貢献できる環境づくりをして欲しい。
- ・学部を超えたディスカッションやイベント参加の機会があること。

●学生主体の取り組み

- ・SDGs への取り組みが学生主体で積極的に進められること
- ・ごみ問題に関心があり、実際に研究しているので、学内(及び地域)でお茶大発のそうした活動をしたいと考えている。
- ・学生の意志さへあれば SDGs な行動ができる環境の整備。
- ・学生を巻き込んで行う活動を企画して欲しい
- ・連携している企業も学生も一体となって SDGs に取り組める環境づくり。

●個々の目標達成に向けた取り組み

- ・お茶大はジェンダーに力を入れているイメージがあるので引き続きその分野を先導するのがよいのではないかと思う。
 - ・ジェンダー平等関連に関しては日本のどの機関、団体よりも積極的に進めて欲しい。または進める機関でありたい。
 - ・女子大としてジェンダー平等や男女平等に社会で活躍できる機会の獲得に力を入れてほしい。また、理学・生活科学・文教育という3要素が組み合わさった総合大学だからこそ、これらの分野が連携・融合しだれもが健康的な生活を確保できるような社会を実現していきたい。
 - ・地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりしてもいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる
 - ・身近でできる行動や、大学全体での取り組み
- 身近にできる SDGs 活動や、SDGs に関するイベントなどの、情報提供をしていただきたいです。
- ・生活者視点からの行動の提案
 - ・大学全体で SDGs に関する取り組みを行ってほしい。
 - ・地球環境に配慮すること、世界的な問題への募金などはもっと頻繁に行われたり、常設されたりしてもいいと思うし、それをたくさんの人に認知してもらうような行動をとる
 - ・日本最高峰の女子大として、教育関係の支援に力を入れてほしいです。

●SDGs 達成に向けて行動する機会

- ・お茶大生、教職員全員が SDGs 達成に向け動くこと。具体的な活動、行動を促すこと。
- ・ボランティアの機会
- ・興味関心のない人でも参加したいと思える、そのハードルが低い簡単なことからできる活動を提唱してほしいです。附属校との連携や他大との連携にも期待しています。
- ・自然に対する興味関心を惹くようなボランティア活動

●研究の推進・成果発信

- ・培養肉の研究 ジェンダー平等の研究
- ・メディアで取り上げられるような軽薄な活動ではなく、お茶大の得意な分野で専門的な知見を提供することで SDGs に貢献すること
- ・メディアを含む学外に対しても SDGs の重要性や取り組みを発信し続けること。

●SDGs 実践に対する負担感

- ・あまり無理にやらせないでください
- ・やり過ぎないようにしてほしい。
- ・押し付けがましくなく、産業の発展と両立すること。

【参考資料】1) 調査質問紙（お茶大生対象）

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、お茶大生の、SDGs に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、本学の SDGs 推進活動や、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。なお、調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げの場合には、2023 年 3 月末日までに、SDGs 推進研究所までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 本調査には、いじめや不登校に関する質問項目（1 問）が含まれます。回答されたくない方は、調査に参加されないことをお勧めいたします。
- ・ 調査にご協力いただいた方には、OCHA-SDGs オリジナルグッズを差し上げます。調査終了画面をお持ちの上、SDGs 推進研究所事務局（総合研究棟 207）までいらしてください。
- ・ 調査への回答は、お一人につき一回とさせていただきます。複数回のご回答はご遠慮ください。

●個人情報保護に関して

- ・ 本調査では、回答者の属性に関する情報収集のため、学籍番号の上 5 桁や年齢等をご回答いただきますが、回答内容から個人を特定することはありません。また、データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。収集したデータ及び結果は責任者が厳重に管理し、研究以外の目的に使うことはありません。

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なります。

★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1 同意します

2 同意しません

まず、あなたご自身のことについてお伺いします。

1-1. あなたはお茶大生ですか。

1 はい

2 いいえ

1-2. 学籍番号の上5桁を教えてください。※下2桁は入力しないでください。

--	--	--	--	--

1-3. あなたの年齢を教えてください。

歳

1-4. 母国語を教えてください。

日本語	日本語以外
-----	-------

1-5. あなたの現在の暮らしについて教えてください。

実家暮らし	一人暮らし	寮暮らし
-------	-------	------

1-6. 現在のあなた自身の経済的な暮らし向きについて、当てはまる番号1つに○をつけてください。

- O1. ゆとりがある
- O2. ややゆとりがある
- O3. どちらともいえない
- O4. あまりゆとりがない
- O5. 全くゆとりがない

1-7. あなたの現在の学生生活は充実していますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

1. 全く充実していない	2. あまり充実していない	3. まあ充実している	4. とても充実している
--------------	---------------	-------------	--------------

1－8. あなたの2022年度後期の授業期間中の、1週間の登校日数は何日ですか。

日

次に、SDGsに対するあなたの知識やお考えについてお伺いします。

2－1. あなたは、SDGsについて知っていますか。次のうち、最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1.名前を聞いたことがない。
- 2.名前を聞いたことはあるが、内容はよくわからない。
- 3.名前を聞いたことがあり、持続可能な社会の実現のための17のゴールがあることを知っている。
- 4.上記3に加えて、17のゴールのうちいくつかの内容について詳しく知っている。
- 5.上記3に加えて、17のゴールのうち全ての内容について詳しく知っている。

2－2. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1.全く関心がない。
- 2.ほとんど関心がない。
- 3.あまり関心がない。
- 4.少し関心がある。
- 5.まあ関心がある。
- 6.非常に関心がある。

2－3. あなたが、SDGsに興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

- 1. 学校の授業 (高校以前)
- 2. 学校の授業 (お茶大)
- 3. 学校の授業 (他大学)
- 4. ボランティア活動の経験
- 5. 海外での経験(居住、留学、課外活動など)
- 6. アルバイトの経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS (知人やインフルエンサー)
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他 (具体的に: _____)

2-4. あなたは、SDGsの17つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない 全く	知らない ほとんど	知らない あまり	知っている 少し	知っている だいたい	知っている 非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常によく知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-5. あなたは、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

	関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に	
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6

14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に 関心がある」をクリック してください。		1	2	3	4	5	6

2-6. あなた自身の行動は、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		影響しない 全く	影響しない ほとんど	影響しない あまり	影響する 少し	影響する まあまあ	影響する 非常に強く
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6

6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6

17. 目標 17 パートナーシップで目標を 達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に強く影響する」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

3-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

3-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日1回	毎日2回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6
4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きちんと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)	1	2	3	4	5	6

	行っていない 全く	行っていない ほとんど	行っていない あまり	行っている 少し	行っている まあまあ	行っている いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

3-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

3-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去1か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日一回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例: 国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 {例: 放牧肉や平飼い卵(放し飼い)}	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 外食する。	1	2	3	4	5	6
7. 中食する。 (中食: 家庭外で調理された弁当や惣菜などを自宅や職場・大学で食べること)	1	2	3	4	5	6
8. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの: 包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)	1	2	3	4	5	6
9. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
10. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6
11. 代替肉を食べる。(例: 大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6

12. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けずにそのまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6
---	---	---	---	---	---	---

3-5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど食べない
- 2. 週に4~5日食べない
- 3. 週に2~3日食べない
- 4. ほとんど毎日食べる

3-6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1~3回実施したことがある	4~6回実施したことがある	7回以上実施したことがある
1. 授業外で行う、環境保全に関するボランティア活動。 (例：ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業外で行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例：教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例：ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4
10. SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択してください。	1	2	3	4
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

3-7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。

最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- 1. 全くしていない
- 2. ほとんどしていない
- 3. あまりしていない
- 4. 少ししている
- 5. たまにしている
- 4. いつもしている

3－8. あなたは、いじめや不登校を経験したことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがなく、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていたこともない。
- 2. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがないが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていたことはある。
- 3. 自分自身はいじめや不登校を経験したことがあるが、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見たことはない。
- 4. 自分自身もいじめや不登校を経験したことがあり、周囲の人がいじめに遭ったり不登校になったりするのを近くで見ていたこともある。
- 5. わからない、覚えていない。

4. あなたが、SDGs に関してお茶大に求めることは何ですか。自由にお書きください。

5. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに（つまり、どの選択肢もクリックせずに）、次のページに進んでください。

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

調査にご協力いただいた方に、謝品（OCHA-SDGs 学生委員会オリジナルグッズ）をお渡ししております。

この画面をご用意の上、SDGs 推進研究所（総合研究棟 207）までお受け取りにいらして下さい。

【参考資料】2) 調査質問紙（一般女性対象）

＜リクルート画面＞スクリーニング項目

F1. あなたの性別をお知らせください。

1. 男性	2. 女性	3. その他
-------	-------	--------

F2. あなたの年齢をお知らせください。

		歳
--	--	---

F3. あなたが現在お住まいになっている地域についてお知らせください。

1.北海道	2.青森県	3.岩手県	4.宮城県	5.秋田県	6.山形県
7.福島県	8.茨城県	9.栃木県	10.群馬県	11.埼玉県	12.千葉県
13.東京都	14.神奈川県	15.新潟県	16.富山県	17.石川県	18.福井県
19.山梨県	20.長野県	21.岐阜県	22.静岡県	23.愛知県	24.三重県
25.滋賀県	26.京都府	27.大阪府	28.兵庫県	29.奈良県	30.和歌山県
31.鳥取県	32.島根県	33.岡山県	34.広島県	35.山口県	36.徳島県
37.香川県	38.愛媛県	39.高知県	40.福岡県	41.佐賀県	42.長崎県
43.熊本県	44.大分県	45.宮崎県	46.鹿児島県	47.沖縄県	

F4. あなたの婚姻状況をお知らせください。

1. 未婚・子どもなし
2. 未婚・子どもあり
3. 既婚・子どもなし
4. 既婚・子どもあり
5. 離・死別・子どもなし
6. 離・死別・子どもあり

F5. あなたの職業をお知らせください。

1. 会社・団体の経営者・役員
2. 会社員（契約社員／派遣社員含む）
3. 公務員
4. 自営業・自由業
5. 専業主婦・主夫
6. パート・アルバイト
7. 学生
8. 無職／リタイア
9. その他

SDGs に関する調査

●調査の目的と協力をお願い

- ・ この調査は、みなさまの、SDGs（Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標）に関する知識・態度・行動を調査することを目的としています。調査の結果は、SDGs 推進のための研究に役立てられます。
- ・ 下記の項目をよくお読みいただき、ご理解、ご承諾の上、調査にご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

●調査協力に関して

- ・ 本研究はみなさまの自由意思を尊重しています。研究にご理解いただいた上で、ご協力ください。
- ・ 本調査の回答の所要時間は、20 分程度です。
- ・ 調査に参加しなくても、また調査を途中でやめても、不利益を被ることは一切ありません。ただし、調査を途中でやめた場合、ポイントは付与されません。
- ・ 調査にご協力いただける方は、はじめの質問で「同意します」を選択してください。調査終了後でも協力を辞退し、回答を取り下げることができます。回答を取り下げる際には、2023 年 3 月末日までに、D-Style web までご連絡ください。
- ・ この調査には、どの質問にも正解はありません。あまり考えこまず、率直なお考えやお気持ちをご記入ください。また、お答えになりたくない質問には、無理に回答する必要はありません。回答を中断することも可能です。
- ・ 調査に関するお問い合わせは、調査終了後に表示されるお問い合わせ先までご連絡ください。

●個人情報保護に関して

- ・ データは ID 番号で管理し、公表の際にはとりまとめて統計的に処理しますので、個人情報が外部にもれることは一切ありません。結果は責任者が厳重に管理し研究以外の目的に使うことはありません。

オンライン調査のため、実際に表示される画面のデザインとは異なる。

★印は必須の質問項目

★前頁の注意事項を読み、この調査に参加することに同意しますか？

1 同意します

2 同意しません

次に、SDGs に対するあなたの知識やお考えについてお伺いします。

1-1. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) にどの程度関心がありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. 全く関心がない。
- 2. ほとんど関心がない。
- 3. あまり関心がない。
- 4. 少し関心がある。
- 5. まあ関心がある。
- 6. 非常に関心がある。

1-2. あなたが、SDGs に興味・関心を持ったきっかけは何ですか。(複数選択可)

- 1. 学校の授業 (高校以前)
- 2. 学校の授業 (大学・短大・専門学校等)
- 3. ボランティア活動の経験
- 4. 海外での経験(居住、留学、課外活動など)
- 5. アルバイトの経験
- 6. 就労時の経験
- 7. ネットやテレビ、雑誌などのメディア
- 8. SNS (知人やインフルエンサー)
- 9. 家族や友人との会話
- 10. その他 (具体的に: _____)

1-3. あなたは、SDGsの17つの目標の内容について、どの程度知っていますか。

		知らない 全く	知らない ほとんど	知らない あまり	知っている 少し	知っている だいたい	知っている 非常によく
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6

11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に知っている」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-5. あなたは、SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) のそれぞれの目標に、どのくらい関心がありますか。

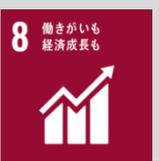
	関心がない 全く	関心がない ほとんど	関心がない あまり	関心がある 少し	関心がある まあまあ	関心がある 非常に
1. 目標 1 貧困をなくそう	1	2	3	4	5	6

2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6
5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤を つくろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくりを		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6

14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6
16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「非常に興味がある」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

2-6. あなた自身の行動は、SDGs (Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標) のそれぞれの目標の達成に、どの程度影響すると思いますか。

		影響しない 全く	影響しない ほとんど	影響しない あまり	影響する 少し	影響する まあまあ	影響する 非常に強く
1. 目標 1 貧困をなくそう		1	2	3	4	5	6
2. 目標 2 飢餓をゼロに		1	2	3	4	5	6
3. 目標 3 すべての人に健康と福祉を		1	2	3	4	5	6
4. 目標 4 質の高い教育をみんなに		1	2	3	4	5	6

5. 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう		1	2	3	4	5	6
6. 目標 6 安全な水とトイレを世界中に		1	2	3	4	5	6
7. 目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに		1	2	3	4	5	6
8. 目標 8 働きがいも経済成長も		1	2	3	4	5	6
9. 目標 9 産業と技術革新の基盤をつ くろう		1	2	3	4	5	6
10. 目標 10 人や国の不平等をなくそう		1	2	3	4	5	6
11. 目標 11 住み続けられるまちづくり を		1	2	3	4	5	6
12. 目標 12 つくる責任つかう責任		1	2	3	4	5	6
13. 目標 13 気候変動に具体的な対策を		1	2	3	4	5	6
14. 目標 14 海の豊かさを守ろう		1	2	3	4	5	6
15. 目標 15 陸の豊かさも守ろう		1	2	3	4	5	6

16. 目標 16 平和と公正をすべての人に		1	2	3	4	5	6
17. 目標 17 パートナーシップで目標を達成しよう		1	2	3	4	5	6
18. この質問では、「全く影響しない」をクリックしてください。		1	2	3	4	5	6

次に、SDGs に対するあなたの行動についてお伺いします。

3-1. 次のことは、あなたにどの程度あてはまりますか。あなたの行動に最も近いもの一つを選択してください。

	当てはまらない 全く	当てはまらない ほとんど	当てはまらない あまり	当てはまる 少し	当てはまる まあまあ	よく当てはまる
1. 私は、SDGs の目標達成のために具体的な行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
2. 私は、環境に配慮した生活行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
3. 私は、環境に配慮した食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6
4. 私は、健康的な食行動をとっている。	1	2	3	4	5	6

3-2. あなたはふだん、次のような生活行動をどのくらい実践していますか。過去 1 か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月 1~3 回	週 1~3 回	週 4~6 回	毎日 1 回	毎日 2 回以上
1. 買い物の際にレジ袋を購入する。	1	2	3	4	5	6
2. ペットボトルを購入する。	1	2	3	4	5	6
3. この質問では、「毎日 2 回以上」をクリックしてください。	1	2	3	4	5	6
4. エコマークや FSC 認証など、環境配慮の認証がある商品を購入する。 (FSC 認証：環境、社会、経済の便益に適い、きち	1	2	3	4	5	6

んと管理された森林から生産された林産物や、その他のリスクの低い林産物を使用した製品に与えられる。)						
---	--	--	--	--	--	--

	行っていない 全く	行っていない ほとんど	行っていない あまり	行っている 少し	行っている まあまあ	行っている いつも
1. 地域のルールに則って、自分が出したごみを分別する。	1	2	3	4	5	6
2. 移動時には徒歩・自転車や公共交通機関を使う。(自家用車やタクシーを使わない)	1	2	3	4	5	6
3. 古着や古本などの中古品を購入する。	1	2	3	4	5	6

3-3. あなたが普段、夏に自分の部屋で設定する冷房の温度は何度ですか？

度

○自室に冷房はない

3-4. あなたはふだん、次のような食に関する行動をどのくらい実践していますか。過去1か月程度のことを振り返ってお答えください。

	月一回未満	月1~3回	週1~3回	週4~6回	毎日1回	毎日2回以上
1. 地産地消に配慮した食品を購入・注文する。(例：国産の食品、地元産の食品、地域の特産品等)。	1	2	3	4	5	6
2. フェアトレード食品を購入する。	1	2	3	4	5	6
3. 動物福祉に配慮した食品を購入する。 【例：放牧肉や平飼い卵（放し飼い）】	1	2	3	4	5	6
4. 食品購入時に「てまえどり」をする。 (賞味期限・消費期限の近い、手前に並んでいる食品を購入すること)	1	2	3	4	5	6
5. 主食・主菜・副菜の揃った食事を食べる。	1	2	3	4	5	6
6. 家庭で調理されたものを食べる。 (家庭で調理されたもの：包丁を使って調理するものとお考え下さい。ご自身だけでなく、ご家族が調理されたものも含まれます。)	1	2	3	4	5	6
7. 野菜を食べる。	1	2	3	4	5	6
8. 牛肉を食べる。	1	2	3	4	5	6

9. 代替肉を食べる。(例：大豆ミート、昆虫等)	1	2	3	4	5	6
10. 本来食べられる食品を廃棄する。 (例：腐敗させてしまい捨てる、手を付けないまま捨てる、保存・活用できない/しない状況で食べ残す)	1	2	3	4	5	6

3-5. あなたはふだん、朝食を食べますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

- 1. ほとんど毎日食べる
- 2. 週に2~3日食べない
- 3. 週に4~5日食べない
- 4. ほとんど食べない

3-6. あなたが、これまでに次のような行動を起こした経験について、最もあてはまるもの一つを、それぞれ選択してください。

	実施したことがない	1~3回実施したことがある	4~9回実施したことがある	10回以上実施したことがある
2. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、環境保全に関するボランティア活動。(例：ゴミ拾い活動)	1	2	3	4
2. 学校の授業や仕事以外で、あなたが自主的に行う、地球温暖化防止のための何らかのメッセージ発信。	1	2	3	4
3. 国内の学習支援のボランティア活動。	1	2	3	4
4. 海外の教育支援のボランティア活動。	1	2	3	4
5. 食品ロス削減の活動やフードバンクの活動への参加。	1	2	3	4
6. 募金活動への協力。 (例：教育、紛争、災害、福祉など)	1	2	3	4
7. 使わなくなった学校用具の寄付。(国内/海外問わず) (例：ランドセル等)	1	2	3	4
8. 日本や世界の教育問題について、他者との意見交換。	1	2	3	4
9. 教育に関する話題について、主体的な情報収集(新聞やニュースから)。	1	2	3	4
10. SDGsに関するセミナーやディスカッションのイベントに主体的に参加。	1	2	3	4
11. この質問では、「何度も行ったことがある」を選択してください。	1	2	3	4
12. 防災に関わる体験学習やイベントへの参加。 (例：避難訓練)	1	2	3	4
13. いじめや不登校で学習に困難を抱えている人への支援。	1	2	3	4

3-7. あなたはふだん、周囲の人に接する時、相手を性別の枠にあてはめた発言をしてしまうことがありますか。最もあてはまるもの一つを選択してください。

(例：「男性は力仕事をしてくれ」「あなたは女なのにその短髪はおかしい」、LGBTQ を容認しないような発言等)

- 1. 全くしていない
- 2. ほとんどしていない
- 3. あまりしていない
- 4. 少ししている
- 5. たまにしている
- 4. いつもしている

4. あなたご自身が、SDGs の達成のためにできることは何だと思えますか。自由にお書きください。

SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標) とは：とは、2001 年に策定されたミレニアム開発目標 (MDGs) 別ウィンドウで開くの後継として、2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない (leave no one behind)」ことを誓っています。(出典：外務省：SDGs とは？, <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/about/index.html>)

5. インターネットを用いた調査においては、うそをついたり、質問を読まないで、いい加減な回答をしたりする方がいることが問題となっています。つきましては大変失礼なお願いですが、あなたがこの文章をきちんと読んでいるかどうかを確認させてください。あなたがこの文章をお読みになったら、以下の質問には回答せずに (つまり、どの選択肢もクリックせずに)、次のページに進んでください。

- 1. そう思う
- 2. どちらかといえばそう思う
- 3. どちらともいえない
- 4. どちらかといえばそう思わない
- 5. そう思わない

これで調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

お茶の水女子大学 SDGs 推進研究所
2022 年度 事業報告書

2023 年 3 月

発行：お茶の水女子大学 サステイナブル社会実装機構 SDGs 推進研究所

〒112-8610

東京都文京区大塚 2-1-1

Tel : 03-5978-2568

Fax: 03-5978-5766

E-mail : sdgs-office@cc.ocha.ac.jp
